

ばんえい

DRAFT.RACE

NO. 8





52帯4～5～8 2B4位ごえの10番 接戦ののち1着 (帯広市 馬淵吉見氏提供)

馬とその栄光

はるか昔から人間と馬とは緊密な関係にあった

これほど親しまれ、互に扶けあった動物はほかにない

かつて馬は重要な輸送機関だった

人間と共に戦場を駆けめぐり、苦しみ、死んだものだった

戦いが終って兵隊は帰ってきたが、馬は一頭も帰ってこなかった

馬は人間に食糧を与えるために畑を耕やしたものだだった

現在でも競馬場で、馬は人間の幸運と希望をかかえて

勝利と絶望のあいだを、秒きざみの差で走っている

会報の発刊に寄せて



北海道市営競馬協議会

会長 松本 勇

限界にきていることを痛感せざるを得ない面もあります。

このことから、施行者においては事業の運営体制を確立するため、農林省をはじめ各関係のご指導を得ながら現在四市において一部事務組合を設立すべく準備を進めているわけでありませす。

一方、最近のばんえい競馬をみますと本会が発足した当時、昭和四十三年度の四市発売額において一三億五千万円であったのが十年経過した昭和五十二年で二百億五千万円と約一四・八倍の驚異的な伸びとなっておりますが、特に近年のインフレによる総需要抑制で景気が長期にわたり低迷していることから全国の地方競馬における発売額の伸びが低率を示しているのが現状であります。

しかしながらこれらの情勢の中でばんえい競馬は、全国で依然として発売額の伸長率がトップクラスを維持していることは誠に喜ばしいこととであります。

今後においてもさらにはばんえい競馬が年々増加するファンの期待に応えるため公正確保はもちろん大衆娯楽場としての競馬運営に努力する所存でございますので関係者各位の絶大なるご指導、ご支援を心からお願い申しあげご挨拶といたします。

く感謝申しあげる次第でございます。

ばんえい競馬は、北海道の自然の中から生まれ今もなお歴史的伝統を保ちつつ年々近代化の途を歩み道民に親しまれてきている競技であります。

しかしながら近年は競馬事業もファンの増加と共に運営上複雑多様化してきている情勢の中で施行者においては常に競馬の社会的意義を自覚しながら健全娯楽のための施策を講じ推進しておりますが、現況では四市のおおの競馬事業を施行している関係上運営面において現行の体制下ではおのおのの施行者の措置としてすでに

昭和五十三年度の会報発刊にあたり謹んで皆様方のご健勝をお喜び申しあげます。

本年は、ばんえい競馬が昭和二十八年に公営競技として施行されてから満二十五年を迎えることになりましたが、この間時代の変遷と共に幾多の苦難と紆余曲折はあったが、現在では一般大衆に愛される健全レジャーとしてますます発展しその収益も地方財政をはじめ畜産振興に大きく寄与してきているところであります。これもひとえに関係者各位のご尽力の賜ものと厚

市協創立10周年と

本市の競馬

旭川市地方競馬開催執務委員長

鈴木善次郎

昭和四十三年に四市の連携協調をはかり、相携えて地方競馬の公正明朗化を推進し、健全な競馬の発展に寄与することを目的として北海道市営競馬協議会が創立以来満十年を迎えたことは、誠に同慶に堪えません。同時に四市におきましても、昭和二十八年に地方競馬の開催指定を受けて以来、今年で満二十五年、二重の喜びと感銘するとともに、改めて意義深い年であることの認識をもつものであります。

昭和四十三年の創立の年には、本市では対面着順判定写真を採用した年であります。たしか、岩見沢市では競馬場を移転新設の年であったと聞いております。以来十年間を経たわけで、その歩みのなから印象の強いものをあげてみますと、四十四年には、ガードマンの採用、四十五年には薬物検査の実施、四十六年

り、帯広市を初回とし、一七回一〇二日を実施、念願の二〇〇億円を突破、前年度比一〇三・八%の上昇の実績を残し、全国地方競馬平均一〇〇・五%を上回る好成績を収めております。

しかしながら、その舞台裏の苦労は大抵のものではないことは事実そのものであります。競馬関係者は、『馬に乗るまで牛に乗れ』の名言句を肝に命じ、すこしでも先に進むのがよいの意。最善の方法がとれなければ次善の策でもやらぬよりはよいの意味を納得するまで、日夜論議を積み重ね運営しているところでありますが、昨年の八月開催の走路異物混入のようなファンを失望させる不祥事態に直面するものであります。常に針山に身をおいて仕事をしている心境であります。それでも競馬事故が発生すれば、理由いかんにかかわらず主催者の管理運営面のミスが問われるのが常識であり、それだけに普通の職場とのハンディを克服しなければならぬ使命をもつ職場であります。

本当に大変な職場であるため、それぞれの立場でちみつまな神経をはらい、常に問題意識を同等にもち緊迫感を加えながら仕事をしているわけでありますから、その苦労も競馬関係者でなければ評価は至難であります。

十年間のプロセスを顧みますと多事多難な年ばかり越してきたその感が歴然とされます。

特に、昭和四十八年に到来したオイル

ショックの動向で、その影響の大きい大衆娯楽を直撃され、その後における長期的低迷を加えてインフレによる需要抑制などで、年々地方財政の事情も悪化、そのなかでファンサービスと信頼を得るために、寝食をわすれて競走の近代化を進めてきたところであります。列記しますと、競馬運営面では、①一部組合の組織の推進②開催執務委員の充実③きゅう舎制度の改善④きゅう舎取締の強化⑤きゅう舎配分のメリットシステム採用⑥競技面では①制裁基準の強化②番組編成の改善③競走用具の整備と改善④本走路の点検と整備⑤照明設備の増設等が挙げられます。

ご案内のとおり、市協創立十周年、同時に市営競馬施行二十五周年に当る非常に意義の重みのある年でありますので、これらを契機として道内におけるファンには当然のこと道外のファン層に対しても名実ともにばんえいここにありのイメージチェンジをはからなければならぬ、同時に平行して格調の高い運営をめざすために総力を結集し、より前進的な健全化、公正化の方向を追求していかなくてはならないと考えます。その意味ばかりではなく、今年は総合的に判断して正念場であるといえます。すべてを見直し『老いたる馬は道を忘れず』の金言を根底に、北海道市営競馬協議会の飛躍的な発展を期し、ばんえい競馬の存在を世界の競馬に育てることを願望するものであります。

押寄せる不況の波

北海道市営競馬協議会

事務局長 鈴木 一彦

近年の地方競馬は、全国的な経済不況の影響を受け、昭和四十九年をピークとして入場人員の漸減と売上の伸び悩みと
言う憂慮すべき事態が続いている中で、
ばんえい競走の売上は、昭和四十八年度
前年比一九一%を最高に、一四四%、一
一三%、一一八%と連続四年間全国のト
ップクラスの上昇率を示してきたが、押
寄せる不況の波にはばんえい競走も勝て
ず、昭和五十二年においては、念願の
二百億を突破したものの、上昇率は全国
平均の一〇〇・五%を稍上回る一〇三・八
%の一桁下位に留まり、今後いかに不況
の波を乗り切るかの正念場の年を迎えた
この低迷する中で、政府は「長沼答申」
の見直しを検討、総理府総務長官の私的
諮問機関として「公営競技問題懇談会」
を設置し、公営競技を取りまく情勢の変
化にマッチした答申に期待しているところ
であり、また、各主催は、ブロック会
議の開催による競馬運営についての意見
交換、地方競馬全国協会における改善対

策報告書の作成、地方競馬主催者協議会
の競馬運営改善に関する中間報告書の作
成等、地方競馬の窮状打開のための新企
画が次々と発表され、次年度に向かつて
本腰を入れる競馬運営体制が検討されだ
した。

一年間を顧て

本年度の市営ばんえい競走は、健全娯
楽としてファンの信頼を得べく公正確保
とばんえい近代化をモットーに努力し、
条例規則の全面改正、執行体制の強化、
調騎の分離等を図り、四月二十九日帯広
競馬で開幕、十七回、一〇二日、一〇二
〇競走を実施し、十一月十四日帯広競馬
で終了しましたが、旭川競馬において、
走路内異物混入の不祥事件が発生し、関
係者に多大のご迷惑をおかけしたこと
については深く反省自戒し、再発防止のた
め走路の監視体制に万全を期した次第で
あります。

条例規則の改正

昭和五十年年度に全国的に多発した不祥
事件に鑑み、ばんえい競走も農林省の指
示にしたがい、社会情勢の変化に即応し
た条例規則に全面改正がなされ、四月の
競馬から新条例で開催されましたが、公
正確保に関する措置に重点がおかれ、こ
れに伴う制裁基準の改正、きゅう務員の
認定制度の設置等、一段と公正確保が強
化されました。

執務体制の強化

昭和五十一年度において、本会職員を
大巾に増員（十二名）し執務体制が強化
されたところでありますが、本年度にお
いても、条例改正に伴う執務委員の増加
と長期増員計画等に基づき、さらに五名
（獣医委員、走路監視員、発走助手、総務
担当、診療所獣医師）の職員を採用し、
またガードマン増員とともに執務体制の
強化が図られました。

調騎分離

現在のばんえい競走のきゅう舎制度
は、ばんえい近代化阻害の一因となっ
ていますが、その改善の第一歩として、昭
和五十二年の騎手免許試験において調
騎完全分離を指導し、十二月一日付で調
教騎手五十一名、騎乗騎手三十七名が免
許され、調騎兼業騎手の完全排除がなさ
れましたが、今後の課題である職能完全
分離に向かって、講習会、打合せ等を通
じて、強力に指導している次第でありま
す。

電算機の導入

ファンサービスの一環として、岩見沢

競馬場に電算機が導入され、四月二十九
日の道営競馬から使用されましたが、ば
んえいファンは初の機械総合発売とオッ
ズの表示にやや戸惑い気味でありました
がすぐ順応し、お盆競馬には発走時刻の
大巾な遅れをみることもなく、一日四億
二四七万円、一期十八億四九五万円
の大記録を樹立する好成績でありまし
た。

この実績からして、他の三場において
も、ファンサービス、窓口の混雑緩和、
ばんえい競走の近代化に伴うイメージ
アップ等の面から、電算機導入の早期実
現を図りたいものであります。

競走用具等の改善

競走中の胴引またぎによる事故の防止
策として、胴引の鎖部分の短縮改善を実
施し、大巾な胴引またぎ事故の減少をみ
たことは、公正確保上画期的な改善であ
った。また、乗馬手綱の新規採用、馭者
手綱及びかじ棒の更新等競走中の事故防
止に万全を期した。

また、スターテングゲート内における
事故およびその横ばれ防止対策とし
て、ゲートに「舟」を取付け、発走関係
の事故皆無の好成績を納めたことは、特
筆すべき大改善であった。

馬産対策

本道における馬の生産頭数は依然とし
て雪崩現象が続き、昭和五十二年二月一
日現在の飼養総頭数は、四万頭を割る三
七二六五頭に減少し、軽種は一九四頭増
の横ばい状況であるが、重種（含乗馬

等)は四五二頭減の一六八八九頭に減少し、その原因は、一般農用馬の需要減少に伴う生産減と、肉資源としての供給増でなからうかと推察できる。

重種の頭数こそ減少はしているが、ばんえい競走馬については逆に増加の傾向を示し、本年度の出走申込頭数は前年比七・七%増の一〇九七頭、新馬登録頭数は二四・九%増の五八九頭に増加したことは、昭和四十八年度から本会において実施しているばんえい競走馬の生産奨励事業(約一千万円)が、競走馬生産者の生産意欲向上に結びつき、その成果の兆がみられたものであり、今後もばんえい競走馬の確保に何ら支障はないであろうと推察できるものである。

また、日本馬事協会において、現役のばんえい競走馬から「カツタイホー号」を種雄馬として買上(五百万円内本会補助一〇万円)になったが、今は亡き名種雄馬オナシス号(名馬カツタロー号、ダイニミハル号の父馬)の血統を引いた同馬の馬産改良での活躍を祈るものである。

出走馬

昭和四十九年度から実施している牝馬優遇策が功を奏し、牝馬の登録頭数も年毎に増加してきたが、特に三才および四才馬の牝馬の活躍が目立ち、一頭平均受賞額において牡馬を上回る好成績であった。

馬格の向上も目覚しく、平均馬体重量は、三才馬八四六キロ、四才以上九二八

キロで五年前に比較すれば三才馬で約五〇キロ、四才以上で約九〇キロも増加し、力とスピードの大型馬揃いの迫力ある競馬となった。

また、売買価格では、能力検査不合格で肉資源となる馬でも約七五万円で売買され、出走馬においては、最高一七〇〇万円の高馬がでる時代となった。

賞金も年々増加され、農林大臣賞典競走および旭王冠賞の二大重賞競走を最高峰とし一着賞金五〇〇万円、その他三〇〇万円、二レース、二〇〇万円七レース、一五〇万円十九レース、一〇〇〜一三〇万円十四レースの豪華番組を編成し、通算取得賞金三六七〇万円を最高に三千万円台三頭、二千万円台四頭となり、また、年間取得賞金では、ばんえい競走界初の一七三〇万円の記録馬(ニジョウホウ号)がでた。

「ムツゴロー」で有名な作家畑正憲先生が、念願のばんえい競走の馬主となり、愛馬「ムツノペア号」が三才競走で大活躍をし、また、秋には歌手の芹洋子さん(ヒット曲たそがれ)が、四才牝馬のナンパーワン「キョヒメ号」を買われて新規馬主となる等、話題の多い年であった。

騎手教育

地全協の騎手教養所において、昭和五十年代からばんえい騎手の教育を実施していただき、その教育指導の成果は精神面および競走技術面において反映されているところであり、地全協において本年度は特にばんえい競走に関し積極

的に取組んでいただき、ばんえい研究班のプロジェクトチームの編成、岩見沢競馬場においてV・T・Rによる馭法の研究、騎手教養所におけるばんえい走路の新設、研究用馬二頭の購買、競走用具の設置、また、ばんえい用騎手提要および騎手教本の編集等画期的な企画を進めていただき、ばんえい競走の将来に大きな期待が持たれているところであります。

研究用馬については、きゅう舎関係者の協力により、農林大臣賞典競走優勝馬のばんえいチャンピオンである「ニジョウホウ号」を送りこめたことは、喜ばしいニュースであった。

入場者と売得金

売得金は念願の二百億円を突破し、二百億四千万円で前年比三・八%増であったが、入場人員は四八三八〇〇人で前年比九八・六%に留まり、レジャーの多様化に伴う競馬はなれの兆しがばんえい競走にも表われ、憂慮すべき時代を迎えました。

一日平均売得金の前年対比は、旭川競馬場が全国第二位の一七・五%(全国第一位は道営札幌競馬の一・九%)と好調であり、帯広競馬も一〇七・六%と上昇してきしたが、北見競馬場では九七・七%、岩見沢競馬場で九二・八%と両場ともに春季の天候不順が災いして前年を下回る成績に終わり、年間総額においては上昇したものの内容は決して芳しいものではなかった。

一期レコードについては、旭川競馬場

は一五億八七九〇万円、帯広競馬場は一七億六一二五万円、岩見沢競馬場は一八億四九五三万円の驚異的な記録を樹立したことは、不振の中の明るいニュースであった。

また、平地競走との比較において、旭川競馬では一八一%、帯広競馬場では一二二%と大きく水をあげたことは、ばんえい競走が道民の身近な健全娯楽として広く定着したことの表われと考えられ、低迷する中にも希望が持たれる面も見受けられた。

午年を迎えて

昭和五十三年は十二年目で迎えた「競馬の年」であります。

十二年前の昭和四十一年の馬年は、道営のばんえい競走が中止となり、ばんえい競走については市営で全面開催となった年であった。また、競馬黄金時代の昭和四十年台幕あけの年でもありました。

十二年後の馬年である昭和五十三年度は、競馬法施行三十周年および「市営競馬発足二十五周年」並びに「北海道市営競馬協議会設立十周年」の三つが重なった「トリプル記念」の年であります。

この記念すべき昭和五十三年度を迎えるにあたり、吹きまくる不況の嵐を跳返し、ばんえい競走試練の年として一層の努力を傾ける所存であります。

公正確保

五十三年度のばんえい競走は公正競馬の確保に最重点をおき、不正防止対策と

して、開催四市および本会によるプロジェクトチームの「研究調査委員会」が発足しましたが、この委員会は、走路、競走用具、施設等に対するしのび寄る魔手の事前防止を図る研究調査機関として大いに期待されるものであり、一方、走路の監視体制の強化として、競馬開催の十日前からVTR2台による二十四時間警備体制を計画するなど、不祥事件防止に万全を期するところであります。

また、公正審判の盲点であった第二障害の内側からの競走監視を強化するため、第二障害専用のVTRを一台新設し、合計六台のVTRによる死角のない競走監視体制は、一段と公正確保に威力を発揮できるものと大きな期待をしている次第であります。

競馬番組

競馬の公正を確保し、ファンに興味ある新鮮な競走番組を提供することこそ競馬振興の必須要件と考えられます。

昭和五十三年度の番組編成の重点として、若令馬の重賞、特別競走の増設、最低一着賞金額の底上、平場競走の賞金格差各場均等化、条件クラスの特別競走増設等を計画しています。

北見競馬場では、初めてのケースとして農林大臣賞典競走を計画し、また、各競馬場において「市営競馬発足二十五周年記念」レースを計画し、当日はファンサービスとして記念品贈呈を予定しています。

競走馬の新陳代謝に伴う競走の新鮮化

を図るため、年令制限を十才までとし、騎手の疲労防止による競走の公正化を図るため、一日の騎乗回数を六回、連続騎乗回数を三回までに制限し、また、騎手重量を七五キロに増加して重量オーバーを一切認めない方針とした。

競走用具と機械

競走用具については年々改善に改善を重ねているところでありますが、五十三年度も胴引のかけ金部分とかじ棒後端部を全面改良し、競走中の事故完全排除を目標に努力する所存であります。また、ばんえい競走の要とも言うべき走路のコース毎の均一化を図るため、ワイドロータリーの試作および公正確保上重要な走路の防塵対策として散水機の試作等試験研究の推進を図り、年度中に完成品を製作する予定であります。馬場水分の揭示については、従来の二捨三入、〇・五％区分表示を廃止し、電光掲示板による〇・一％区分（測定時刻も同時発表）に改善し、ファンサービスに努めることにしました。

結びに

昭和五十三年度の競馬は、四月二十九日北見競馬で開幕、十七回、一〇二日を開催し、十一月十三日北見競馬で終了の予定であります。大衆に愛される公正なばんえい競馬としてなお一層の努力を重ね、ファンの期待に応える所存でございますので、関係各位の絶大なご指導ご支援をお願いする次第であります。

オセアニアの競馬

北見市役所農務課

課長 坂井清治

出発

十月一日から十四日迄の二週間、私は全国公営競馬主催者協議会から、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポールの競馬を調査する一員に推選され、三国の競馬を見て参りましたので日本との違い等を書いてみます。

前回迄この「海外競馬運営研修会」は五回に亘りアメリカを調査して来ておりましたが、今回からオセアニアの競馬を調査することになりました。

一行は地方競馬全国協会の藤原調査役を団長にして、埼玉県競馬組合青木事務局長、兵庫県園田公営競馬管理事務所副所長等十一名と通訳一名の計十二名です。そのうち北海道からは、私と、市営競馬協会の鈴木事務局長の二名です。気心のしれた鈴木局長と一緒に心強いはいえ、英語を読まなくなつて二十年、不安な心で十月一日夜九時半、関係者の方々の見送りを受け、羽田を飛び立ちました。

シドニー

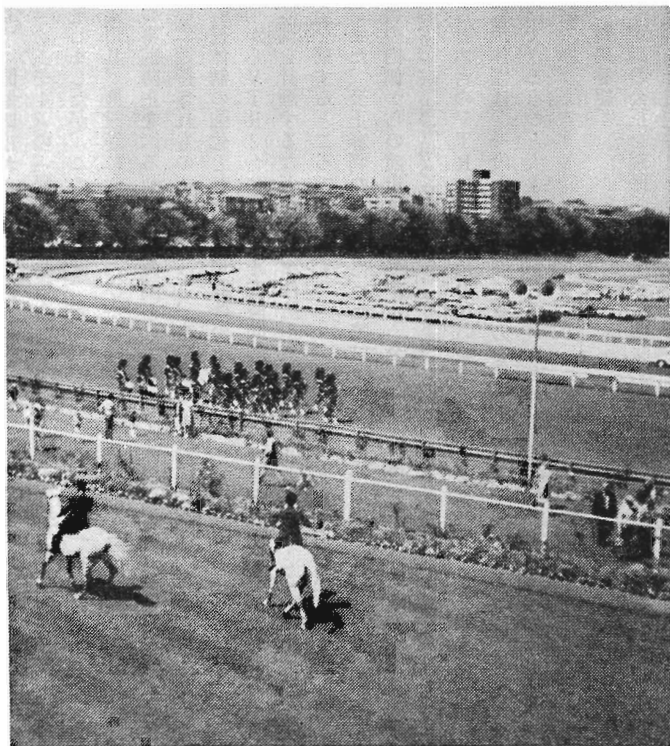
翌日、現地時間午前七時に無事シドニーに着きました。ホテルに入ると「いらっしやいませ」と日本語で書いてあったり、室には日本製のテレビ、室から見ると路上には日本製の車と日本の経済進出を見ることが出来ます。

この日は日曜日で競馬を開催してないので市内見物です。大きなハーバーブリッジや、十八年もかけて造つた「オペラハウス」の美しさに驚ろかされました。また公園の管理は非常に行き届き、バラや木々の根元には厩舎から出た堆肥が施されており、さすがに牧畜の国という感じ。牛肉は安いことは安いです。味の方は神戸牛や但馬牛に比べるとかなり劣るようです。

街を歩いていて気がついたことは、車に乗っている人がみんなシートベルトを付けていることです。運転手だけでなく助手席の人も、後部座席の人もみんなベルトを締めています。

ランドウィック競馬場

翌三日、私達はシドニー郊外にあるラ



知事賞レースのためのアトラクション
(ランドウィック競馬場)

ンドウィック競馬場を訪れました。この日は女王陛下下の祝日とかで、知事賞レースがメインに組まれ、知事夫妻も見えており入場者も三万五千人程入っていました。

この競馬場は植民地時代からあり、古城を思わせるレンガ造りのスタンド、場内の大きな木、美しい芝生、まるで絵のようです。スタンドは一般席とメンバー席に分けられており、メンバー席の中には女性専用の席もあります。メンバー席では例え食堂であってもネクタイははずしたり、上着を脱いだりはできません。女

性専用の席では、盛装した婦人が行きかいファッションショーのようです。女性客は多く、全体の約半数ぐらいいるようです。食堂では五ドル(一五〇〇円位)で好きなだけ肉を食べられ、もう一ドル出すとワインも飲めます。しかし一般席の方になると、上半身裸の青年がいたり芝生の上では子供達がラグビーのボールを相手にこれまた裸で走り回っています

日本の競馬場にもいものに「ブックメーカー」があります。これは予想屋と公認のノミ屋を合わせたようなもので、彼らは独自の馬券を売りその予想により配



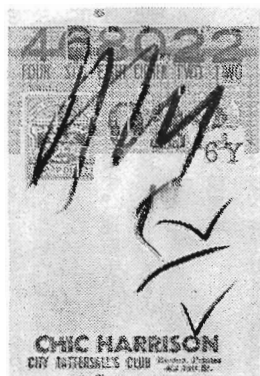
バーの片すみにある馬券売場
(ランドウィック競馬場)

当額を決めています。それが競馬場の敷地内で競馬場の馬券発売所と向き合って営業しているのです。競馬場としては彼等を排除していますが、ブックメーカーには一〇〇年の歴史があり簡単にはいかないようです。ファンもブックメーカーの方に多く集まっています。

日本では公正確保のために高い棚をファンと馬や騎手を分離していますが、ここでは一応形だけの棚はありますが、日本の競馬法でいう立入禁止個所にくらでも入って行けます。昔は日本と同じように入れないようにしていたらしいのですが、騒ぎが起きますので誰でも行けるようにしたら逆に騒ぎが無くなったそうです。日本とは国民性の違いでしょうがうらやましく思いました。

ドッグレース
その夜は「グレーハウンド」(ドッグ

ブックメーカーの馬券
特殊サインで判読不能



レース)に行きました。レースは第一レースが夜七時半発走、最終レースが十時五十五分からです。このドッグレースは勤めを終えた労働者がファンの大多数を占め、日中の競馬場のような女性も少なく華やいだ雰囲気はありません。スタンドもあまり上等とはいえませんが、一周四〇〇米の芝生のコースが明かるい照明に浮んでいるのはとてもきれいです。レースは五〇〇米から七〇〇米で行われ、一着賞金は七八〇ドルから八七〇ドル程度。目の前をすごいスピードに走り抜けるのはなかなか迫力があります。

競走馬育成牧場

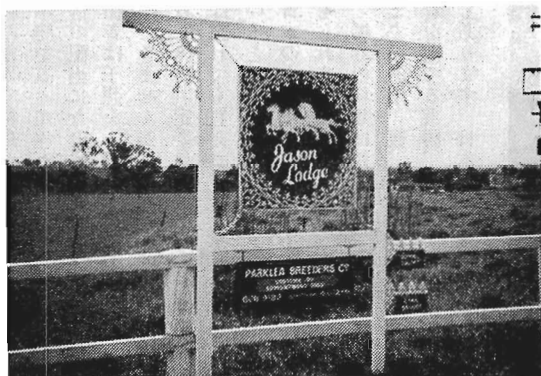
四日、我々は「ジェイソンロッヂ」という牧場を訪ねました。持主はウィリアムソンさんといい、彼は車の修理工場を営営していますが、一次産業に投資すると税金が安くなるとかで、牧場の経営を始めたとのこと。大きな住宅にブルーバレーベキュー小屋まであり、裕福そうです。ウィリアムソンさんは馬主で調

教師で牧場主でもあり、今の「ばんえい」の形態に似ています。種雄馬三頭に繁殖牝馬を五〇〇頭飼育しており、繁殖から育成までやり競走に出していません。前日の競馬で一日に二鞍も勝ち、こんなことは初めてだと大喜びしていました。住宅の近くに十二ヘクタールの繁殖を中心とした牧場のほかに、六〇〇ヘクタールもの放牧場が少し離れた所にあります。草地改良など全くやらないので牧草はお粗末です。土地は政府からヘクタール当り年七ドルで借りていて、十年位使っていると寄生虫がふえるので他へ移るのだそうです。牧草は余るので牛（ホルスタイン・アングス、ヘレフォード等）も放牧し飼っています。

TAB

とはトータリゼーター・エージエンシー・ボードの略で場外場券専門の会社です。一つの州に一つのセンターがあり、これに多数の支店が連絡しており各地の平地競馬、トロッター、ドッグレースの場外馬券を発売しているのです。しかも自分の州のだけでなく、他州や他国のレースまで取り扱っています。このニューサウスウェルズ州には五二八カ所の支店があり、これは人口八千人から一人に一方所の割合になります。レースの始まる十分前に締切り集計されますが他州のレースの場合には、その州のTABだけで集計しますから、競馬場の配当金額とは異なることになります。

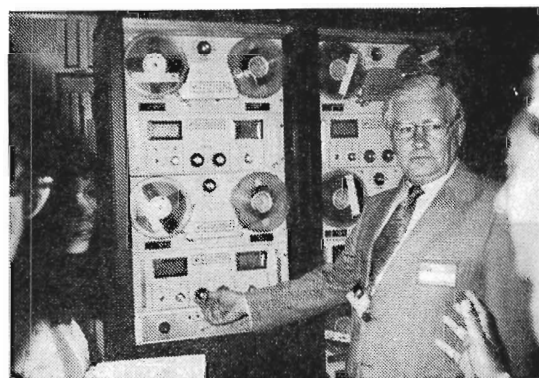
ともあれ、街の中にもある所に各種競技に賭けることができる場所があるわけで昼休みなどにチョコッと出かけることも可能なのです。また電話投票の口座を持つていれば電話一本で賭けられます。秘密の三桁の数字を云うと、コンピュータが残額を知らせてくれるので、その範囲



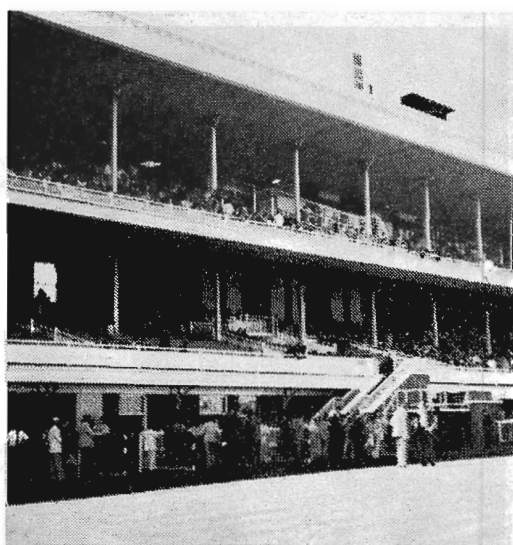
シェイソン・ロッジ牧場



ニューサウスウェルズ TAB
電話投票所



電話投票の内容をすべて録音してあるレコーダー



コーフィールド競馬場
下見所からスタンドを見る

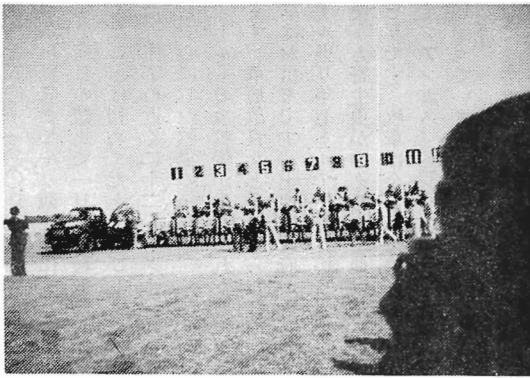
内で賭けられ、当ると自動的にその口座に振り込まれるのです。

TABが働き出してから競馬場への入場者は増えず、TABは「他人のファンドシで相撲をとっている」ようなもので、こちらの競馬場関係者は日本の中央競馬方式を羨やましがっていました。発売額を見てもブックメーカー四四%、競馬場九%、TAB四七%で競馬場が歎くのも無理のないことです。

コーフィールド競馬場（メルボルン）次に我々はメルボルンへ飛びコーフィールド競馬場を視察しました。ここはターフアマチュアクラブの主催する競馬場で、ウンドウィック同様美しい競馬場です。競馬場の所有者は女王になっておりそれを借りて競馬を開催しています。

前日メルボルンに着いた日、買物した店の主人の持馬が第四レースに出たので単勝を買ってみましたところ、見事の中し五倍の配当になりました。日本では競馬関係者は予想をしたり、馬券を購入したりはできませんが、こちらでは、最高責任者と決勝判定委員が買えないだけで、他は誰れでも買えます。しかし仕事をしているとなんかヒマはないという話です。日本のように法律で規制するよりいいかもしれません。

馬券の種類は競馬場により多少異なりますが、単、複、連の他に二レースの一着を当てる重勝、それに三重勝、四重勝もあります。日本では連勝が圧倒的ですが、



ゲートイン

馬番と枠順は同一でない

が、こちらはウィンという単勝が一番人気があるようです。

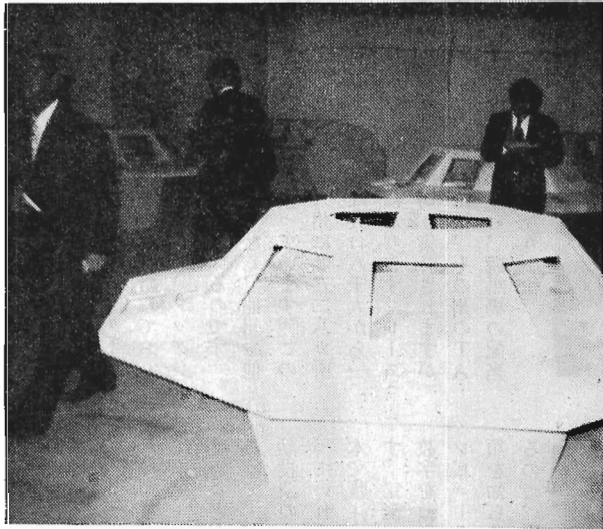
ビクトリア州TABセンター

(メルボルン)

ここは前述のニューサウスウェルズのTABより規模が大きく、今も増設工事中です。控除率は州によって異なり、また馬券の種類によっても違いがあります。例えば単勝式の控除率はニューサウスウェルズ州で十四%、ビクトリア州では十五%となっています。

ムーニーバレー競馬場

ここでは、もう日本では見られなくなった「けいが速歩(トロッター)」をやっています。トロッターのレースは夜の



TABセンター電話投票所ノデスク台の新型台(増設工事中) 出馬表が目の前の小型スクリーンに出る

開催で、遠くにメルボルンの街の灯がかがやき、白い海砂を敷きつめた一周九〇〇米の走路が明かるい照明に浮き上がって見え実に見事です。また日本でやってきた時には資源が少なく大きな距離ハンデを付けていましたが、ここでは十五頭近くが横一線でスタートし、その豪快さは他では味わえません。

オーストラリアでは平地競走は、入植が始まった頃からあつたらしいのですがトロッターはその後、ゴールドラッシュで来た人々が始めたということですが平地は金持階級の、トロッターは大衆のレクリエーション施設ということになるのだそうです。

日本では競馬法で「レースは日没まで」となっていますが、夏の夜等に開催できたらファンにも喜ばれるかもしれません。ニュージージーランドの競馬

ニュージージーランドは面積は日本と同じくらいですが人口三五十万人しかいない国です。空港では動物・植物製品の検査が特にきびしく、防疫に相当神経を使っているようです。またホテルでは牛乳が飲み放題ですがに牧畜の国です。

ニュージージーランドの競馬は、オーストラリアとほとんど同様ですが、ブックメーカーがいない点が違います。またこの国の馬券の機械発売の歴史は古く、二五年になります。TABも発達しており、



第1R 1着馬FREEDAM DAY号
2000m Time 2.41.3

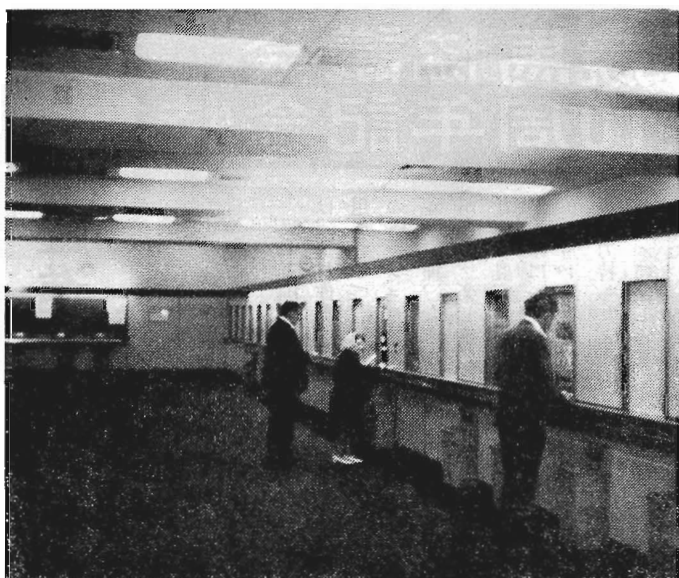
八〇〇キロ離れた所ともオンラインされています。オーストラリアと違い、国の中が州に分かれず一本になっているのでTABでも競馬場でも配当金は同じですTABに口座を持つとサイン一つでいつでも金を引き出すことができ銀行的要素もあります。TABではファンサービスを第一に考え、買う時も払戻しを受ける時も電話投票の際も、お客さんを待たせないようにどんどん機械化を進めています。

競馬場は一地区に都市部に一カ所、郡部に六カ所あり、都市部から五名、郡部

から各一名の計十一名で委員会を構成しその地区の競馬を運営しています。全国では十の地区があり、その地区から各一名の代表が出て、それに会長と副会長の十二名でニュージージーランドコンフェレンスを構成し、ここで規程等を作成しそれに従って競馬を開催しています。

シンガポール競馬場

ノンストップで十時間飛行機に乗りシンガポールに着きました。生憎インフルエンザが流行しており競馬は中止、それで施設だけ見せてもらいました。競馬場は丘陵地帯にあり周囲は熱帯の深い緑に



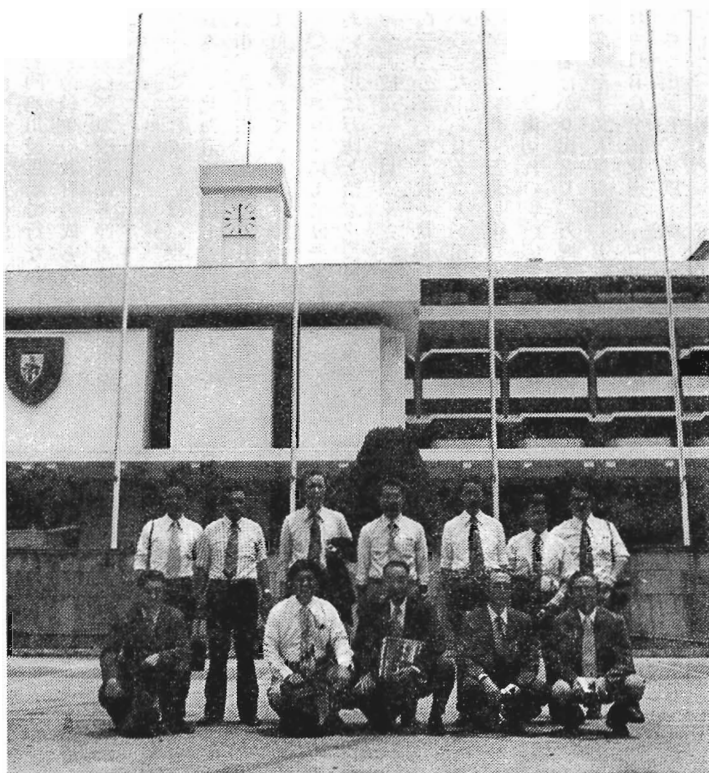
ウェリントン市TAB競馬のない日で客はチラホラ

におわれています。施設はイギリスの統治下にあつたところですから、オセアニアと大差ありませんが、会員席に大臣室、会長室、サルタン室などがあり、じゅうたんなど調度品にも差があり階級社会を思わせます。スタンドは現在増築中で出上がるると五万人収容可能とか。狭い国らしく駐車場は五階建て六千台収容できるそうです尿の検査所、騎手

学校等も併設されています。この競馬場はジョホールバルを越えた隣国マレーシアのベナン、イボ、クアラランプールの各競馬場と交流があり、場外馬券も四場間で発売しており、発売額の十%を競馬を開催しているところに支払といいますから、将来北海道の四市間で場外馬券を発売するようになったら参考になると思います。また、この四場では正規の開催日以外にプロとアマチュアの騎手が交互に乗る競馬の日があり馬券も発売しています。

プロには賞金が出ますがアマチュアには賞品しか出ないそうです。それにしても楽しそうな競馬で、ばんえいでも馬券は売らないにしても、ファン代表とプロの騎手とのレースをやってみれば面白そうです。

結び
以上三国の競馬を二週間にわたり見てきましたが、国情の違いですぐ日本で実施することは困難なこともあります、非常に有意義な旅行でした。



シンガポール競馬場にて一行12人

北海道市営競馬協議会 創立10周年記念特集

躍進するばんえい競馬

十年間の略史

馬産王国北海道には、造材作業、農耕用馬として、重量級のベルシユロン、ブルトン種、などの馬が多い。楽しみの少ない、農家の人たちが、年に一度のお祭りに「オラの馬が一番の力持ち」と馬力を競って楽しんでいました。

昭和二十三年には、道営のばんえい競馬が旭川で、公営競馬として開幕し、随時帯広、北見、岩見沢と開催しました。昭和二十八年には市営ばんえい競馬が開催出来るようになりました。当時競馬開催関係者は、百二十頭前後の競走馬を揃えるのに大変な、苦労したそうです。レース数は一日十二レースで、レースの出走頭数が、なんと十六頭、番組編成関係も又苦労をしたと思います。毎日同じ競走馬が出走できるので、番組を完成するのに競走終了後午後八時〜九時頃までかかり、そして印刷へ回すというふうにして、苦労をしたと思います。なお道営ばんえい競馬は昭和四十一年度から廃止し、ばんえいは市営のみとなりました。

北海道市営競馬協議会略史

☆昭和四十三年度

◎ 四市が一部事務組合を目ざして、北海道市営競馬協議会を設立しました。まず旭川市長五十嵐広三氏を会長とし、事務局長内田靖夫以下職員が八名で、札幌市中央区北五条西四丁目北海道労働会館五階に事務局を設置し、競馬事業専門職として、事務の総合的統一を行なってきた。

◎ 明年度の賞金アップが決定し、レース当り平均七万円余り上げ、また近代化をはかるため、現在の専門職員を新たに四名増員し、公正を強化し今使用中の馬櫓を木製から鉄製に改めるため、試作として本会職員岩崎技師が研究中で、近い将来、鉄そりの完成を期待している。さらに騎手の服装を検討など、ばんえい競馬の魅力づくりを力を入れている。

◎ 本年は開催回数十一回、売得金額一、三五一、八四〇、〇〇〇円、出走馬延頭数七、五四四頭、賞金総額四一、二八二、〇〇〇円、入場者一、一三、六三四人であった。

☆昭和四十四年度

◎ この年から馬体能力調教検査の実施、初回旭川競馬場で行なわれた。併せて、若令騎手の教育養成と鉄そりゲート（発馬機）の改善など競走技術の向上をはかった。

◎ このばんえいは、世界はもろろん日本でも北海道で旭川市、岩見沢市、帯広市、北見市、だけで五月から十一月まで行なわれている。

◎ マスコミにもてはやされた、ばんえい競馬は万博と結ぶ。(NHKより)

◎ 全国放送「北見ばんえい」を午前十一時三〇分からで、我々執務員は開催のため残念ながら見ることが出来なかった。アナウンサーと北見市の坂井係長（現在課長）の歯切れのいい応答に騎手諸氏も十名ばかり出席し、万博との二元放送があった。又人気番組「圭三訪問」にも登場HBC全国放送で、内田事務局長がゲスト出演し、老雄トキミノル号の戦歴を語る、優勝メダルを首一杯につけてカ

メラに、おさまった。

なおラジオでは、帯広市在住の中西閑松騎手、北見端野町在住の中村清信騎手が「ばんえいととも二十一年」の生活記録が放送された。

☆昭和四十五年度

◎ 今は亡き旭川市大久保吉蔵氏（元審議員）の言によれば、近年、公営競馬に対する、世論は誠にきびしいものがあり、ファン大衆の支持という大きな地盤のうえに立ち、主催者並びに関係者は、公正明朗な施行に万全を期し、よりよい運営面で改善を推進しなければならぬ。

これを見ても、わかるようにばんえい競馬に対する大衆の支持は非常に大きな増加を示しており、大衆に密着した、競馬運営を各主催者が考え、それを実施した賜ものであると語っております。

◎ 北見競馬場の移転新設工事の着手本年度は、その二年目を迎え整地を続行し、連日十数台のブルドーザが、轟音をどどろかしている。

新競馬場は、どんな姿で出現するか、完成を待たれている。

◎ 騎手帽（ヘルメットカバー）には特別に色分をし、櫓は後端にナンバプレートをつけて、目印とし写真判定の参考に明確をはかった。

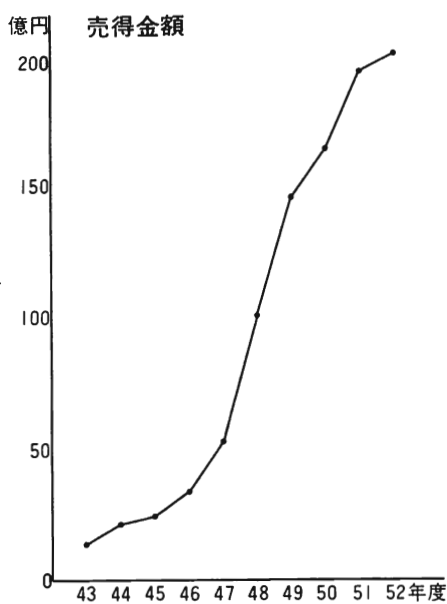
◎ 道営では、競馬改革案提出、馬券購入制限、一レースあたり（一回購入額五、〇〇〇円）を実施した。

☆昭和四十六年度

| 年度 | 日数 | 売得金額 | 1日あたり 売得金額 | 入場者 | 入場者 1日 | 1日1人当 売得金 | 賞金総額 | 出走 延頭数 | 乗騎 手数 |
|----|-----|----------------|---------------|---------|-----------|--------------|-------------|-----------|----------|
| 43 | 66 | 1,351,840,000 | 20,482,424 | 113,634 | 1,722 | 11,896 | 41,282,000 | 7,544 | 142 |
| 44 | 66 | 2,091,395,000 | 31,687,800 | 147,509 | 2,234 | 14,178 | 62,268,500 | 6,525 | 112 |
| 45 | 66 | 2,483,879,800 | 37,634,542 | 156,827 | 2,370 | 15,838 | 88,235,000 | 5,678 | 105 |
| 46 | 72 | 3,372,563,600 | 46,841,161 | 195,904 | 2,972 | 17,215 | 124,388,500 | 6,221 | 92 |
| 47 | 83 | 5,268,601,200 | 63,477,123 | 253,011 | 3,048 | 20,823 | 163,971,000 | 7,175 | 86 |
| 48 | 96 | 10,071,552,900 | 104,912,009 | 331,677 | 3,454 | 30,365 | 255,543,000 | 8,377 | 87 |
| 49 | 102 | 14,548,707,000 | 142,634,382 | 437,119 | 4,285 | 33,283 | 485,036,000 | 8,751 | 86 |
| 50 | 102 | 16,413,212,100 | 160,913,844 | 430,236 | 4,218 | 38,149 | 677,790,000 | 8,784 | 68 |
| 51 | 102 | 19,305,519,900 | 189,269,802 | 490,926 | 4,813 | 39,324 | 735,941,000 | 8,683 | 64 |
| 52 | 102 | 20,040,087,900 | 196,471,450 | 483,810 | 4,743 | 41,421 | 807,728,000 | 8,800 | 55 |

| | | | | | | |
|---|-------|------|------|------|------|-------|
| ※ | 14.82 | 9.59 | 4.26 | 2.75 | 3.48 | 19.57 |
|---|-------|------|------|------|------|-------|

※ 43年度を1.00とした場合の52年度の指数



◎ 本会も年ごとに職員が増員され、十四名となつて益々公正確保に前進して来ました。

◎ 伝染性貧血陽性馬、二十三頭を出し、各主催者側においても万全の、対策として、各支庁家畜衛生保健所より伝貧についての説明指導を各馬主、調教師等に厳重な馬管理をする事と注意があつた。

◎ 農林省畜産局長から名儀貸し

防止対策に関し、主催者が行方、調教師に対する指示事項について通達があつた。

☆昭和四十七年度

◎ 公正確保対策として改善措置を講じたわけで、その内容としては、次のとおりです。

- 1、VTRの採用
- 2、ガードマンの導入
- 3、積載物・鉄製そりの規格の統一化
- 4、発馬機(ゲート)の考案採用
- 5、馬主・調教師の名儀貸し防止
- 6、薬物検査の実施
- 7、きゅう舎管理規則の制定
- 8、きゅう舎側に対する待遇改善の実施

◎ 道営旭川競馬場において九月三日午後三時半すぎ、男の声で「観客席に爆弾をしかけた」と電話があり。さらに二十分後には「四時に爆発するゾ」この日

呼物のカマイ賞出走直前で、スタンドを埋めた、約三千人のファンは、先を争って避難した。ガランとしたスタンドに残つたのは、菓子折一つ「これかー」と旭川署員が恐る恐る、あけると中身は本物のカステラで、大変な爆弾さわぎであつた。

☆昭和四十八年度

◎ 大成功をおさめた「ばんえい」

東京進出、力感あふれるレースを披露、東京都特別区競馬協議会のご好意で、大井競馬場でアトラクションとして実施された。

◎ 馬産奨励事業の発足

生産者賞、種雄馬管理者賞、及び祭典(記念)ばん馬競走優勝馬副賞等の贈呈など、ばんえい競馬の確立を一足、一足歩みだした。

◎ HBC制作の「ばんえい」

「芸術祭優秀賞に輝やく」

脚本、倉本、聡、演出、守谷寿男、主演、小林桂樹、八千草 薫

◎ 本年は四回開催増で、十六回開催となり、売得金額一〇、〇七三、一六七、八〇〇円で前年度に対する上昇は一九一・〇六%増となり、いずれも記録的成績を示した。

☆昭和四十九年度

◎ 一月十日付(朝日新聞)「雪のばんえい競馬検討(岩見沢市)冬期間、馬を遊ばせておくのはもったいない」と岩見沢市のばんえい馬主、調教師から、雪中競馬開催をしたいとの声が上がっている

が、実現すると、岩見沢の名物になることは間違いないが、実現にはほど遠い事、しかし公営でなく、祭典ばん馬のようなことであれば実現できるかもしれない。

◎ 帯広競馬場のスタンド新築、施設の老朽化で、かねて懸案だった、新スタンドは鉄筋コンクリート三階建て、入場定員、五千人と道内地方競馬場として、最大の規模、このほか指定席もつくられるなど、(市営ばんえいでは指定席は一般席と同様に行っている)ファンにとっては魅力的な競馬場となった。

◎ 今、公正審判委員として、各レースに目を光らせているが「ばんえいは娯楽である以上にギャンブル、公正なレースが絶対不可欠の条件」という。

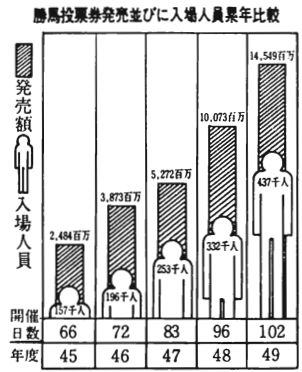
昔とったキネヅカで年一回、本会が発刊している「ばんえい」という会報に、さし絵を描く本会事務局長(現在参与)「ばんえいは北海道の土が産み出したと、よくここまで来たと思う。おかげで楽しく仕事をさせてもらった、でもそろそろ後進に道を譲ろうと考えている」と引退をほのめかす、内田さんは、青年時代の漫画から乗り換えた「夢」への情熱は、まだまだ、失われていないと言っている。

◎ ばんえい競馬が爆発的な人気を集めている。もともと力のはいる競技だが、人気が出るとばんえいサークル内に、いろいろな波紋が生じてくる。登録馬は増えるし、若い騎手志願者も

9 10 2 16 11 12 21 28

| 氏名 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------------|--------|--------|--------|
| 内田 剛夫 | 事務局長 | 事務局長 | 事務局長 | 事務局長 | 事務局長 | 事務局長 | 事務局長 | 参与 | 参与 | 参与 |
| 鈴木 一彦 | | | | | | | 次長 事務局長 | 事務局長 | 事務局長 | 事務局長 |
| 小崎 口司 | 業務課長 | 業務課長 | 業務課長 | 業務課長 | 業務課長 | 業務課長 | 庶務課長 | 専門職 | 専門職 | 専門職 |
| 角田 正義 | | 庶務課長 | 庶務課長 | 庶務課長 | 庶務課長 | 庶務課長 | | | | |
| 藤沢 博 | | | | | | | 庶務課長 | 庶務課長 | 庶務課長 | 庶務課長 |
| 大塚 尚 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 業務課長 | 業務課長 | 業務課長 |
| 室田 武司 | | | | 主事 | 主事 | 主事 | 主事 | 投票係長 | 投票係長 | 庶務第二係長 |
| 斉藤 初男 | 囃託 | 主事補 | 主事補 | 主事補 | 主事 | 主事 | 主事 | 庶務会計係長 | 庶務会計係長 | 庶務第一係長 |
| 串岡 博 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 業務第一係長 | 業務第一係長 | 業務第一係長 |
| 中村 克一 | 主事 | 主事 | 主事 | 主事 | 主事 | 主事 | 主事 | 業務第二係長 | 業務第二係長 | 業務第二係長 |
| 穴吹 孝 | 囃託 | 技師補 | 技師補 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 |
| 岩崎 善雄 | 囃託 | 技師補 | 技師補 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 | 技師 |
| 桑山 和子 | 囃託 | 主事補 | 主事補 | 主事補 | | | | | | |
| 金谷 明彦 | | | 主事 | | | | | | | |
| 浜野 信 | | | 主事補 | 主事補 | 主事補 | 主事 | 主事 | 主事 | 主事 | 主事 |
| 横井 規雄 | | | 技師補 | 技師補 | 技師補 | 技師 | 技師 | 技師 | 主事 | 主事 |
| 秋山 光雄 | | | | 主事補 | 主事補 | | | | | |
| 地部 登美枝 | | | | 主事補 | 主事補 | 主事補 | 主事補 | 主事 | 主事 | |
| 工藤 洋樹 | | | | | 主事補 | 主事補 | 技師補 | 技師 | 技師 | 技師 |
| 藤通 昌 | | | | | | 主事補 | 主事 | 主事 | 技師 | 技師 |
| 本宿 芳一 | | | | | | | 主事補 | 主事補 | 主事 | 主事 |
| 黒川 慎治 | | | | | | | | 主事補 | 主事補 | 主事 |
| 中岡 英利 | | | | | | | | 囃託 | 囃託 | 技師 |
| 香場 久雄 | | | | | | | | | 囃託 | 主事 |
| 神谷 義昭 | | | | | | | | | 囃託 | 主事 |
| 滝田 敏二 | | | | | | | | | 主事 | 主事 |
| 近藤 裕二 | | | | | | | | | 主事 | 主事 |
| 飯田 裕美 | | | | | | | | | 主事 | 主事 |
| 安藤 修二 | | | | | | | | | 主事 | 主事 |
| 渡辺 達生 | | | | | | | | | 主事 | 主事 |
| 新留 康文 | | | | | | | | | 技師 | 技師 |
| 古藤 安 | | | | | | | | | 技師 | 技師 |
| 福島 正典 | | | | | | | | | 技師 | |
| 波能 勝則 | | | | | | | | | | 技師 |
| 広田 基家 | | | | | | | | | | 主事 |
| 奥山 為男 | | | | | | | | | | 主事 |

増えるといった具合でファンも、主催者も、一段と力が入ってきている。



☆昭和五十年

ばんえい競馬は四月十四日に馬体検査及び能力調教検査など、各市担当職員、市協職員が、受検馬を厳重に審査し、二十七日からの開催に備え、岩見沢

競馬から一回増でスタートし、十七回開催の二日間をわたって、開催された。旭川市も新競馬場を建設中で上川生産連が、神居町上雨粉に工事を進めている。完

| 氏名 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東 肇 | | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 |
| 佐川 健治 | | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 |
| 広川 良太 | | | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 |
| 光石 基 | | | | | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 |
| 横田 義信 | | | | | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 |
| 和田 三郎 | | | | | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 |
| 岡田 克己 | | | | | | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 |
| 倉本 光尊 | | | | | | | 囃託 | 囃託 | 囃託 | 囃託 |
| 中村 正明 | | | | | | | | 囃託 | | |
| 畑山 鉄男 | | | | | | | | | 囃託 | 囃託 |
| 佐藤 辰雄 | | | | | | | | | 囃託 | |
| 黒田 一三 | | | | | | | | | | |
| 水木 金吾 | | | | | | | | | 囃託 | |
| 清水上 邦雄 | | | | | | | | | 囃託 | 囃託 |
| 小川 正則 | | | | | | | | | | 囃託 |
| 大井 和恵 | | | | | | | | | | 臨時 |
| 高野 邦彦 | | | | | | | | | | 囃託 |
| 桐林 義雄 | | | | | | | | | | 囃託 |
| 阿部 信男 | | | | | | | | | | 囃託 |
| 五十嵐 武衛 | | | | | | | | | | 囃託 |
| 松尾 信三 | | | | | | | | | | 囃託 |
| 吉本 勇雄 | | | | | | | | | | 囃託 |
| 山崎 礼子 | | | | | | | | | | 臨時 |

成の見込で道営競馬に間にあうよう、進めている、これで旭川が完成せば、四市競馬場が出揃うことになる。

◎ 中央競馬に殺到、不況風も拍車をかけ、岩見沢競馬場が十年ぶりに売上ダウン。

◎ ばんえい競馬の運営改善、農林省が指示、「馬主、調教師及騎手は分業」四市主催者が、早急に自治法上の一部事務組合を結成し、各市バラバラでなく、強力な単一執行体制を、整えて技術的に執務体制の万全を、はかるよう努力している。

☆昭和五十一年度

◎ 「そりと積載物一新グリーン ばんえい競馬の再出発」

本会職員岩崎技師苦心の考案で、全面改造されたそりは簡単に仕掛けが出来にくく全面空洞式で、すぐ発見されるよう工夫され又、重量物もH型鋼鉄仕上げて外部より見れば、不正があればすぐに発見が出来る仕掛けで、今春の初回から使用された。

◎ 「ニュージラードからの お客さんがやって来ました」

外国からばんえい競馬の視察に訪れたのは初めてのこと。

岩見沢競馬場のスタンド三階で執務委員長室の窓から、身を乗り出すようにレースを見つめて、競走馬が二つの障害をあえぎ、あえぎ登る姿に大いに興味をひかれ「ワンダフル」の連発、ばんえいはすばらしいと、競馬クラブ、ロボート・

シルソン氏は、感慨深い表情だったようでした。

☆昭和五十二年度

◎ 近代化を推進している、北海道市営競馬協議会は、調教師、騎手兼業をしている人は、今年限りで廃止となり、明年からは、はっきりと分業化することを決めた。

◎ 本格的に重種馬生産、賞金額も、うなぎのぼり(本会小路口専門職談)しかし数年前から、二才馬で三百万円も値がつけば、関係者の話題となったのに、その値段は急上昇し、いまや馬体さえよければ、三百万〜五百万円はザラ、今は一千万円以上もする、史上初の値が付いている馬も出てきた。

◎ STV放送恒例の第五回11PMで藤本義一司会の、ばんえい競馬が放映され、11PM杯が競われた。初回から優勝されたジョッキーが、集まり色々と対談を帯広競馬場で行なわれた。

◎ ばんえい競馬は、日本最北端の「北見シリーズ」に入る。人口七万余の都市だが、テレビを通じてしか見る、チャンスのない、この地方の人々にとって、「北見ばんえい」は一大イベントである。その競馬場には、ばんえい記念館が開館し、参考資料がてんじされている。

◎ 今年引退した、名馬「ニジョウウホウ号・ヨシイチ号」二頭が地方競馬全国協会へ、ばんえい馬として騎手教養所へ発走、騎乗技術向上の手助のため旅だっていた。

農林大臣賞典10年間の成績

| 年度 | 日・場所 | 天候 | 馬場状態 | 1着馬 性別・毛色・年令 | 騎手名 | 積載重量 そり重量 | タイム | 賞金 | 出走馬(騎手) 2着以下到着順 | 売得金額 | |
|----|-----------|----|----------|------------------|------|--------------|--------|----------|--|-------------|----------|
| | | | | | | | | | | 払戻金(連発) | 連単 |
| 43 | 8月3日・岩見沢 | 晴 | 稍重 | ト一ホクイチ 騾・青・8 | 遠藤久夫 | 850kg 140 | 5:07.3 | 万円 20 | 2トキミノル(七条)、3シャリイチ(窪内)、4サダノヤマ(中西)、5ホクエイ(置田)、6オシマトップ(岩瀬) 6頭立 | 2,482,000円 | 連単 210 |
| 44 | 10月19日・旭川 | 晴 | 軽 | ハルトカチ 騾・青・5 | 中西関松 | 1,100 140 | 6:10.6 | 50 | 2キンタロー(小柳)、3トキミノル(七条)、4タカラヤマ(高中)、5ベニアラシ(松原)、6シャリイチ(平田)、7ト一ホクイチ(山田)、8ダイニユウシン(三浦志) 8頭立 | 9,253,100円 | 連単 660 |
| 45 | 11月1日・岩見沢 | 曇 | 軽 | ハルトカチ 騾・青・6 | 中西関松 | 900 140 | 3:48.9 | 80 | 2トキミノル(上フ、山本)、3シャリイチ(木村)、4キンタロー(山田)、5キング(定塚)、6メイホウザン(片平)、7ト一ホクイチ(水上)、8ベニアラシ(松原)、9キンショ(山本俊)、10フェニックス(岩瀬) 10頭立 | 15,597,200円 | 連単 210 |
| 46 | 10月10日・旭川 | 晴 | 軽 | シャリイチ 騾・鹿・10 | 平田正一 | 850 260 | 5:50.0 | 100 | トキミノル(上フ、山本)、トヨタカ(金山)、キンショ(山本俊)、スイスイ(大友)、キンタロー(尾ヶ瀬)、ベニアラシ(松原)、パンツバメ(広富)、タカラオー(木村)、ハナタカラ(片平) 10頭立 | 16,239,900円 | 連単 180 |
| 47 | 11月3日・岩見沢 | 晴 | 軽 | シャリイチ 騾・鹿・11 | 山田勇作 | 800 260 | 3:47.5 | 120 | ジョウホウ(片平)、タカラコマ(尾ヶ瀬)、カッタロー(金山)、ダイニミナル(山本俊)、リッケイ(尾ヶ瀬)、シャリイチ(早勢)、シンハヤブサ(片平)、ヒッシュョウ(中西)、キンタカラ(岩瀬) 10頭立 | 24,433,700円 | 連単 1,030 |
| 48 | 9月2日・旭川 | 曇 | 軽 | カッタロー 騾・青・7 | 金山明彦 | 700 260 | 2:35.2 | 150 | シャリイチ(山田)、ライマンオー(上フ、山本)、ダイニミナル(水上)、タカラコマ(尾ヶ瀬)、シンハヤブサ(鬼頭)、ヒッシュョウ(中西)、タカラオー(岩瀬) 8頭立 | 34,562,400円 | 連単 600 |
| 49 | 11月3日・岩見沢 | 曇 | % 6 | ダイニミナル 雌・青・9 | 木村卓司 | 740 260 | 2:26.9 | 300 | タカラコマ(尾ヶ瀬)、カッタロー(金山)、トクオオーザ(山田)、ニジョウホウ(淵上)、パンユウハ(前原)、シャリイチ(早勢)、シンハヤブサ(片平)、ヒッシュョウ(中西)、キンタカラ(岩瀬) 10頭立 | 48,097,600円 | 連単 620 |
| 50 | 11月9日・帯広 | 雨 | % 6.5 | トクオオーザ 騾・青・8 | 山田勇作 | 760 260 | 2:29.7 | 400 | カッタロー(金山)、キング(片平)、ダイニミナル(木村)、メジロアサヒ(大野)、バラト(中西)、パンユウハ(光富)、ニジョウホウ(淵上)、ハヤツネ(林) 9頭立 | 56,240,100円 | 連単 1,030 |
| 51 | 10月24日・旭川 | 曇 | % 3.0 | ダイニミナル 雌・青・11 | 木村卓司 | 640 300 | 4:02.3 | 500 | カッタロー(金山)、トクオオーザ(山田)、ニジョウホウ(淵上)、ハヤツネ(水上)、キング(片平)、パンユウハ(光富)、ワカテンリュウ(中西)、ハヤブサ(永井)、バラト(大友) 10頭立 | 83,809,500円 | 連単 1,060 |
| 52 | 11月13日・帯広 | 晴 | % 2.5 | ニジョウホウ 騾・青・10 | 木村卓司 | 1,000 | 4:12.0 | 500 | タマキ(尾ヶ瀬)、ハクリュウ(水上)、テツワカ(片平)、パンユウハ(光富)、トクオオーザ(工藤)、カッタロー(金山)、ハヤツネ(山田)、尖裕、ハヤブサ(永井) 9頭立 | 98,369,800円 | 連単 520 |

投票所いろは

H・S 生

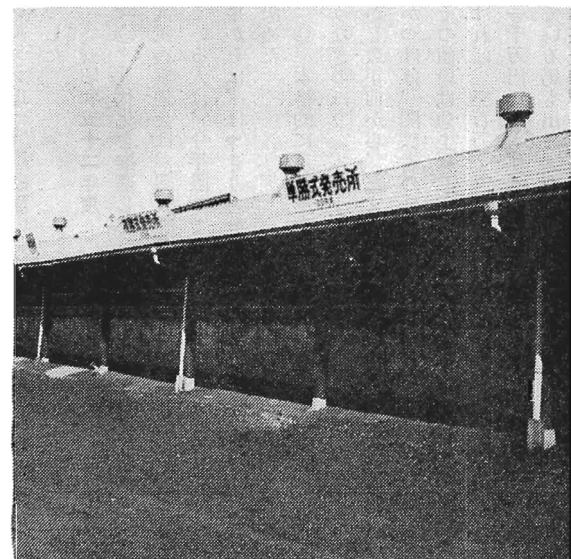
市営競馬協議会が昭和四十三年に発足して、以来十周年を迎えました。私も本会と共に十年という訳ですが、当時から今日までの投票のエピソードなどにつきまして不慣れたペンを走らせてみます。

私はなにしろ競馬そのものがまったくわからなく、また投票という専門用語についても同じでした。：

事務所勤務二カ月後六月一日を皮切りに十月二十一日（六十六日）までの出張を命ぜられ、勇躍競馬場へ乗込み、ここで最初に目に飛び込んだのはなんと金網を張りめぐらした棟であり、投票所なるものはどこへ：「後に金網については絶対必要であることが判明した」このような状態のうちに予習日となり、投票所などに従事するおばさん方（失礼）従業員が続々と出勤して来るのを見、はたしてこの大勢のなかで仕事ができるのか、なりゆき不安のうちに開催日となり第一レースがはじまった。先の予習日で従業員に先輩である投票委員が「競馬専門職」と私を紹介のため従業員より勝馬投票券に対する質問、意見が殺到し、その都度身のちぢまる思いであり、またイレズミの「お兄さん」が窓口で荒々しく怒鳴り

叫び、それと、ほろ酔機嫌の客がわけのわからないことを喚き散らし窓を叩くなど、これらについてもまったく私の知識のなかでは予期しないことで一日中ハラハラのしどおしであった。このような出来ごとが私の競馬に対する第一印象であり、仕事のはじまりであった。当時の旭川、岩見沢両競馬場の投票所の床は土間のため開催中は従業員の歩走によりデ

スクが土でザラザラになるため休催日ごとにホースで水撒をし土固めをする必要があった。それと並行して屋根の低い投票所内では炎夏の日には室内温度が上昇し、ある従業員は湿疹などができ、あちこちの片隅でベビーパウダーを叩く者がいれば、一方では気分の悪くなる従業員も出て来る、これには相手は「おばさん」とはいえ女性であり、指図「介抱」するにもいろいろと気を使ったものである。また土間であるため氷を入れたとき、お茶などをこぼしたときなどは自然な防じん処理となり誠に都合が良いものでした。当時の窓札「組番」については、最高の大きさが横十センチ、縦三十五センチの木製であり、一人で二〜三種



旧旭川競馬場投票所

類の組番窓札を掲げるため、縮切のベルが鳴ると一斉に下げられるわけですが、ある従業員はあまりに慌てるため頭、肩などへ強烈に落とし、その日は緊張のためなにも感じないようだが、帰ってから痛みが出るのではと思うくらいでした。先輩諸兄はご存じのとおり当時は担当職員が少なく日曜日などは猫の手も借りたいほどで、たとえば、一

レースの発売が終了し、二レースの発売開始のベルが鳴ってもまだ一レースの発売金を数えている従業員（窓口）が見られ、今思うとゾッとすることもありました。

——ちなみに昭和四十三年度の四市売得金額は一億五千八百八十四万円、入場人員においても一萬三千六百人で、（開催回数の違いもあるが）近年の売上と比較すると忙しさなど考えられないと思います。

その後も年をおって売上は急激な伸びを示し、それと共に各競馬場の投票所は継たし「増築」で整備拡張されました。また投票所には地方競馬全国協会より投票委員として田辺、矢野両専門職が交替で四市を回り、職員と共に業務を遂行していた。発売は特別の事情がない限り時間で縮切られるが、ある従業員は発売が開始されても一向に客をさばききれなく、その内に縮切のベルが鳴りその従業員はオロオロし顔は蒼白、客は罵声をあげとばし「バカヤロウなにモタモタしている早く売れと！」（後にデスク主任の話しである）デスク主任は私を呼び叫ぶ。私は従業員と交替に客をさばき傍で専門職が現金を整理するのであった。その頃の馬券打抜機は手動式であり初めての従業員は私はこんな重い仕事はできない変えてくれ、また他の従業員の配置換についても打抜機の担当はいやだと……これらを説得するには子供をさすとすのと同じであった。その後手動式が電動

に変わったが、一般的に女性は電気に弱く、(私も同様であるが) いざ打抜になると恐々馬券を打抜いていたが、現在では機械のよさを習得し、これらについても解消された。一方苦しみばかりでなく、従事員は朝持寄りの茶菓を職員にもおすそわけがくるときもあり、その他四季いろいろな果物の差入れなど、昼食時あるいはレースの合間に食べ世間話に花を咲かせたり、これが従事員の唯一の楽しみで、私も一時の安堵の時でもあった。このように初めての仕事はまったく予期しない波乱に明け暮れる毎日であったが、六六日間の開催も無事? 終了した。その後岩見沢市をはじめに帯広市、北見市および旭川市と新競馬場が完成し、昭和五十二年には岩見沢競馬場においてトータリセーターが採用された。その後私は何度か他府県の競馬場へ研修視察をいたしました。が、当時は本道の競馬場しか知らないため同じ競馬事務の従事者として、競馬場ごとのシステム、事務処理などについて相当の違いがあると同時に、北海道は数段劣るように思いました。近年のばんえい競馬の投票所などについては逆に他府県の競馬以上に急激な発展を見たように思います。今後においてもなお一層努力すると共に競馬運営の参考とすべきことはどんな欲に吸収しばんえい競馬向上をはかる所存であります。

薬物検査検体採取状況

検体採取所担当獣医師

広川 健 治

北海道市営競馬薬物検査検体採取成績表

| 年度 | 場所 | 開催数 | 検体の種類 | | 計 |
|------|-----|-----|--------|-------|-------|
| | | | 尿 | 唾液 | |
| 50年度 | 旭川 | 4 | 508 | 9 | 517 |
| " | 帯広 | 4 | 479 | 1 | 480 |
| " | 北見 | 4 | 478 | 4 | 482 |
| " | 岩見沢 | 5 | 592 | 12 | 604 |
| " | 合計 | 17 | 2,057 | 26 | 2,083 |
| 51年度 | 旭川 | 5 | 590 | 10 | 600 |
| " | 帯広 | 4 | 480 | 1 | 481 |
| " | 北見 | 4 | 481 | 1 | 482 |
| " | 岩見沢 | 4 | 473 | 7 | 480 |
| " | 合計 | 17 | 2,024 | 19 | 2,043 |
| 52年度 | 旭川 | 4 | 714 | 6 | 720 |
| " | 帯広 | 5 | 899 | 1 | 900 |
| " | 北見 | 4 | 717 | 2 | 719 |
| " | 岩見沢 | 4 | 717 | 2 | 719 |
| " | 合計 | 17 | 3,047 | 11 | 3,058 |
| 3年間 | 合計 | 51 | 7,128 | 56 | 7,184 |
| | % | | 99.22% | 0.78% | |

一、検体採取所要時間は発走時刻より起算し、尿においては最短七分(馬洗場において採取)最長二時間一分を要した。

二、唾液採取においては最短一時間最長二時間八分を要し

三、採尿量は二五〇cc以上三一〇ccまでとしたが二八〇cc、二九〇ccがもっとも多かった。

四、装鞍所入所後および発走直前に放尿した馬の採尿量に二〇〇cc前後のものがあった。ごくまれに、牝馬が競走中に放尿する場合がある。

注①五十年、五十一年は一レース二頭、五十二年は一レース三頭採取

②五十年旭川は土、日、祭日は一レース行なった。

③五十二年第三回岩見沢競馬三日目、

八月七日の第六レースの一着馬ラッキー号は入線直後死亡のため採取不能。

④五十二年第二回北見競馬初日、六月十九日の第九レースの二着馬カツエイ号は検体採取所内の馬洗場にて外傷を負い採取を中止。

××××
 広川さんは四十五年より八年間、検体採取所に勤務されていましたが、五十二年を最後に退職なさいました。広川さんの末永いご健康をお祈りします。

ばんえい競走とは どんな競走か (8)

内 田 靖 夫

北海道市営競馬協議会 参与
まんが うちだやすお

1 崩壊した速歩競走
昨年十一月十勝浦幌の朝日昇氏がなくなつた。氏は十勝農協連の会長、道議会議員その他多くの要職に活躍された方である、とりわけ私の思い出深いのは、戦前リュック、オルバン、ジャニューなどの各種牡馬を擁して幾多の駿足を生み、全国の速歩競走を席捲した速歩王国十勝の再興を目指して立ち上つた馬産農家を背景に、米国からトロッター種牡馬を輸

入して、その改良と増殖を図られたことであつた。私が最も感慨を深くするのは、そのように努力を傾注した速歩馬の生産事業が崩壊していく時代を背負われていたからである。かつて十勝岩手の生産者は、国营競馬の筋から三十余頭のトロッター種牡馬を導入しておつた。戦後の速歩競走は関東関西四国新潟東

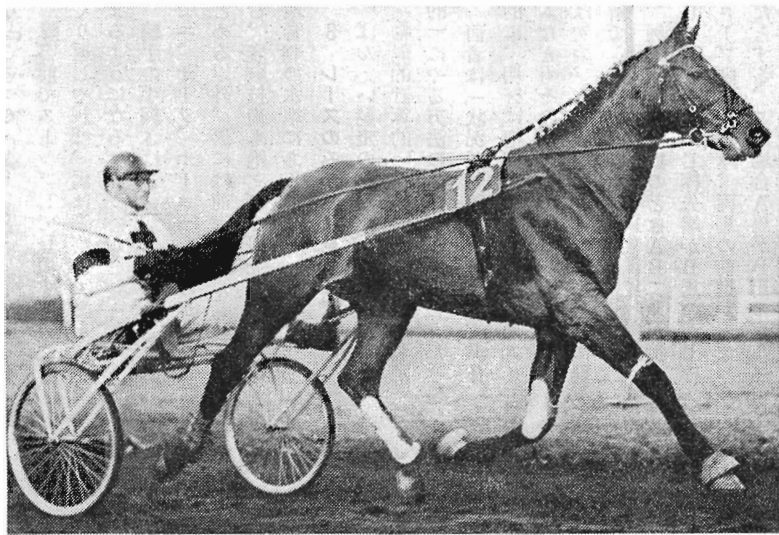


北海道の地方競馬と、京都、新潟、小倉の中央競馬で行われていた。生産者、馬主、調教師騎手など関係者が切に願望していたのは、中央競馬の速歩競走が盛んになっていくことだつた。そのために生産地からの陳情が毎年のように行われた、例えば当時道営競馬における速歩競走の賞金は中央の概ね九分の一にすぎなかつた。

十勝岩手の大きな努力にも係らず速歩競走は衰微の一途をたどり、各地の地方競馬は次々にこれを廃止した。遂に中央競馬会では巨額の廃止補償を抛出して廃止するにいたつた。

柱と頼む中央の廃止により速歩競走は総崩れとなつていった、最後に残つたのは生産地の北海道と岩手であつたが、道は昭和四十五年を最後にこれを廃止した、私も十勝岩手の陳情団の人達と一緒に何回も上京して農林省、中央競馬会を訪ねたことがあつた、当時の副理事長は鈴木一氏、資源担当理事は小林正芳氏、業務部長は一寸お名前を忘れたが、朝日さんは挨拶が終つた途端、いきなり大声をはり上げて中央の消極的態度をなじり、速歩競走の増加優遇を要願され、生産者の犠牲をなんとするかと激しく譴刺された、私はいつもしろの方で朝日さんの気迫に感動しつつも、受ける側にも同情しておつた、その頃私達道営競馬担当者は既に速歩は廃止すべきだとの考えがあつたからだ。

またある時は速歩の勃興を期して設立



したトロッター協会の役員会で、会長大石武一氏が怒って退席するという一幕もあった。その日は愈々中央が廃止案を持つてくるという日であった。

中央からは池内理事がこられ、大体の構想が出て愈々中央も廃止する方針とわかった。

なぜ中央も地方も速歩を廃止することになったのか、私達が接した人達が異口同音にいわれることは

「審判がむずかしい」ということであった。その上馬が少なく能力が離れすぎているということである。

当時中央では速歩競走をやるときは、馬一頭について一人の審判係員をつけた、三十頭出れば三十人の係員が必要だったのである。

先ず歩法審判がむずかしい、馬の能力の差が大きく距離ハンデをつけなければならぬ、うまいハンデがつけられない、追ってるか追っていないかが判りにくいのだから、うまいハンデをつけることは不可能なのである。

兵庫県の顔であったM氏など「速歩即八百長」といつていた。

いつか姫路競馬を見に行ったとき、けい駕速歩競走が二レース行われていたが、馬はゴール前から一団となって接戦を演ずる、これはみんなが「いきたくない」連中で一団になってしまふのだと説明された、タイムは各馬の持ちタイムに近く、馬の追い方をみて、「やらない追い方」とも見えない。

常に全力を出してベストコンディションを保持するよりも、八分の力で走らせたほうが、平均タイムを保持

することが容易だという論法である。

鞭を使うことはできても、ゴール近くでこれをやると、はぐつて「駆步入線」となり失格するから使わないという、使えともいわれない。

速歩競走の多くは正しいレースであつたらうが八百長をやつても審判員がわからないとなれば、このレースを存続することはできない。

米国や濠州ではけい駕速歩が盛んだが、能力が伯仲していて、差があるとしても〇・一〇・二秒位だという、そのように微差であれば、ハンデキャップは必要がないモビルスターティングゲートで疾走しながら一斉スタートが切れる。

日本では一ハロンで二秒位の差がある馬が一緒に走るのだから問題にならない、中央では最終的に十八・五秒以内の馬と制限したが、それでも速い馬は十七秒台だったから、その差は一秒以上あった、審判技術に自信を失ったとき、その競走を廃止するのは当然である。

このことは今始めて書くのではない、創刊以来毎号のようにふれてきたことである。

2 ばんえいは大丈夫

競馬法では平地、速歩、障害、ばんえい四種の競走が規定されているが、現在地方競馬では平地とばんえいしか行われていない、四つの競走中、平地競走は判りやすいといわれている。

その理由は馬の一番速い走法であるから、騎手はきめられた距離を最も速いタ

イムで走破すればよく、馬を追う騎乗法も、直接馬にまたがって、手綱、脚座、脚、むちを使って、乗り手の意志を馬に伝えることができ、人と馬の動きが合致しているからだと思う。だから全能力を出しているかどうかは、専門家にはよく判る。

障害競走は障害飛越の騎乗法が加わるが、ほとんどが平地を疾走するので判り易いとされている。

ばんえいは速歩と同じように馬の口からはるか後方に位置して、手綱一本で操作するむずかしさはあるが、速歩と異なり、歩法の制限がなく、どんな歩法で追つても差支えがない、そこに根本的な相違があるのである。

ばんえいは頗る重いものをひかせて走るレースである、うまく審判委員の眼をごまかして、自由自在に負けたり勝ったりすることが果してできるか、うまく負けても、うまく勝つことは容易でない、機械ならば人間の意志によって自由に動くが、馬はそうはいかない、馬の意志、その日の体調というものがある、特にばんえいは人力などではビクともしない重いそりを引いて、深い砂の上をいくレースである。

超々弩級の魔力をもった馬でも現われれば別だが、勝ちたいときに勝つなどは、そう簡単にやれるものでない。

激しい調教は負けることを訓練しているのではない、ばんえいの調教は前へ前へとより早く、より先きに飛ばしていく

方法でやっている。

障害前でストップして登坂する方法をくり返しやれば、馬は障害前で必らずとまるようになる。

騎手の手綱さばき、「どうどう、だア、でエ、オーラ、オーヨ」などのかけ声でとめる以外、馬には前進前進を教えこむ、審判技術も絶えざる研究で、既に平地審判の水準にある。

3 レースのみかた私見

ばんえい競走のみかた（観察法）には「物理的計算的」な方法と「肉眼的判定的」にやる方法のふたつがあるようだ。

前者は「状況が物理的、計算的、具体的に、明確に把握できるもの、所要タイムなどもそのひとつであり、調教師騎手は勿論、その状態はファンにも容易に理解できるもの」である。

例えば障害登坂のときA B二頭が接近して、A馬のかじ棒先端がB馬のかじ棒ロープ内に突込み、両馬の前進がとまったとする、この場合A馬がB馬のコースに侵入しておれば、A馬は不当であるし、B馬がA馬のコースに侵入しておれば、たとえA馬のかじ棒突込みによる事故でもB馬が不当である。

B馬のAコース侵入の度合いにもよるが、いかにB馬が侵入してきてもA馬の騎手は接触、かじ棒突込み前進不能の重大事故はさけるべきかもしれない。

A自身も前進不能になるのだから故意にこんなことはできない。

このような事例が稀におきる、全くの



技術による判断法であって、その最も主な適用は全能力を発揮しているかどうかの判断である。

能力不発揮は俗に「八百長」といわれる不正で、規定違反のうちでも破廉恥行為といふべきものであり、前者がミスの、不本意的、偶発的、不可抗力的或いは他動的に発生するのがほとんどであるのに対し、これは騎手の意志によって行なわれる故意の不正であるから、その断定には熟練と自信と強固な意志が必要となる。

もしその断定に誤りがあればその与える迷惑ははかりしれないものがある。

昔は理由もいわずにいきなり申渡し、質問にも答えなかったそうだし、又見た

こともあるが、現代には通用しない。

その判定が間違っていないかどうかを確かめ得るものは、当人の肯定であるがそれを引き出すことは容易でない、ただ疑問に対するこたえに乱れがあったり、腑に落ちない点が出てきたりする、

不正を計画し実行したときは故意といえるが、不正な目的でなくうっかり、又はやむなく全能力不発揮をやってしまう場合がある。

☆ 馬が他のコースにきれたり、斜行するのを矯正しようとしたとき、

☆ 左右の馬が前方にてん倒、侵入してきて進路をふさがれてしまったとき、

☆ 落そりしたときは、その地点に引返して再騎乗しなければならないが、左



偶然であって故意にやろうとしても、できない事故である、すぐはずれる場合もあるし、簡単にはずれない場合もある。委員はその状況をたしかめて、どちらにミスがあるかをきめる、これはひとつの例である。

後者の「肉眼的判定的」観察方法とは、公正審判委員、走路観視委員の個人

右に後続馬がいれば、その進路を妨害することになり直ちに迂回できない。

☆ 関係者以外の者が走路に侵入したり、物を投げたりしてレースを妨害したとき。

☆ 他馬との距離がありすぎ、追わなくとも独走のような状態で衆勝の場合、等々である、規定には「正当な理由がないのに馬の全能力を発揮させなかつたとき」とあり、以上のような場合は、これに該当するが、次のような場合は同情すべき点はあるが、必ずしも正当とはいえない。

☆ どん尻で障害をこえてみると、先行馬はみなゴールインしてしまつていゝる、ファンも相手にしてくれず、ついレースを投げて馬なりにつかまつてくる場合である。

ばんえい能力の観察方法は、騎手個々の駆法動作で判断するのが一般的である。このことに自信を持ったのはばんえい専門になって二年目の昭和四十四年である、一年目の私はただ判定法の模索に没頭していた。偶然あるレースで疑問がおきた。

残念なことに疑問をもつたのは、そのレースに限って一人だけであつたが、翌日八人ばかりが秘かにそのことについていざこざがあつたと、告げてきたりして裏付けができ、最後に当人の肯定を得た。

私達はその研究を更に進めた、その方法の妥当性については全国協会川村公正

委員や、東京で開いたばんえい研究会でも賛成というより「当然」という結論を得た。

このことについては昭和四十七年六月帯広で行なわれた第四回目の審判研究会において、研究事項として詳細検討された。

当時集録された事例を項目別にしてみると、

能力関係十七、発走関係十、進路関係八、下そり落そう関係六、馬装関係二十、指示違反四、馬場内事故七、規律関係三、計七十五となつてゐる、その後の五年間に新事例も発生している。

普通競馬ではあらかじめ各馬の持ちタイムをきめておいて、そのタイムの差が三秒以上あると能力変動とか、支障として出走を停止する措置をとつてゐる。

これは前記のいわゆる「物理的計算的」審判法に属するものだが、ばんえいではそのような規制が多くある。

三着馬から大差のある馬、第一障害でストップした馬、障害でよじれる癖のある馬、突然ストップしてなかなか進まない馬、第二障害以外でとめた騎手などが規制の対象となつてゐる。

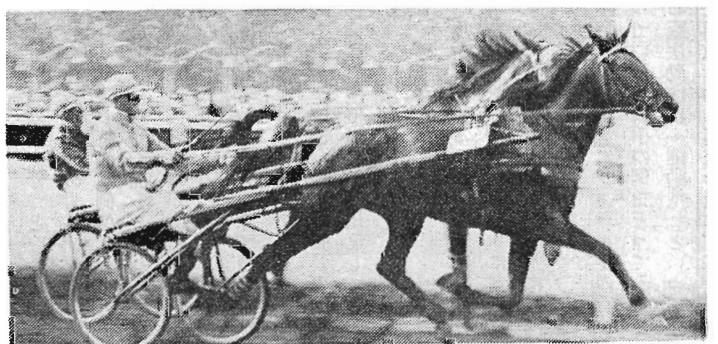
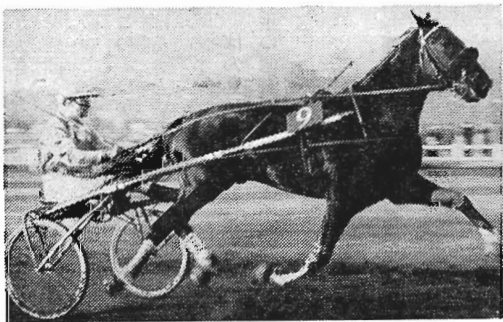
このような措置は各馬の成績を克明に記録しておれば事務は容易である、受ける側も既に約束されていることであるから、その措置はあらかじめ予知できる。

これは能力不同による一般への迷惑や不正の予防としてやるものだが、むしろその効果は弱者排除にある、故にこれは

制裁でなく保安措置といふべきものと思ふ、他馬にくらべかけ離れた能力や癖のあるものは競走の公正上うまくないとしてゐるものである。

4 全体の走法

ばんえいレースを観察するためには概ね全体の走法を知つておく必要がある、これは本誌創刊号第十一頁にもあるとおり、スタートから第一障害をこえるまではスタミナの最も充実しているときだから駆でふつ飛ぶ、それから第二障害前で息入れするまではあまり無理をしない、第二障害登坂開始からゴールまでは全力追込む、というのがばんえいの大まかな走法であるが、雨天軽馬場ではスタートからゴールまでノーストップで飛び、晴天重馬場の特別重い重量競走では既に第一障害で息を入れ、仮りにノーストップ



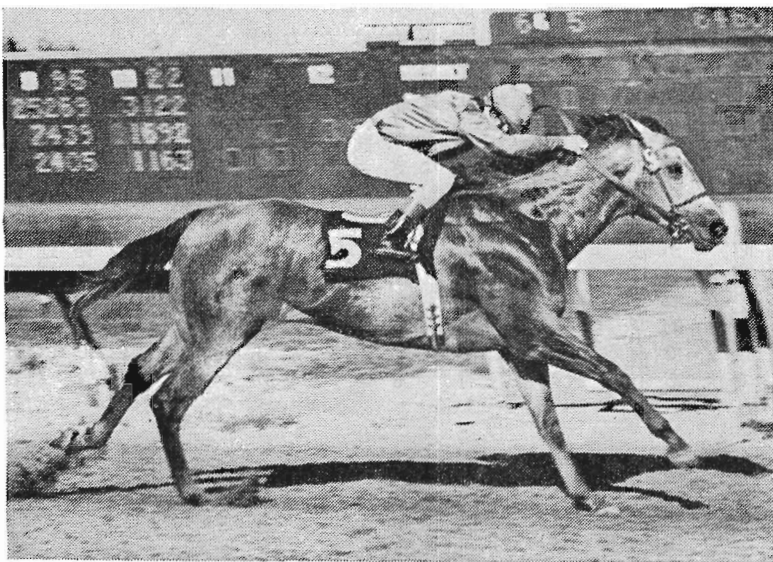
受けハミの速歩

でこえても、その以後に何回もストップをくりかえすことになる。

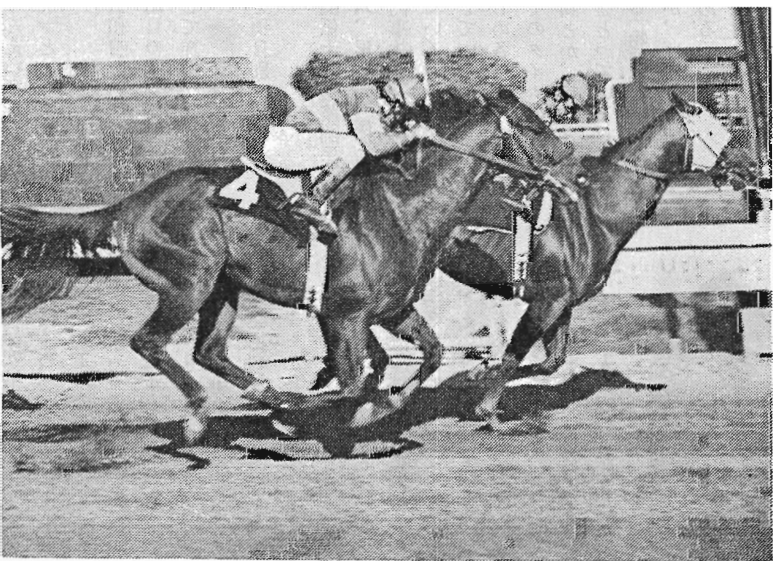
5 速歩競走との比較

これも本誌第三号に詳述しているが、「馬が全力で走るときは駆歩になる、速歩はその一步手前の歩様で、駆歩にならないようにある程度セーブしたポーズをとる、そのため全能力を出していかがどうかの判定がむずかしい」

そのほか歩法の制限が多く、五〇以上上駆歩をしたもの、五回以上駆歩したものの、一回でも有利な駆歩をしたもの、斜



伸張期のハミ受け



浮揚期のハミ受け

対で走る馬が側対で走ったとき、その反対のとき、後駆歩で走ったとき、それらの歩様でゴールに入ったとき、すべて失格となり審判員は歩法審判に先ず神経をすりへらす、ばんえいは歩法の制限がない、(馬の歩法には駆歩、速歩、常歩の三種類がある)

6 平地競走との比較

平地競走の歩法には規定上の制限はないが、馬の最も速い駆歩の競走であるか

ら、もし異常もないのに速歩や常歩で走らせたら、ほかの規定で処分され追放されるだろう

通常スタートダッシュのあと百メートル二百メートルでひかえ目にし、他馬との関係を考慮しつつ、時には歩度を早めたり押さえたり、好位置につけ適当な距離(俗に三分三厘というあたり)から仕掛、追い込むという戦法をとる、この場合仕掛けてから追込むときの騎乗ぶりは

動作が大きく、誰でもよくわかるが、向正面を一团となって走っているときの操は微妙であつて素人にはよく判りかねる、この「ひかえる、ためる、おさえる、ひっぱる」ということは、ばんえいの「とめる、とまる」と全く同じである。

7 ばんえい独自の馭法動作

騎手の個有馭法動作は不思議なほど変化がない、若い連中は馴れるに従つて機敏になつていき、年配になると少々鈍化

してくる傾向があるが、そのような変化がみられるのはごく僅かで、基本的な特徴ある動きは何年たつてもほとんど変化がない。

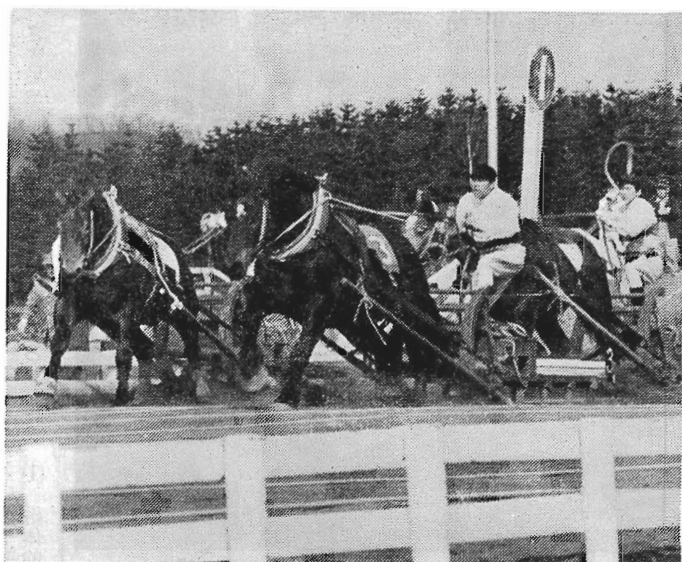
一体このような動きが馭法上効果があるのかどうか、動きのないことで著明なH調教師は「羈の上であんな踊りをやつたつて馬は動くものか」といい、十年程前ある先生は「いくら動いたつて、なんにもならない」といって私達を慌てさせた。

しかし北大のK教授は「顔の側面についている馬の眼は前後左右三六〇度全部見えるから効果十分」といい、陸軍獣医学学校の獣校教授第十六号「馬学」二九頁、視覚、馬眼の特徴―側位、視野大にして全水平面を一度に視ることを得」以下略、とあり当然効果があることを示している。

昭和四十八年三月東京で催しをばんえい研究会には農林省地方班長以下係官、地方競馬全国協会担当部長及専門役員団体、主催者職員が出席して行われたが、「馭法動作はばんえいの副扶助」として確認された。

馬を操作するのに最も重要なのは、騎手の意志を馬に伝えるハミに、接続する手綱で、ときにはむちがわりになつて馬の前進を促すべん打となる。

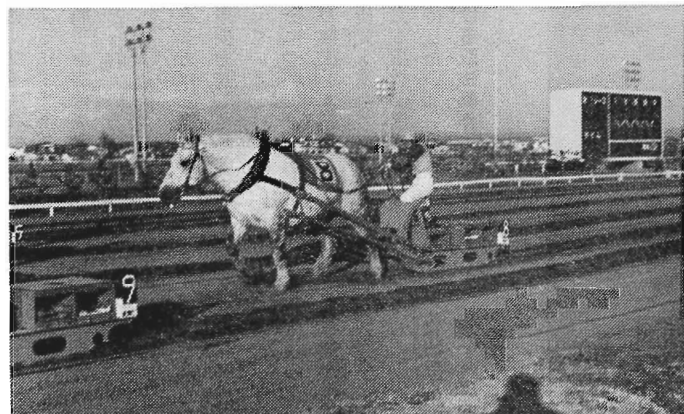
毎年リーディングジョッキーの首位となつているK騎手の例をとつてみると、彼の馭法動作は「躍動型」といって、左脚で前重量物上に立ち上り、右脚は桁上の



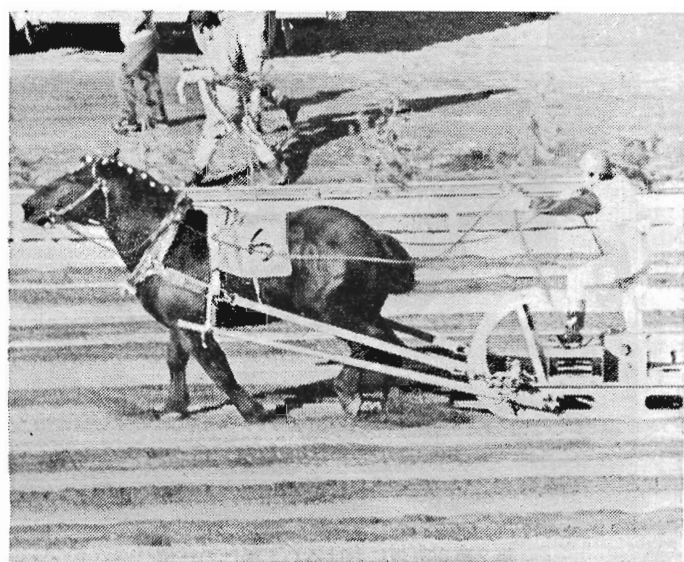
第1障害直後 駢歩におけるハミ受け

踏盤を離れて空間にはね上り、両手を高く挙揚するや、忽ち急降下して、上体を屈曲し或いは前後し、左右して機敏に動く、馬は耳を後方に向けてたまげるように動く、べん打するときは前脚が伸び切るまで後退し、右に上体をひねり、べん打の弧線を大きくして前方に急進、前傾してハッソと打ち下ろす、このような大きな動作の中でハミは適度に保持され、馬は騎手の意志をよく受けている。
 同君はN調教師の弟子だったが、その馭法は師匠と対象的である。
 ハミ受けは「スタートから第一障害を

時など、とまってもうだらうという人もいる。
 ばんえい最高の農林大臣賞を五年二年と二年連覇したK騎手の馭法動作は頗る特徴がある。
 その動きは前後に大きく、左右に動くが全体の動作は頗る緩徐である、それが十年一日の如く変ら



追込み、常歩におけるハミ受け



こえるまでの駢歩の場合と、障害ごえの場合のほかは必ずしも緊張していることはない、平地速歩における「ハミがかかっている」状態に見える。
 ばんえいのハミ受けは違うのである、もし平地速歩のようなハミ受けをやったら、最後の追込みの

ない、そのような動作の中で、リズムに合ったべん打が入り、ハミ受けは適度に保持され、馬はよくその命令に服して素直に動く、ゆるやかな中に適度のハミ受け、手綱さばきが充分に効果をあげ、馬との意気が合うのである。
 騎手達は平坦コースをゆくとき、たろんでいる手綱をチョイとひき、或いはグンとシャクって、馬に前進を促し、スピードをあげるように命ずる。
 このシャクリは前進命令としてやる場合と方向操作としてやる場合がある。
 各騎手の固有動作を丹念に記録し頭に

入れる、五十二年は五十六名いた騎手も調騎分離で五十三年は三十七名になった。
 きめられた騎手の乗馭ポーズはきき足（利足と書く、動作のよくだる足）を橋の桁にある踏盤（スパーメダル）上におき、膝を中重量物の側面にあて、もう一方の足をハナ木支柱にある足かけか、前重量物上におく。
 ほとんどの騎手のきき足は右脚だが、三十七名のうち五十二年騎乗者三十三名のきき足を見ると、右手右脚二六、右手左脚三、左手左脚一、右手両脚三であっ

た。

前方脚のおき場所をみると

☆ 前重量物におくもの 二三名

重量物上に立ちただかってべん打の効果をあげ、馬に威勢を示す場合に有効といわれ、躍動型騎手のほとんどはこれである。

☆ 足かけ上におくもの、一〇名

この方法でも激しく動くことは可能である。

このほか乗取における基本姿勢には個有のポーズ（直立、そり身、前傾、肩張りかまえ等）と絶対的な動き（躍動型急動型等）などがある。

きき足や基本姿勢は、その体型をとっ



最後の直線における方向操作

ていないときは不利な追い方をしている

わけで、特別の理由があるはずである。

レースにおいては各騎手個有の姿勢と

特徴ある動作が充分にとられているかを注視し、要すればこれを記録する。

個々の特徴を詳記することは膨大にわたるので省略し、その概要を誌してみるのが、勿論すべてを網羅しているわけではない、特にばんえい取法については全国協会において昨年来その技法をまとめられ、併せて実馬による研究も進めておられるので、いずれ権威ある指針が出るものと思われ、それに期待したい。

8 平坦コースにおける取法動作

(1) 総体的な動き

(2) 上体の動き

(3) 脚の動き

(4) 腕の動き

(5) べん打

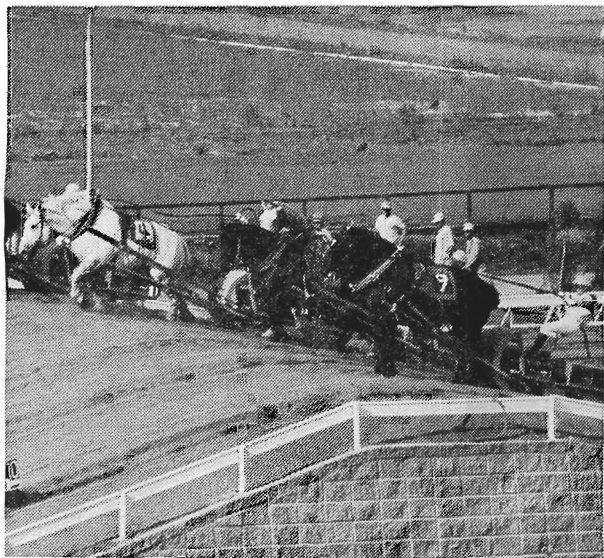
各騎手の動作は以上のいくつかが合成したものである、馬の動きは常にリズム的だから、よくそのリズムに乗っていないければならない。

(1) 総体的な動き

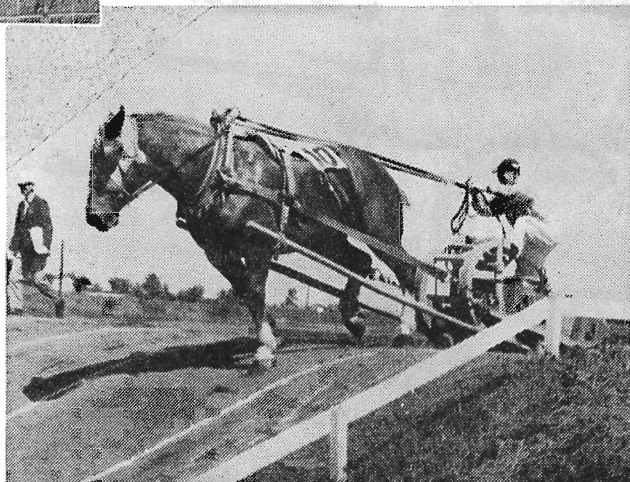
(一) 躍動型（躍る如く激しく動く）

(二) 急動型（動作が活発なもの）

(三) 揺動型（揺れ動くよ



第2障害の登坂、手前は収縮前進法



第2障害降坂におけるハミ受けの一例

四 うに大きく前後左右する）
振動型、震動型、電動型、（小

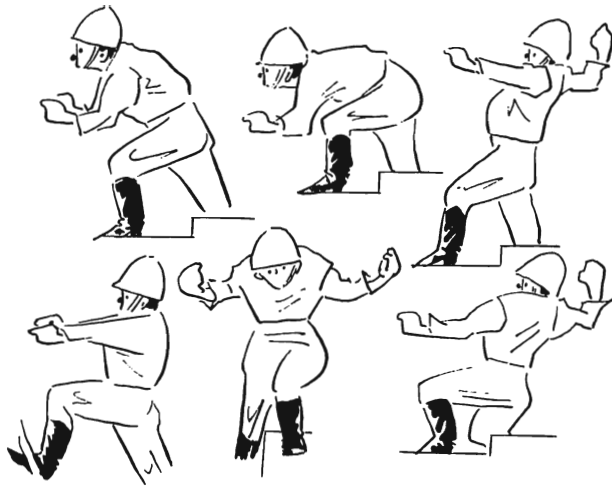
刻みに上下に動く一分間八〇〜九〇回位、更に小さく俗に貧乏ゆすりという程度、腕を断続的にピリピリッと動かし上体もその影響で動く）

(四) 小動型（動きが少なく平凡）

(五) 微動型（かすかに動く）

騎手個有の総動的動作であって、動きが小さいからといって、追っていないとはいえない。

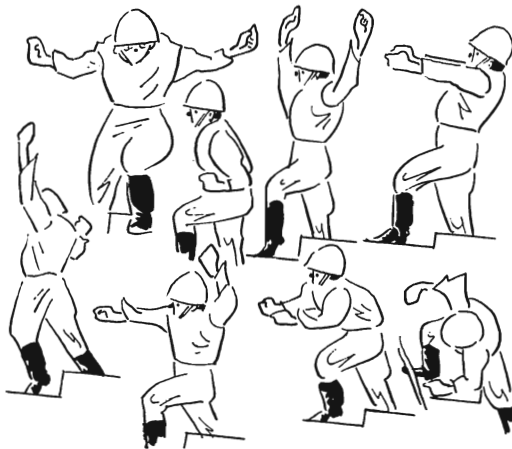
(2) 上体の動き（前傾、直立、そり身、肩かまえ、低姿勢）



上体の動きの例



脚の動きの例



腕の動きの例

左右動、左右傾、上下動、上下反動
 (乗馬の軽速歩の如く反動をとる上
 下) 屈伸(上に伸び、下にかがむ)
 前後動、ピストン前後動、前傾前
 後、前倒前後、前深前後、かくれ追
 い(馬の眼にかくれるように前方に
 深くかがむ) 腰動押し出し(はげし
 く又は緩徐に腰部を前後し、あとか
 も橋を押し出すよう)

(3) 脚の動き

揚脚(足あげ、桁上のきき足を上下
 して、べん打の効果あげ、馬に威

(4) 腕(手、手綱)

勢を示して前進を促す)
 前後屈伸(両脚特に前方脚を後方に
 伸張し、急進屈曲してべん打の効果
 をあげる)
 替え脚(足かえ、左右両脚の位置を
 反対に替える、急にかまえを変えて
 馬に前進を促す)
 つり下げ脚(揚脚を持続するもの
 で、高位置から馬に威勢を示す)

違する瞬間的ハミあてである、両手
 綱又は片手綱の場合があり、その時
 の状況によって急緩強弱がある)
 両手又は片手前方かまえ、
 単純上下動、万才又は片手万才上下
 動、開腕(両手を大きく左右にかま
 える) 開閉動(両腕を左右に開閉す
 る)
 後方かまえ。前後動(両手を前方に
 伸ばし、上体前又は後下方にもつて
 くる、駈歩取法に多くみる)
 くれる、ゆるめる、ひかえる、おさ

(5) べん打(手綱打ち)

左又は右べん打、左又は右連打(斜
 上方から打ちおろす)
 左右間欠べん打(間をおいて打つ)
 左又は右強べん(足あげ大上段から
 える、あをり(あをるよう上下下
 する) 手ふり(ひらひらと忙しく手先
 をふる) つかまっている(馬なり、
 ある位置にかまえ、静止して馬の動
 きにまかせ) ハナ木につかまる
 (一方の手をハナ木におきべん打の
 遠方効果をあげる)



べん打の例

前倒して切下げるようなべん打)
 左又は右ヨコむち(横からの稍水平打)
 短むち、長むち、両手むち(べん打に際し片方の手を添える)
 ふりむち(空間に振りべん打を予感させる、見せむちである)ソリむち(見せむちの一種で、槓を打ち併せて音響効果もあげる)
 あをりむち(べん打禁止時代に行なわれた方法で、長い手綱をあおるように上下し、或いは左右両手綱を一緒にして、斜上方から馬体を打つ)

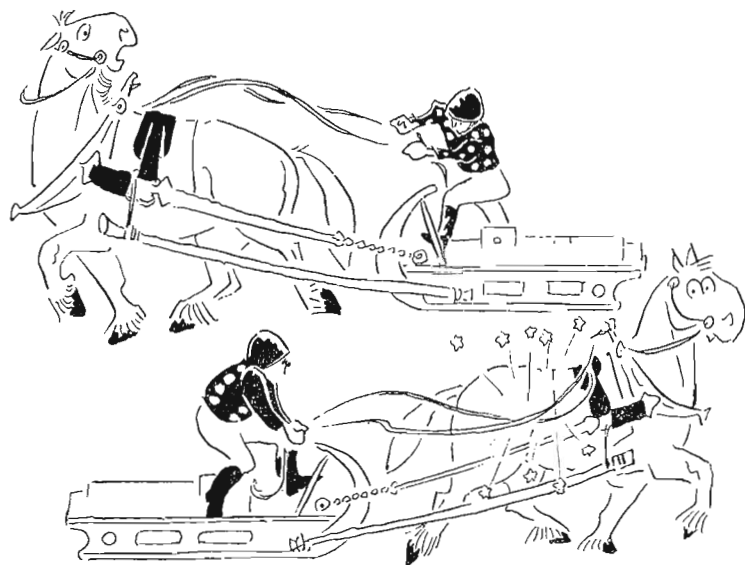
かつぎむち(背負いむちともいう、馬に対し打つぞというかまえて、べん打を予感させ前進を促す)
 動物に危害を加えようとすると、多くは反抗して歯をむいて向ってくる、馬も同様にやたらに打てば怒って命令に服しない、ばんえいにおけるべん打は、稍もするとハミを保持する手綱を遊ばせてしまい、最も大事なハミ操作をおろそかにし、或いは制約して馬を迷わせる、尤もこれは初心者の話だが。
 上記に列挙した一連の「見せむち」はばんえい馭法のひとつであって、全能力発揮について必ずしもべん打がすべてではないことを示す。

- 9 第二障害登坂における馭法動作
- (1) 停止動作(しめる、ひく、ひかえる、押える)
 - (一) 障害下の停止位置をきめて、やや強めに手綱をしめる。
 - (二) 馬なりにして、馬がとまるのに合せて僅かに静かに手綱をしめる。
 - (三) 馬なりにいくところまで登らせ馬の意志に合せ僅かに手綱をしめる。
 - (四) あわよくばとまらずに、こえようとべん打して追うが馬がとまる。
 - (五) 馬は登坂意欲旺盛だが、力を温存するため強く手綱をしめる、この場合馬の意志に反抗するので、馬の口は硬く騎手は上体を後方に倒す。
 - (六) 一旦とめた馬が逸りに逸って自走するのを手綱を強くひいてとめる。
 - (七) 特に重い重量、急坂の場合には障害の手前遠くに停止させ、平坦コースから一気に登坂させていくか、又は再び障害下でとめて息を入れる。
- 動作
- (一) 収縮前進法 最も多く行われ、最も効果のある登坂馭法である、馬を充分に収縮後退させ胴引をたるませ、一気に突進して瞬間腕力を爆発させ前進する方法である。貨物列車が停車



登坂ぎよ法の例

するとき、全車輛を圧縮させて発車の際の引き出しを容易にする方法と同じである。
 この方法には大中小があり
 ◎大とは騎手が後方にのけぞるようハミをシャクリつけて引っぱり、馬を充分に後退させて、急に挙手前傾してパッと手綱をくれる方法をいい
 ◎中とは腕だけで充分引きつけ、サッと手綱をくれる方法
 ◎小とは腕だけをリズム的に前後させる方法で、チャカチャン方式といった感じである。



手綱によるあおり打ちの例

(二) 自走 馬みずから前進を始めるもの、騎手は馬の意志に沿ってつかまってい、いわゆる「馬なり」でいくか、或いは馬の前進意欲を扶けて動作し、前進を続けるよう指示する。

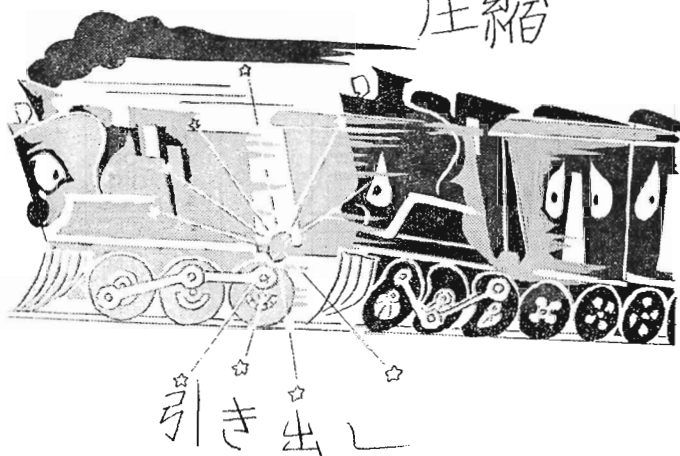
(三) シャクリ シャクリを入れて前進を促す。

(四) 腕の挙揚 急激に両手を前上方に挙揚して前進を促す方法で登坂馭法中最も多く見られる動作である。

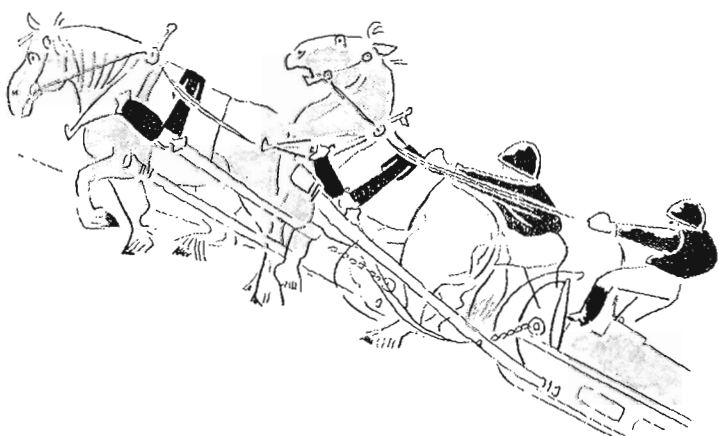
その程度により大中小があり、上体の動きもこれに伴行する。

手の上げ方も頭上にあげるもの、左右にひらいてあげるものがあるが、稀にはや

圧縮



引き出し



収縮前進法

や水平に、或いは下方に下げる者もいる。

(五) 替え脚、かつぎむち、これは平坦コースの場合と同様「サーフ行け」の意志表示、気配、かまえてある。

(六) ベン打 ベ

の動作と併用するのが多いが、単にいきなりベン打するものもいる。

ベン打は全体の登坂馭法からみると少ないものである、出走馬の半数以上がむちなしで発進する。

(七) しめる、ひく、ひらく 左右いずれかの手綱を強くひき、又はひらくものは方向操作の場合である、両手綱を同程度に強くしめていくのは膝つきてん倒を防止するため

のハミ受けである。

いかに馬の前進意欲をかきたたせ、前進又前進を続行させるかは、ばんえい馭法の最高技術である。

馬は速く疾走する天性はあるが、重い物をひく本能はない、ひたすらに調教し、仕込むことよって人間の造りあげた重ばん馬の豪力をひき出すのである、それを強制し強引にひき出すか、だましあやして引き出すかは、馭法の真髓が人馬一体、人と馬の心のふれ合いであるのを思えば、おのずから明白であろう。

初回停止からひとつの動作で一氣にこえていくもの、騎手の動きがある毎に必

らず反応して「少しでも」進んでいくもの、これを一寸引きというが、いずれも素直で馬と騎手の気合と技術が、完全に一致している状態である。

昨年帯広の農林大臣賞を制覇したニジヨウホウは一千キの重量で、模範的ともいえる一寸引きで第二障害を、一分十九秒かかって第一番に突破した、登坂途中で停止した回数も十七回である。障害下で息入れ停止した時間は二十六秒であった。

10 第二障害における停止と通過タイムの計測について

スタートライン後方にVTRが三台据えつけられ、第二障害登坂の状況がづぶさに見られるようになってから、この障害通過時間を計測するようになったが、五十一年の成績については前号で詳しく報告した。

引続き昨五十二年もこの計測を続行したが、兩年の調査結果を比較すると「表1」のとおりである、それを更に集計したものが「表2」である。

◎ 五十二年の停止タイム計測頭数が増となり、計測せずが減となっているのは、前年と異なり、五十二年は当初から時計二ヶで全馬を計測したためである。

◎ ノーストップ頭数が減となり、停止した頭数が増となったのは、岩見沢を除く各場の走路構造が変り、重くなったためと思われる。

◎ 特に五、九秒以内においては前年六五、九二%に対し七〇、六六%となり

(表1) 第2障害停止通過タイム計測比較表

| 区 分 年 次 | 停 止 | | | | 区 分 年 次 | 通 過 | | | | 摘 要 |
|-------------|-------|-------------------|-----------|-------------------|-------------|-------|-------------------|-------|-------------------|--|
| | 51 | | 52 | | | 51 | | 52 | | |
| タ イ ム | タイム | % | タイム | % | タ イ ム | タイム | % | タイム | % | |
| N O S T O P | 1,626 | 22.73 | 1,079 | 12.38 | N O S T O P | 1,626 | 18.88 | 1,079 | 12.38 | 51 VTR回線故障及び停電18 砂煙による可視不能 49 競走中止、除外 2 時計1コのため 1,460 計 1,588 29 |
| 1秒未満 | 369 | 65.92 (4,716頭) | 525 | 70.66 (6,155頭) | 10秒未満 | 191 | 75.12 (6,470頭) | 151 | 79.56 (6,931頭) | 52 砂煙による可視不能 84 競走中止、除外 4 計 88 |
| 1秒台～1.9秒台 | 1,378 | | 1,533 | | 10秒台～14秒台 | 769 | | 681 | | |
| 2～2.9 | 1,146 | | 1,416 | | 15～19 | 1,113 | | 1,147 | | |
| 3～3.9 | 841 | | 1,169 | | 20～29 | 1,941 | | 2,181 | | |
| 4～4.9 | 556 | | 890 | | 30～39 | 1,326 | | 1,423 | | |
| 5～5.9 | 426 | 622 | 40～49 | 711 | 833 | | | | | |
| 6～6.9 | 266 | 11.17 (799頭) | 437 | 15.86 (1,382頭) | 50～59 | 419 | 5.65 (487頭) | 515 | 7.58 (660頭) | 通過タイム 39秒台以内 51年 5,340頭 (61.99%) 52年 5,583頭 (64.08%) |
| 7～7.9 | 172 | | 296 | | 1.00～1.09 | 192 | | 277 | | |
| 8～8.9 | 143 | | 228 | | 1.10～1.19 | 126 | | 173 | | |
| 9～9.9 | 89 | | 146 | | 1.20～1.29 | 89 | | 103 | | |
| 10～10.9 | 66 | | 110 | | 1.30～1.39 | 42 | | 63 | | |
| 11～11.9 | 30 | | 68 | | 1.40～1.49 | 22 | | 21 | | |
| 12～12.9 | 18 | | 57 | | 1.50～1.59 | 16 | | 23 | | |
| 13～13.9 | 15 | | 40 | | 2.00～2.09 | 9 | | 11 | | |
| 14～14.9 | 2 | | 33 | | 2.10～2.19 | 7 | | 9 | | |
| 15～15.9 | 2 | | 20 | | 2.20～2.29 | 3 | | 3 | | |
| 16～16.9 | 3 | | 16 | | 2.30～2.39 | 3 | | 2 | | |
| 17～17.9 | 1 | | 6 | | 2.40～2.49 | 2 | | 4 | | |
| 18～18.9 | 1 | | 6 | | 2.50～2.59 | 4 | | 4 | | |
| 19～19.9 | 3 | 3 | 3.00～3.09 | 3 | 2 | | | | | |
| 20～20.9 | 3 | 3 | 3.10～3.19 | 2 | 2 | | | | | |
| 21～21.9 | 2 | 2 | 3.20～3.29 | 1 | 1 | | | | | |
| 22～22.9 | 1 | 2 | 3.30～3.39 | 2 | 2 | | | | | |
| 23～23.9 | 2 | 2 | 3.40～3.49 | 1 | 2 | | | | | |
| 26～ | 1 | 1 | 3.50～3.59 | 1 | 1 | | | | | |
| 28～ | 1 | 1 | 4.00以上 | 1 | 1 | | | | | |
| 39～ | 1 | 1 | | | | | | | | |
| 45～ | 1 | 1 | | | | | | | | |
| 計 | 7,154 | 100 | 8,712 | 100 | 計 | 8,614 | | 8,712 | | |
| 計測せず | 1,529 | | 88 | | 計測せず | 69 | | 88 | | |
| 出走頭数 | 8,683 | | 8,800 | | 出走頭数 | 8,683 | | 8,800 | | |

(表2) 第2障害停止タイム計測比較集計表

| | 51 年 | 52 年 | 前 年 比 |
|-----------|----------------|----------------|-----------------|
| 出 走 頭 数 | 8,683 | 8,800 | 117 (1.01%増) |
| 走 測 頭 数 | 5,528 | 7,633 | 1,105 (13.81%増) |
| 計 測 頭 数 | 1,529 | 88 | 1,441 (94.24%減) |
| No STOP | 1,626 (22.73%) | 1,079 (12.38%) | 547 (10.35%増) |
| 停止 5.9秒以内 | 4,716 (65.92%) | 6,155 (70.66%) | 1,439 (4.74%増) |
| " 13.9 " | 799 (11.17%) | 1,382 (15.86%) | 583 (4.69%増) |
| " 14.0 以上 | 13 (0.18%) | 96 (1.10%) | 86 (0.92%増) |

とおりである。

◎ この表によれば、いずれも前年に比しタイムがかかっているが、停止タイムに比較すると、前年に対する増率は低く並行していない、馬場構造の変化に対応して、各馬は休息タイムを多くとり、通過タイムをかせかないようにつとめた結果のようにみえる。

11 より速く、より先きに

四、七四%の増を示し、以下停止タイムを多くとった馬の頭数が増加している。

◎ これは「ばんえいのタイム」の長短は、馬場構造によることが大きく影響していることを示すものである。

通過タイム計測表の数字を更に集計すると「表3」の

(表3) 第2障害通過タイム計測比較集計表

| | 51年 | 52年 | 前年比 |
|---------|----------------|----------------|-------------|
| 59秒台以内 | 6,470 (75.12%) | 6,931 (79.56%) | 461 (4.44増) |
| 1分59秒以内 | 487 (5.65%) | 600 (7.58%) | 173 (1.93%) |
| 2分00秒以上 | 31 (0.35%) | 42 (0.48%) | 11 (0.13%) |

(表4) 1着馬の第2障害到達順位調

| 場所 | 順位 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 計 | 1着% | 3着以内 | |
|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|---|---|----|-----|-------|------|-------|
| | | 頭数 | % | 頭数 | % | | | | | | | | | | |
| 旭川 | 93 | 46 | 26 | 20 | 11 | 5 | 4 | 3 | | | | 208 | 44.71 | 165 | 79.32 |
| 帯広 | 102 | 59 | 26 | 19 | 10 | 7 | 1 | 2 | 1 | | | 227 | 45.55 | 187 | 82.37 |
| 北見 | 69 | 39 | 24 | 19 | 14 | 7 | 6 | 6 | 1 | | | 185 | 37.29 | 132 | 71.34 |
| 岩見沢 | 119 | 58 | 35 | 11 | 6 | 4 | 3 | 2 | | | | 238 | 50.00 | 212 | 89.07 |
| 計 | 387 | 202 | 111 | 69 | 41 | 23 | 14 | 13 | 2 | | | 858 | 44.64 | 696 | 81.12 |

(表5) 1着馬の第2障害通過順位調

| 場所 | 順位 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 計 | 1着% | 3着以内 | |
|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|---|---|----|-----|-------|------|-------|
| | | 頭数 | % | 頭数 | % | | | | | | | | | | |
| 旭川 | 87 | 45 | 30 | 17 | 11 | 6 | 6 | 5 | 1 | 1 | | 209 | 41.6 | 162 | 77.51 |
| 帯広 | 99 | 61 | 26 | 19 | 12 | 6 | 1 | 2 | 1 | | | 227 | 43.6 | 186 | 81.93 |
| 北見 | 59 | 41 | 23 | 24 | 13 | 10 | 5 | 8 | 2 | | | 185 | 31.9 | 123 | 66.48 |
| 岩見沢 | 119 | 58 | 35 | 13 | 6 | 4 | 3 | 2 | | | | 240 | 49.6 | 212 | 88.33 |
| 計 | 364 | 205 | 114 | 73 | 42 | 26 | 15 | 17 | 4 | 1 | | 861 | 42.28 | 683 | 79.33 |

前号でばんえいの走法は「より速く、より先きに」先頭争いで終始する、いわゆる先行策戦が多いと書いたが、昨五年の八六一レースについて、第二障害に到達したときの順位と一着馬の関係(表4)と、この障害をこえたときの順位と一着馬の関係(表5)を調べてみた。

年間一〇二〇レースが行なわれたのが、見なかった日もあるのだ。減となっている。表4によれば第二障害に第一番に到達して、一着となった馬は二八三頭で、全体の四四・六%三着以内で到達して一着となった馬は六九六頭八一・〇%で早く到達した馬が一着となる場合が多いことを示し、同じく一着となった馬がこの障害をこえた順位をみると、第一番にこえた馬は

四二・二%、三番目以内でこえた馬は八〇・〇%となっており、前記到達順位とはほぼ同じである、やはり先きに第二障害に到達し、先きにこえたものが先頭群になる。これは普通競馬の追込み戦法、三分三厘あたりで仕掛けるまで、所謂我慢していき、ためて、ひかえていき、最後の直線を全力で追込む戦法と異なり、始めから飛ばしていき先行戦法が多いと思われる。厩舎側では「近頃はとまることに規制が多いので調教もその方針に合わせ、レースもそうなる」といっているが、単純にそうなのか、いろいろな面から研究してみる必要がある。

例えば一番早くこえたもの、こえたものがそのまま一着となったのは全体の約半数で、二、三番目にきたもの、こえたもので一着となったのは約三〇%、あとの約二〇%は四番目以下で第二障害に到達し、四番目以下でこの障害をこえ、一着となったものである。この表で推察すれば約半数の馬は最後の直線で着順が変わり接戦か混戦を演じたものと思われる。

二年間第二障害における停止と通過のタイムを計測しつつ登坂駈法をつぶさに観察してみたが、結論として得たもののうち、タイムによる判定としては、通過時間が三十秒以内のものは、一回の扶助動作でこえたものが多く、いわゆる感度良好の馬で何等疑問の余地がないといえる、以下三十一秒三十二、三三秒となっていくが、一線をひくとすれば三十秒以内ということになる。

もし何等かの工作を行えば、このタイム以内で通過することは不可能であると考えられるからである。

そのほかつまづき転倒を防止するため、馬が前進することに強く引き、停止をくり返す、それが同じ馬同じ騎手で、ある日突然そのような駈法が行なわれた場合、その都度事情を聴取してみたが、否と断定するまでには到らなかった。

十五秒以上も息入れ停止した馬は九十六頭もいたが(前年十三頭)、ほとんどが高重量のレースであって、その停止が不当であると断定するにはいたらなかった。これらは今後尚研究をつづける必要がある。

レース内容、レース展開、馬場、水分負担重量などを、なお詳細に調べてみなければ結論は出ない。

さてそろそろ終りとしよう。

一生懸命書いたのだが、考えていたことの三分の一しか書けなかったような気もするし、また一人よがりのつまらぬことをながながと書いたような気もして、汗の流れる思いである。

ばんえい競走とはどんな競走かそれは、巨大な重ばん馬が重いそりをひいて、奮進してくる競走である。

農村出身の人達が、騎手服に身をかためて、息はずませ、激しい闘志を内に燃やし、たくみに手綱をあやつってくる。

ばんえいとは一言にいえば、温順で豪力無双の巨馬が、私を陶醉させ、魅了しつくした北国の豪快なスポーツであり、大地の躍動ともみえた。(おわり)

マスコミに取り上げられた

ばんえい

本年はウマ年ということもあり、昨年末には本会にも例年になく多くの新聞社雑誌社の方が見え、年頭に際し「馬」のことが多数取り上げられました。近年、農業の機械化にともない農耕馬が極端に減少し、馬という競走馬を指すことが多くなってきたようです。このような情勢の中で、ばんえい競馬が、重種馬の減少の歯止めとなれば幸いです。

昨年は旭川において走路に油性の何か撒かれるという事件があり、マスコミにもかなり厳しい批判を受けました。われわれ競馬関係者も、この問題を深く反省し、走路監視体制をもう一度根本から練り直し、新しい体制で対応していきます。さて例年のとおりマスコミに取り上げられた「ばんえい」とその関連記事を紹介します。

1 四月一日 HBC TV

HBCは開局記念放送として開局以来の傑作番組を特集して放送したが、昭和四十八年、国が行なう芸術祭に出品して優秀賞を獲得した、倉本総原作脚本、小林桂樹、八千草薫主演で同局報道部が製作した「ばんえい」(一時間)を四月一日に再放送した。

これは初老の一吏員が人生の終末期に生きていくわびしさを、美しい北海道の風景と壮重な音楽の中で、かつてのばんえい競馬常勝の老雄タイセツが敗残していく姿を背景に描いている。

解説者の小樽商大教授は「映画もテレビも観賞芸術であるが、ばんえいは素朴

な重ばん馬と北海道の美しい風景を織りまぜて、素晴らしい画と情感を盛り上げその効果を挙げている。最近チョット珍らしい佳作」とベタほめ。これで四回目の放送である。

2 四月四日 日刊スポーツ

ミハルの後継争い

農林大臣賞を二回制覇した不世出の名牝とうたわれたダイニミハルの後継馬はどれかを競うシーズンを前にして論評する。道営競馬のメインレース道営記念、日程なども合わせての紹介記事。

3 五月四日~二十一日 毎日新聞

「ほっかいどう細見」という欄にそれぞれ「脱サラ」「八百長」「カン詰」「調教」「ヘアフ」「大穴」「和尚馬主」「支える人」という副題がつけられ八回連載。

井上定範さん(五〇)は、地方公務員をやめ、木村厩舎に飛び込んだ。定年まで待ったら体が動かなくなると思い親類中の反対を押し切った。

ばんえいは止まるから八百長くさいという人がいる。止まるということは平地という「ためる」と同じで、それについては問題ない。騎手のテクニクから不正を見極めるのは難しいが、不正がでける余地はほとんどないという本会参与の話。

木村騎手、中西調教師両夫人を主人公に、外部と遮断され、転居を強いられつつも、気さくな人柄、明かるい生活ぶりを紹介する。

木村調教師の昔の苦勞話、調騎分離に

より騎手として活躍できるのはこの年までという中西調教師。両調教師の馬に対するやさしさと厳しさ。

ばんえい競走馬の種類の話と馬券を当てるのが難しいという話。

池田町慈教寺の野村弘信和尚が馬主厩務員として、お寺の仕事そっちのけで馬の世話をしている様子。

トラクターに追われ馬の数は三十六年の約八%の四千七百四十八頭に激減。

4 五月六日 NHK TV

スタジオー〇二

十勝の野に草をはむ農ばん馬とその仔を、春のおとずれとして紹介する。

清澄な小川の流れに水芭蕉が咲き、春陽がさんさんと降りそそぐ。ばんえい大型馬と土産馬は光に酔っているように動かない。

5 五月十一日 UHB TV

「三時のあなた」に農耕馬

美深から仁宇市へ入る美幸線というのがある。一日に五往復の列車が通る日本一の赤字線だ。窓外に北海道らしい広大な原野と畑地が展開する中に、今では珍しいプラウ農耕にはげむ馬が見える。司会の司葉子さんがびっくりしたように「アラ、馬が働いています」と目をみはる。

6 五月十九日刊 アサヒ芸能

開幕ミカのダービー「鞍曳競馬

巻頭グラビアに五ページにわたり、調教やレースを迫力ある写真で紹介する。

畑正憲氏のパンパの魅力についての文も

掲載。

7 五月二十四日 H T B T V

モーニングショー「日本のお婆さん」

馬と暮す岩手県盛岡在の館野はつさん
九十二才を紹介する。

馬は粟粕毛、二十四歳の農耕馬ホッケイ号で、さつさんが嫁入りしてくるとき連れてきた馬の孫にあたる。はつさんは今も元気でホッケイ号を山の放牧場へ連れて行ったり、青草を刈ってやったりする。岩手県特有の茅葺農家に今もいるりがある。「私は馬と一緒に働いた。冷害もあり、凶作もあったが、いつもホッケイが助けてくれた。ホッケイの仔を売って私達は貧乏に耐えた。どんなに貧しくても娘を売らずにすんだ。愚痴もいわずにホッケイは仔を生み働いてくれた。



いまホッケイは老令でやせこけ後軀は毛もむしくれたつてい
る。今は孫と暮しているがワッ
は死ぬまで馬と暮すんだ」とは
つさんはいう。

8 六月一日 N H K T V

ニュース北海道

恵庭土産馬保存会の会員九人
が、愛馬の土産馬にうちまたが
つて標高五三〇米の藻岩山に登
る。細い山道を山頂目指して約
三十分、無事頂上をきわめる。
今後も毎年続けるのだと意気軒
昂。

9 六月三日 報知新聞

華麗に変身近代ばんば

競馬評論家前田量平氏のばん
えい騎手観。最近優勝も派手にな
り、ねじりはち巻きに長ぐつイメージ
はなくなったこと。昭和二十年生まれ
の騎手の台頭が目立つこと。ばんばの場
合馬と騎手が離れた位置にいるため、特
殊な熟練された技術を要求されることな
どを解説している。

10 六月四日 H B C T V

特別番組「北見のばんえい競馬」

H B C 北見放送局では六月十日北見は
んえい競馬の開幕を前にして特別番組
「ばんえい」を組み、六月四日午前十一
時から三十分間放送した。

出演はホクレンの堀内技師、北見市の
坂井農務課長、馬事会役員坂口氏の三人。
北見競馬の歴史、ばんえいの見どころ、

馬産改良などの話を競馬場やばんえい競
走、北見産馬を見せながら語り合った。

11 六月五日 東京12チャンネル

東京12チャンネルから関東一円で放映
された、ばんえい競馬リーディングジョ
ッキー金山騎手の「馬と私」

12 七月六日 N H K T V

この日スタジオ一〇二で岩城市の「砂
馬車」を紹介する。



岩城市の砂浜に働く三〇頭の砂馬車、
三輪のタイヤをつけた砂馬車は昔からこ
の地の風物詩。熟練の人と馬が波に洗わ
れる水際の砂を掘り取って運搬する。こ
の間髪の入らぬ妙技は馬でなければむつ

かしいらしい。馬の減少と不況がここでも砂馬車の台数を減らしていくという。

13 七月十日 NHK TV

スタジオ〇二

函館郊外で行なわれた草ばん馬(祭典ばん馬競走)を伝える。

生憎の雨だが、いづれ劣らぬ馬キチ連がねじり鉢巻で、鉄ソリに古タイヤやおもりを乗せて雨の道を疾走する。道南のばん馬には青森からも海を越えて遠征してくる若者もいる。津軽音頭が場内の興奮を盛りあげる。(十分間)

14 七月十七日 NHK TV

七・一五 AM ニュース北海道

置戸の造林山に働く若者達がバチに二本の原木を乗せて五人一組で引っぱり合う「人力ばんばレース」。ほんとの「ばんば」も行なわれるが、こちらの方が人気があるという。観衆の拍手声援の中で根つきてゴールに倒れこむ若者もいる。

カナダの森林地帯で木樵たちが原木を投げて、その距離を競い合うところの写真があつたが、置戸の「人間ばんば」はそれに似た森林地帯ならではの愉快なレクリエーションである。これは翌日も全国向け再放送された。

15 七月三十一日 HBC TV

兼高かをるの「世界旅行」

珍しいインド山岳地帯の競馬の話。

一周四〇〇米しかない世界一小さい競馬場がヒマラヤ山麓にある。競走馬らしからぬ駄馬のレースが行なわれており、ノミ屋に紙幣が集まる。

16 七月三十日 NHK TV

「北海道の窓」で上富良野の山本幸一、正彦親子がばんえいの調教師、騎手として活躍する生活を紹介する。

17 九月六日 北海道新聞(夕刊)

出来たぞ「ばんえい記念館」

北見競馬場の堀井正さんら臨時作業員二十一人の手により「ばんえい記念館」ができた。休日を利用して二カ月がかりで建てたとのこと。旧式馬ソリや草競馬時代の騎手服、優勝旗やメダル、盾などが所狭しと並んでいる。

18 九月十八日 NHK TV

「馬はわが友」

これは馬を絶やしてはならないと大事にするイギリスの一家族の話。

牧場は山の上まで広がり、馬は青空と草原に寂々として走り、草をはむ。子供達はサンドイッチにジュースだ。一トンもある美事な重種シャイヤーやベルシユロンの中から共進会に出す馬を選ぶ。北海道のベルシユロンと同じ位の大きさ。北々にシャイヤーにお目にかかった思いがする。

19 十月三日 毎日新聞

本格的な洋式競馬場発祥の地、横浜市の根岸競馬場跡地に「競馬記念館」がオープンした。

20 十月七日 毎日新聞

読者提供の写真。ドライブ途中、俱知安町で見かけた馬車を幼い頃を思い出しパチリ。

21 十月十三日刊 GORO

雑誌GORO連載「ワンプエア月夜」

(長谷川法世・作)

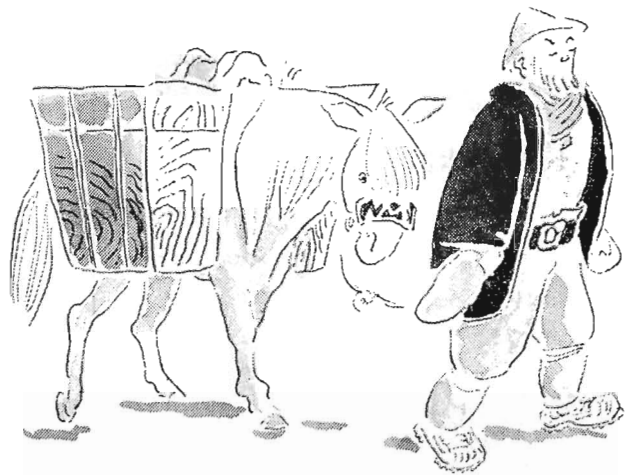
恋する男を探して日本國中を旅して回る女の子を主人公とするコミックまんがで、今回はばんえい競馬の巻。

主人公は牝馬から馬券を買い的中するが、そのとき探していた彼氏が目に入る。



北見競馬場、下見所わきのばんえい記念館





り勝ち、第七回目の賞杯を手にした。

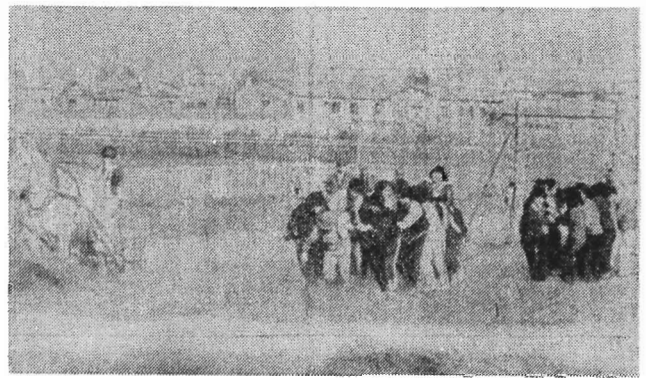
同日夜はスタンドで多彩の番組かくりひろげられた。出演者はレギュラーの藤本義一氏に岸じゅんこさん、水野晴郎氏、漫画家おおば比呂司氏、歌手芹洋子さん、帯広市競馬事務所長川岸政夫さん、ホースニュースの前田量平氏、大井小町さん、それに11PM杯レース創設以来の優勝者、水上、片平、大野、金山、中西、尾ヶ瀬、大友の各騎手。そのほかに、今回のユニークな企画「人馬対抗レース」に出演した男性チーム帯広畜大柔道部選手に、女性チームのキャバレー銀馬車のホステス

25 十月二十七日 STV TV
11PM「組んずほぐれず
汗びっしょり」

ばんえいの恒例となった11PMばんえい版。今回は11PM杯レース七年目とあって、賞状も司会の藤本義一さん自ら読み上げて渡すという気のいれかただった。放映されたのは十月二十七日だったが録画撮りは十四日と十五日の二日間帯広競馬場で行なわれた。11PM杯特別競走は十五日第三回帯広一日目第九レースに四才以上八〇万円未満クラスの八頭で争われたが、大友騎手の一番キョクイチが二着のキンボンに二秒六の小差でせ

さん各十名という顔ぶれでたっぶり一時間を埋めた。

この「人馬対抗レース」は講教馬場の直線コースを馬は重量物二五〇キロ、そり三〇〇キロの計五五〇キロ、人間チームは四〇〇キロでスタートしたが、女性軍は第一障害前でダウンして競走放棄。男性軍は若さに物いわせて第一障害を越したか間もなくのびてしまった。馬はヒラマザン、手綱をとるのは佐伯騎手でゆっくりとスタートして第一障害前で止め、相当手加減して歩調を合わせようとしたが馬はいふことをきかず、いわゆる馬なりのまま大差でゆうゆう楽勝。さす



がに馬の力には問題にならず、一馬力の大きさにみな感嘆しきり。

最後にばんえいの馬主になって今評判の歌姫芹洋子さんが「秋黄昏」を歌って相変わらずの美しい喉をきかせた。

26 十月二十八日 報知新聞

奇蹟の動物、それが馬だ
ムツゴロウ先生競走馬に入れ込む
マジシャンではクールの頭脳を駆使しアマチュアでは日本有数といわれるムツゴロウさんか、札幌競馬場（道営）のスタンドで、コブンを振りあげ、絶叫するなど異常な興奮を見せた。生後二カ月から育てたサラブレッド、ムツノグラチェ

が、四コーナーでハナに立ち三着にねばる健闘を見せたのだ。二年前に出したムツノダイサクはざつぱり走らなかつたが、この馬の健闘にムツゴロウ先生はメロメロになって喜んだ。

次の日は帯広ばんえい競馬でムツノベアの応援。この馬はかなりの人気を集めていたが無念の三着。この馬はこの年の三歳の中ではベストテンに入る優秀馬。

氏は現在の牧場（浜中町）に蒔きたらず、中標津に五〇ヘクタールの土地を購入、サラブレッド、アラブ、ばんえい競走用の重種の生産に取り組み。もつとも力を入れるのは重種で五〇頭ぐらいいは繁殖牝馬を持ちたいとのこと。

27 十一月四日 NHK TV

「お祭り馬」

名古屋市内に住む青山春夫さんは小さな和種馬を飼っている珍らしい馬キチ（馬がめしより好きな人のことで馬キチガいの略称だが、愛すべき動物愛護者への敬称）。三頭の馬をお祭り用に飼っており、あちこちの町から注文がくる。とりわけ秋祭りの頃は忙しく、青山さんの家には馬の出番スケジュールができています。特に農村地帯には「やしき廻り」という風習があつて愛馬は背に紅白の柱を飾って鈴を鳴らしていく。村の若者達は酒をふるまい、祝儀を包む。

この日は神明神社のお祭りだ。馬は太鼓を背につけて走り廻る。青山さんもはりきって力も入るがほんの実費にしかない。

28 十一月七日 北海タイムス

連載「米」の中に尾谷さん

北海タイムスはいま問題の「米」を取り上げて連載したが、その第七回目「北限からの叫び」で端野町の尾谷さんを写真入りで紹介した。

尾谷さんは農協役員で米作篤農家だか「ばんえい」が米より好きで、ズーツと騎手をやっていたが、ばんえいが專業化してきたので身をひき、今では八ヘクターの水田づくりに励んでいる米づくりの名人。

29 十一月十五日 北海道新聞

ばんえい競馬最高の賞金と栄誉を競う農林大臣賞典を制覇したニジョウホウ号は定年引退にともない栃木県にある地方競馬全国協会の騎手教養所に、ばん馬としては初めて配属されることになった。

30 十一月十六日 H T B

モーニングショー

「原野に挑む九五才の母と

七三才の息子の物語り」

これは深雪と吹雪の里に馬と生活する老親子の話である。

馬は入植後三年目に求めたが、馬は今の機械がやる仕事をしてくれたものだ。

馬を使うことは当初難儀したのだが、今となれば馬と暮すことがなよりの楽しみで心もなごむ。馬は家族だ。岐阜県からの移住で四回帰郷したが、むこうには何の魅力もない。北見の孫も隠居せよというが、八町歩の田畑と馬とは別れら

れない。土にはぬくもりがある。吹雪も子守歌のようだ。もう二十歳をこしたという老農耕馬を見やりながら、お婆さんは元気に語る。聞き手は俳優の佐藤英夫さん。

31 十一月十八日 N H K T V

スタジオ一〇二

「走れコウタロー」の曲を背景に帯広の最終回のばんえいを取り上げる。十勝開拓の原動力となった農耕馬が、今ではばんえい競馬にその活路を見い出す。堂々たる体軀の馬々が力走する。全コースの俯瞰撮影が素晴らしい。カメラは遠く十勝、大雪の連山を画面に写し出す。もう山頂は真白だ。

五十二年度のばんえい競走は終了「では来春まで、さようなら」

32 十一月十八日 H B C T V

「ばんえい総集編」

H B Cは昭和四十八年以来「ばんえいハイライト」を毎金曜日に放送しているが、これも毎年恒例となった総集編をお馴染み旭川の道北振興K K提供で放送、柴田アナウンサーの司会で金山騎手、ファン代表の木元氏、ホースニュースの前田氏、本会から鈴木事務局長が出演。

ばんえいの最高峰農林大臣賞の実況録画も入れて、五十二年の出走馬の回顧、将来への希望、騎乗のかんどころなど興味深い話題が次々に飛び出し、十五分では短い位。「明年もどうぞよろしく」と柴田アナがしめくくる。

33 十一月三十日 N H K T V

「清一爺さんの博物館」

これは札幌市発寒に住む農業三戸清一さんが建てた農機具記念館の話だが、一番多いのは馬力作業機で、馬そり、馬車、バチ、プラオ、カルチベーターに鞍具、稲刈機、除雪車などが展示してある。まったくの個人蒐集で一般に公開しているわけではないが、特に頼めば見せてくれる由。清一さんは昔の苦勞を忘れないため、感謝するために建てたという。

34 十二月九日より連載 報知新聞

「ばんば」の郷里

十勝農協連業務課長の千葉滋氏執筆により、毎週金曜日に十五回の予定で連載。なお、さし絵は本会内田参与提供。その中から一部抜粋して紹介する。

※馬にはものを曳こうとする本能はない。彼らのおう盛な前進氣勢を人間が適当に利用しただけである。したがって、平地競走のさわやかな解放感、ばんば競走では重苦しい沈滞感となる。しかし、障害のうえで一寸曳きをする巨体には、農民が自ら改良を加えた馬力の塊が、北海道の開拓塊が、無言の中に凝結されている。

※生産増殖も軽種馬とは対照的で、サラブレッドが文字通り純血主義を誇ったのに対し、重系種は明治以降、在来土産馬を基礎として、さまざまな馬種が導入され、国策のもとに複雑な交配がくり返され、急激な改良がはかられた。

※やぶ出し（山で切り倒した丸太を道路まで引き出す作業）に使われる農耕馬は

年齢的、体力的、技術的に優れたものでなければ仕事にならなかった。その中で某の馬が一番、いや某々の馬こそ一番とせんざくされ、たまたま甲乙論し難い馬と一緒に山に入ると、仕事の合間に巨大な丸太の両端にクサビが打ち込まれ、胴びきかけられてケツびきで雌雄を決した。かくして、一対一の勝負から群単位の馬力大会が起こり、祭典ばんばとなり、次第にばんば競走が一定のルールのもとに開催される素地と資源が各地に定着していった。

※開拓の当初各地で行なわれていた祭典競馬は明治四十四年第一回帯広競馬として集約された。各地の子選を経た名馬が帯広競馬場の決勝に進出した。公営競馬のはじまりであった。

35 十二月二十六日 N H K T V

「歌志内の馬画家」

歌志内の馬場さんは五十七年間馬の画を描きつづけてもう八万頭にもなるという。一般には相馬絵といわれる線描きの墨絵だが、午年をひかえて十万頭を目指し筆を運んでいる。

36 十二月二十六日 静岡新聞

一月 九日 徳島新聞（夕刊）

一月 十三日 京都新聞（夕刊）

各紙共、同じ写真、同じ記事ではんえい競馬を紹介している。内容は次のとおり。

馬の体重はだいたい八百キロから一トンにも達し、普通の競走馬の約二倍。

旭川、帯広、北見、岩見沢の四市で行

なわれており、コースは二百メートルのセバレートで、途中大小二つの丘が障害物として設けられている。特に二番目の障害を越えるときの力強さが、根強い人氣のもとになっている様子。

ばんえい競馬の馬は、もともと農耕用で、フランス産のベルシュロン種とブルトン種およびこれらの混血が大半をしめている。

関係者は、サラブレッドに比べいままで軽く見られていた血統的なものに力を入れ、五十一年度から東京の日本馬事協会で、ばんえい馬を含む農用馬の血統登録を一托して取り扱う業務をはじめた。

37 十二月二十七日 NHK TV

夜九時のニュースセンターの中で蛇と土産馬が出てきて「エトの引継式」をやってみせる。馬の代表が土産馬だったのは面白い。

38 一月一日 NHK ラジオ

「愛馬のふるさと」五・〇五 AM

この時間帯はいつも農事放送になっているが、元旦はフランキー堺さんの語りで北海道の馬に焦点をあて放送した。道南の「土産馬牧場」、日高の佐川牧場のサラブレッド、アラブそれにハイセイコー、タケホープ、最後にムツゴロ動物王国のドサンコの話。

39 一月一日 HBC TV

「おめでとう 日本列島」

日本を南と北から見せる。北海道ではハイジ牧場の農耕馬、土産馬が積雪をかきわけて馬そりをひく場面、トウキビヤ

魚のしばれ焼きを紹介する。

沖繩では海に遊ぶ海水着の娘さん達をみせる。

40 一月一日 週刊ミレ

馬アラカルト

※松前藩々史「新羅之記録」に、慶長二十年（一六一五年）にときの藩主慶広が津軽信牧と佐竹義宣から一頭ずつプレゼントされたことが記されている。道産子のルーツは津軽？

※「どさんこ」は物をひかすと滅法強いが、ちよつと小柄すぎる。そこで米國からトロッター種を輸入して交配させてみたが生まれた子馬はいずれもホソソリ、ヒョロヒョロ。明治十九年に道庁農業指導員の渡辺勝用なる人は腹を立てて「本道の馬格が悪いのは悪い管理の下で増殖するからでト殺して食うべし」という食馬論を書いた。

※明治競馬界不世出のスタージョッキー函館大経は、弘化四年（一八四七年）日高の幌泉生まれ。幼いころから暴れん坊で裸馬を乗りこなして大人をヤンヤといわせた。元治元年（一八六四年）江戸にのぼって幕臣の馬丁。のちにフランス人から馬術を学び、明治三年根岸競馬場に出場。外人を抜いて見事優勝し「日本人ここにあり」と満場の拍手を受けたという。

※江戸幕府は帝政ロシアの南下政策に備え、本道の守りに欠かせない良質馬を自給自足すべく、土地を物色したところ、気候、風土が最適だとして、日高に白羽

の矢が立てられたもの。最初の牧場は安政四年（一八五七年）に登場している。

※昭和二十九年「馬ふん条例」なるものが、札幌市に制定された。冬の間、雪に埋もれていた半年分の馬ふんが、春風にのって舞い、目といわず、口といわず吹きつけた。そこで、文化都市を目指す札幌市では「馬ふん条例」のスタートとなったもの。かくして約千頭の「おしめ馬車」の誕生となった。

※大正五年当時、十勝には三万頭以上の馬がおり、牧場数も約百五十カ所と日本一を誇ったが、今や農具の機械化でみるかげもない。

41 一月一日 全国農業新聞

太い足で大地を踏みしめ
ほぼ一面にわたり、帯広競馬場の第二障害付近のレース中のカラー写真を掲載。

42 新年特大号 オール読物

「馬飼い音頭」

「オール読物」新年特大号に、ばんえい競馬をテーマにした「馬飼い音頭」という題の短編小説を掲載。作者は畑正憲さん。

——あらまし——

幼い頃父を失なった伸二は、中学卒業直前、家を飛び出し、職を転々としていたが、母親と共に北見市で馬喰をしている叔父を頼って行つた。叔父はばん馬を飼っていて伸二にその世話をさせた。あんなに職に飽きつぽかった伸二が馬丁の仕事だけは、まるで天職のように生き生きとやった。そのうち、馬小屋に布団を持って行き、馬と一緒に寝るようになった。伸二は一年で立派な育成屋になった。馬と殺食を共にし、大きく育てる技術を習得したのだ。彼は叔父だけではなく、その馬喰仲間にも絶大な信用を得るようになった。伸二が育成をはじめて五年



目、馬主の資格を取った叔父に二歳馬のセリに連れて行ってもらった。伸二は三頭の馬を見立てたが、叔父には高く買えなかった。もう一頭の見立ては、みんなが馬鹿にするほどみすぼらしい馬だったが、リユウと名づけ可愛いがった。そのうち、牧場を見学に来た綱江とふとしたことで仲よくなり、嫁にもらうことになった。結婚しても伸二は綱江と共にリユウの馬房で暮した。リユウはぐんぐん成長したが、出発点があまりに悪過ぎたので、他の二歳馬に比べると小柄だった。リユウは競走に出すため、調教師に預けられるようになると寂しがり飼葉を食わなくなり、調教師も面倒がったので、伸二夫婦は調教師の馬房に住みついた。リユウはふたたび元気になりレースを勝ち上り、重賞レースに出場するまでになった。さすがに重賞レースは重量も重く、小柄のリユウにはこたえた。最後の障害では先行する馬に大きく遅れをとり、優勝は絶望に思えた。綱江は伸二の胸に取りすがり、声を上げて泣いた。それを見たリユウは何を感じがいがしたか、急に勢いを盛り返し一気に坂を登った。そしてついには、先行する馬をゴール寸前でつかまえた。

43 一月二日 NHK TV

「北から南から」

藤山寛美さんの時間。日本の新春中継シリーズ、北の代表は近頃どさんこ牧場で名の知れた加藤譲牧場を紹介する。加藤さんの牧場は網走市から車で三十分の

とうふつ湖畔にある。昨年は八頭のどさんこが生まれた。雪原の中を馬そりが走る。今日は零下七度で北国としては暖い方である。加藤さんは兎の毛皮で造った袖なしを着てどさんこを語る。小さいのは五〇貫、約二〇〇キロしかないが同じ重さの荷物を背負って山道をかざる走る。どさんこは北海道の功勞馬だと話はずきない。オホーツクの流水を見にくる観光客は、遠く大阪、鹿児島からこの牧場に立ち寄る。十頭ほどのどさん馬が、かじ棒なしのそりをひいて深雪をもぐりながら走る。乗り手は皆道外から来た観光客だ。

44 一月三日 NHK TV

「馬と人間」

木下順二氏と現代の曲垣平九郎といわれる馬術の名人小松崎新吉郎氏の対話で馬と馬術を語る。

小松崎さんが今まで市場で選定し調教した馬は百頭におよぶという。これは乗馬向きの話で鞍馬には適期しない点が多かったが良馬を見抜く眼力の話。卓越した馬術も入念な調教がなければ不可能で、各調教師は馬の全能力を引出す技術がなければならぬ。猫可愛がりは獵馬を造り馬が迷ってしまうような扶助は許されない。馬の心をつかむこと、愛情と忍耐と努力こそ駿馬をつくるなどの言は、ばんえいに通ずる。

45 一月四日より五日間連載読売新聞

「馬事朔風」

ウマと人間とのつきあいは古く、深い。

喜怒哀楽を共にし、皮となつても密着している。そこで、干支（えと）にちなんでウマの話題をお届けする。今年こそ不景気を吹き飛ばすよう、馬力を出してがんばろうではありませんか。「どおッ、オレの初笑い？」あんまりウマくないご面相だ。「オレたちや、北海道のシンボル、今じゃ貴重な……」——ドサンコだろ。「カッコよく北海道和種馬といってほしいネ。北大のおウマ博士・八戸芳夫先生は、あんなたちの足と背中が北海道開拓を成し遂げた、とほめて下さる。タフで粗食に耐える。氣は優しく力持ち」

「馬へんあ・ら・かると」

戦中派は馬へんというところでも進駐軍を連想してしまふ。ウマを車に変えたアメリカが勝って、ウマに頼った日本は負けた。もともとは荷を乗せるウマのこと「乗せる」の意味合いから尻駄・下駄なんてことばができた。

馬鹿（はか）は友達同志で「お前バカだナ」とか「おバカさんね」といわれてもさほど怒れない「私バカよね」って歌もいいな。バカ・アホはいずれも人に対して最低級のことばだ。北海道の競馬事はじめは



明治五年。札幌神社祭典を祝い、琴似街道六百メートルの直線コースで農耕馬教頭が競走した。形によって馬の年令はドンピシャリ「このような紋様はどんなウマにも出ません」ウマの乳歯は三才から六才で永久歯に抜け変わる。成馬は雌雄とも上下十二本の切歯が、かいばをかむときの摩擦で歯質が変化し、十才から十一、二才にかけて円形か楕円形。十五才を過ぎると三角形に変わる。



※アルゼンチン産のミニホースをベットとしてもつ

藤本 忠さん（静岡県）

一月十日

UHB

小川宏シヨウ

「老人と木曾馬」

木曾郡会田村の

木村正常さん（74）

は木曾馬「春山号」

を名大に寄贈して

剝製にし、学術研

究資料にしたこと

で名前が知られて

いる。今飼ってい

るのはその孫にあ

たる第三春山号で

今日は出産の日。美しい緑に包まれた山麗の早朝はまだほの暗い。母馬は黙々として木曾の仔を出産する。一週間たつと、木村さんは親仔の馬を連れて近隣にお礼参りをする。昔は仔連れの馬達が走り廻って春は賑やかだったという。木村馬頭観世音菩薩の碑に合掌し安産を感謝する。最後に獣医でもある村長さんが出て木曾馬の現状、特質、功績などを説明し、保存策について訴える。

50 一月十二日 NHK TV

「北海道七時半」

今日はウマ年にちなみ「馬づくし」馬の博士、札幌動物園長の中川敏氏を解説者として馬もろもろの話。出演者は中川氏をはじめ皆午どし生まれの人達。

まず、札幌の二十四才の主婦が質問役

で話をはじめます。馬の年齢は「かぞえ」

でかぞえる話や富士山を土産で登った

という高坂重喜さんら四人のつわもの

話。北海道最初の競馬は明治八年琴似街

道で鎮地祭の奉納競馬として行なわれた

話。馬の耳に念仏などというが馬のカン

は鋭く、飼主の足音を聞き分けるという

話。ばんえい馬の話も出てくる。着順は

そのの後端で判定するという話。鹿追町

の田中やえ子さんは草ばんばの女流騎手

として人気がある。十二、三年前からば

んばに出て七勝三敗の成績だという。厚

田村乗馬クラブの女流選手六人は今人気

上昇中。日本一の新冠軽種馬育成センタ

ーは四百ヘクタールの敷地があり、将来

の競走馬を育成している。場長の間さん

はひのえうま生まれの七二才だという。馬の童話集三作目を書いている加藤多一さん。年間乗馬日数三百日という札幌乗馬クラブの女流騎手平谷さん。東月寒の子供乗馬会、ポニー牧場など、まさに北海道の馬づくし。最後にニューム鉄、連尾蹄鉄、ばんえい馬の蹄鉄を見せその大きさでおどろかせる。

51 一月十二日 NHK TV

スタジオ一〇二

沖繩宮古島の和種「宮古馬」を紹介する。現存する二十才の純粋の宮古馬は只今妊娠中で五月出産予定、一・一九米しかない優馬だ。宮古馬は顔幅がひろく、たて髪長く、チョット土産馬に似ている。爪が強く蹄鉄は不要という。

52 一月十八日 NHK TV

スタジオ一〇二

滝田さんは音更町に住む住職で壇家廻りはいつも馬に乗って行く。馬は中間種松風号十二才だ。滝田家で生まれ育ちこぶる気合が良い。僧衣をまとい、松風号に乗って行く姿は十勝野の風景によくとけこみ、土地の人に馴染んでいる。壇家ではしばしば酒となり、つい飲みすぎる。「馬だからいいじゃないか」と再三すすめられると、ついその気になってしまふ。馬は不服をいわずにいつまでもズーッと待っている。そしてほろ酔いの和尚を背に乗せてお寺へ帰ってくれる。

58 一月十九日 NHK TV

「北海道七時半」

今日小池アナウンサーが冬のニセコを



訪ねる。ニセコは人口五千人、農業と観光とスキーの町だ。深い積雪の上に今日も間断なく大粒の雪が降りしきる。街角で馬そりを見つけて乗せてもらおう。そりは後志から道南地方で使われているベタぞりだ。馬は重ばん型の姫核号十才、馬方は馬主で農家の向井保さん。小池アナの頼みでニセコ町の風物を訪ねて歩く。しんしんと降る雪の街を馬そりは鈴を鳴らしながら行く。フィゴの神様といわれる鍛冶屋の安孫子さんは農機具の修理が専門だが、近頃はプラオなど馬利用の器具はさっぱり注文がないという。



マイハットは、シツキとした馬に、乗手、忠さん(左)の姿形は一人前だが、アールの上に乗るほど小さい、というのがアルゼンチン産のミニホースだ。馬主さんは富士牧場公園を営む、もかたわら、自分のベツトとして、このかわいい馬を支人と共働で三頭購入したあわせて四百五十万円の日本一小さな馬だ。

北の軽井沢といわれるこの町には有名な有馬記念館がある。

54 二月十九日 H B C T V

兼高かをるの時間

午どしのためかこの時間にはしばしば世界の馬が出て来る。この日は今流行とも思えるミニホースを紹介する。これはアメリカのミニホース専門の牧場の話。ミニホースには基準があり、三四インチ(約八六・三六cm)までの犬ころのように小さな馬をいい、この馬の登録協会もある。世界には二百頭位しかないが、この牧場には百五十頭もいる。青毛の一头

を指して、これは十三カ月で一八キロしかないという。また、二才で二二インチしかないのがいて、おそらくこの馬が最小レコードを作ることになるだろうとのこと。牧場主の八才になる息子がとねっこを抱き上げ兼高さんに渡す。誰でも欲しくなるような可愛らしさである。「妊産婦(受胎馬)の森」というのがあって、満月の妊馬はみなこの美しい森に集まって出産を待つ。繁殖牝馬は五〇頭、種馬は八頭いるという。

55 一月二十六日 N H K

N H K 室蘭放送局は日高地区のローカ

ル番組で重ばん馬の生産者で馬主の森秀夫さんとその牧場を電波にのせた。今年出場予定の明三才馬が雪のバドックに遊ぶ。壮瞥町は有珠大噴火の被災地区だが、幸い森さん一家と馬は何事もなかったように元気な顔。もつとも森さんの話では被害は皆無で砂をかぶった作物はできも良く味もよいというから不思議である。

農林大臣賞を二回制覇し、不世出の名牝とうたわれたダイニミハル号は森牧場の種雄馬ベルジャン種キャブテン号を配し受胎に成功した由。本稿作成中の二月には秋田に帰る出産の日を待つとのこと。競走馬にはよく排卵抑制剤を投与する場合があり、発情避妊を見つけないことが至難といわれるが、ミハルはそれらを克服して受胎したのだと知り祝福にたえない。第二、第三のミハルが続々と出現すればんえいの楽しさも倍加しよう。

56 二月三日 U H B T V

婦人の時間「三時のあなた」に歌で出演した芹洋子さん。司会の坪内さんが「競走馬をお持ちだそうですね、それもサラブレッドでなく、北海道にしかないいばんえい競馬の馬だそうですね」と珍らしそうに聞く。「私馬が好きでサラブレッドも大好きですが、ばんえい競馬に出る馬はびっくりする位大きくて、おとなしくて、すっかり気に入ってしまったんです。めず馬ですけどとても強くて、今小清水に預けてあります。」といいかにも馬がいとおしそう。

清潔な歌い手として定評のある芹洋子さんが、ばんえいの馬主となったことは、畑正憲氏とやらんで異色の存在だ。

57 二月四日 毎日新聞・NHK TV
炭住街かっ歩、最後の「一馬力」 嘉見調教師マスコミに大活躍

芦別市頼城町の炭住街を今日も嘉見さんは愛馬ミスタータケトモ号に石炭馬車をつけてゆく。それは最後の「一馬力」だ。二月四日の毎日新聞は写真四葉を入れて報ずる。馬と人の労苦を称え、消えゆく北国の風物詩を懐かしむ。嘉見さんは温



知名度ありませんが…山あいの炭住街を石炭を積み込んで宅配するミスター・タケトモ号

厚な人柄で知られるばんえいの調教師。春から秋にかけて四場を転戦し、冬は炭山で働く。馬は小廻りがきくので軒先まで運搬してくれると今なお好評。

嘉見さんは以前にもテレビに出たことがあるが、今年は午どしとあって一月十二日、十四日、二十二日と三回もNHKに取材され大モテ。特に一月二十二日には、今はトラックやダンプに乗りかえた昔の馬仲間連中と語り合う。めし時の団らんや、草ばんば、ばんえい競馬で獲得

した賞杯、メダル、優勝旗、所狭しと並んだ賞状、額などをみせる。馬に生きぬく嘉見さんの誇りでもあろう。

58 二月六日 NHK TV

ニュース NC9

今でも愛媛県には五頭の農耕馬が働いている。節分の日に松山市郊外の農家に仔が生まれ、よたよたと母乳をさぐる。母馬は芦毛。絶滅寸前の農耕親子は畑の中で物珍らしそうに見守る子供達の中へ行く。四国にもまだ農耕馬がいるのだ。

競馬便覧

1 競馬監督

農林省競馬監督官柴田、森田の両氏は、五月二十八日第一回岩見沢第六日目のばんえいを監督同じく松本、鶴見両監督は六月二十六、二十七両日第二回北見ばんえい第四日目及び五日目を監督。

柴田、轟両監督官は七月九、十両日第一回旭川第五日目、六日目両日のばんえいを監督。

佐野監督官は九月二日旭川ばんえいに来場、これは、八月二十六日第三レースにおいてコース油撒き事件の調査を兼ねての特派のようであった。

同じく佐野、伊藤両監督官は十月二十三、二十四両日第三回帯広第四日目及び第五日目を監督。

2 地全協斉藤会長は帯広に

地全協斉藤会長は抽山業務部長を帯同し五月五日帯広に来場、五十一年度リィデングジョッキー賞を授与しあわせてばんえいを視察夕刻辞去された。受賞者は第一位金山明彦、第二位大友栄司。

3 競艇振興会議員の視察

東京都競艇振興会議員三十名は六月五日第二回岩見沢ばんえい第五日目を視察した。

4 岩手県競馬組合議員等の視察

岩手県競馬組合小笠原副管理者ほか同組合議員及び事務局員二十四名は八月五日第三回岩見沢第一日目に来場し熱心にばんえいを視察した。

5 歌志内市議の来場

歌志内市議會議員十一名は八月五日岩

人と動物が奏でる明るくのびやかな生への讃歌

畑正憲作品集 全18巻

別巻1 各880円

文藝春秋刊

巻数順に毎月20日発売

- ① 少少の動物を正巻
- ② 少少の動物を正巻
- ③ 少少の動物を正巻
- ④ 少少の動物を正巻
- ⑤ 少少の動物を正巻
- ⑥ 少少の動物を正巻
- ⑦ 少少の動物を正巻
- ⑧ 少少の動物を正巻
- ⑨ 少少の動物を正巻
- ⑩ 少少の動物を正巻
- ⑪ 少少の動物を正巻
- ⑫ 少少の動物を正巻
- ⑬ 少少の動物を正巻
- ⑭ 少少の動物を正巻
- ⑮ 少少の動物を正巻
- ⑯ 少少の動物を正巻
- ⑰ 少少の動物を正巻
- ⑱ 少少の動物を正巻
- ⑲ 少少の動物を正巻
- ⑳ 少少の動物を正巻



＊第一回配本／第1巻 好評発売中！

ムツゴロウの青春記

ムツゴロウの結婚記

ムツゴロウの放浪記

下ろし

＊各巻に寄下ろし
エッセイ 月報は
著者自身編集の
「ムツゴロウ新聞」
＊巻頭 5枚中巻

見沢に、来場、公営競技の施設と実施状況、ばんえいについて熱心に見学するところがあつた。

6 高知県競馬組合議員も

高知県競馬組合議員及び同事務局長の一行十名は八月七日第三回岩見沢第三日目のばんえいに来場視察した。

7 中央競馬会専門役の視察

中央競馬会の広報担当専門役高橋忠次郎ほか一名は八月八日第三回岩見沢第四日目に来場し終日熱心にばんえいを視察した。

8 荒尾競馬組合は旭川

熊本県荒尾競馬組合清水事務局長及び議員四名は八月二十八日第三回第三日目

に来場してばんえいを視察。

9 韓国競馬会長ばんえい視察

これは珍らしい韓国競馬会長金東河氏のばんえい視察、同氏は九月四日第三回旭川第六日目に来場し半日間熱心にばんえいを見物。韓国は本道軽種競走馬のお得意先だがばんえいを見てどう考えられたか。

10 保安協会岡理事帯広ばんえい視察

競馬保安協会の地方競馬担当理事福田氏の勇退のあとを受けて新任された岡理事は清水地方競長中沢課長と共に第三回帯広競馬開催の前日来場され新任挨拶をかねて同市、市協職員及び同協会道駐在員と懇談し、翌十五日第三回ばんえい第一日を親しく視察された。

11 ムツゴロ先生の菊地寛賞受賞

ばんえいの馬主さんである動物王国主動物作家として著名なムツゴロ先生こと畑正憲氏が第二十五回菊地寛賞を受賞された。その選評によれば「ムツゴロウものはじめ多くの作品で人と動物の心の触れ合いを描き、北海道に動物王国を造るまで全生活をたくした環境の文学が輝いている」とある。

畑氏は益々最近好調で文筆にテレビにCMにももてての大活躍、本年はまずスリランカに旅されるときく、ご健康ご健闘お祈りする。

12 上の山競馬調騎会員のばんえい視察

山形県上の山競馬の調騎会員三十名はシーズンオフの十一月四、五両日本年最終回の帯広ばんえいを視察、あいにくの

雨だったがばんえいは初めてとあつて物珍らしげに終日熱心に見物した。

13 黒石農協一行も帯広に

青森県黒石市共済農協一行七五名は北海道農事研修の一環として五月三日第一回帯広第五日ばんえいを視察。

14 農地改良の専門家来場

馬の走るコースが限定されている、セパレートコースの整備については各主催者とも最も神経をつかい最大の努力を払っているがその完全整備については尚研究の余地を残している。

それほどばんえいコースは自然の条件に左右されやすくむずかしい。

かねてこのことに関して土壌と農機具のベテランから意見をきいてみたいとの考えがあったがこのたび長沼の道立中央農業試験場に懇請中のところ農業機械部長で農博の斉藤五氏と、機械部長の藤田昭之氏が八月十三日岩見沢ばんえいに来場され走路を仔細に視察、走路の構造と極の摩擦抵抗に因って貴重な意見をいただいた由。

15 地全協ばんえいを取材

地全協企画室伊藤調査役はカメラマン二名と共に十月九、十日両日第三回旭川第五日及び六日目に来場地方競馬の広報用にはばんえいのすべてを撮影取材したなお同氏は地全協が行う祭典ばん馬の調査について併せて協議打合せをした。

16 地全協にばんえいプロジェクト

地全協は連年鱈のぼりに上昇し最近平

地競馬を凌駕する成績を示している、ばんえいの発展にそなえ、ばんえい研究班を編成した。チーフは野呂専門役で、渋谷、浅川、笠本、吉田、島田の地全協専門役名うてのベテランぞろい、このほかに騎手教養所教官連の現地及び実馬による研究があり正に地全協の猛然たる気迫を感じる計画である。

17 騎手教養所教官のばんえい研究

地全協騎手教養所の江口教養課長と蒲、佐藤、東泉の各教官は第三回岩見沢ばんえいに四日間来場しばんえいのぎョ法指術を中心として実地研究を行ないカラー用VTRを駆使して研究資料を作成した。

18 五月帯広冬景色

五十二年は帯広市が五回開催することとなり第一回四月二十九日開幕のスケジュールとなった、ところがにわか気温がかわり、前日の二十八日は一日中雪が降りしきり二十センチになるといふ現象、開幕を翌日に控え市と本会職員は夕刻から除雪に大奮闘八時すぎまでかかって走路を整備した。

雪はその後も降りやんだり、お陰

で五月五日までの第一回帯広ばんえいは冬景色の中での熱戦と相成ったが売上げはこの回十億五千九百万円余となる、作年旭川第一回に匹敵する成績をあげた。

19 能力検査に大観衆

年々ばんえいの能力検査を見る人達は増加しているが、五十二年の第一回能力検査は四月十九、二十日の両日帯広の馬

場で行われ、構内に入場した乗用車は約百三十台、釧路方面からは約百人の生産者ファンが三台のマイクロボスをつらねて乗りつけるといふ盛況、その日はあいにくの悪天候だったがなんのその、ひる時のスタンドは弁当に酒も出し大変な賑わい、お陰で場内にある農協のビフテキ食堂は大繁昌。

20 岩見沢にトータリゼーター完成

懸案のトータリゼーター（馬券機械売）は岩見沢競馬場に完成した。

これ道内六カ所の競馬場中央競馬

会の札幌、函館に次ぎ第三番目のトータリ設備を持つ競馬場となった。

岩見沢ばんえいは中央札幌が一流競馬場日が多く、特に一昨年札幌が一流競馬場なみの規模に改装してからは客足が減り売上げも今年度は低下するという成績、トータリ設備もいささか髒肉をかこう有様だったが中央の終わった八月のお盆ばんえいでは俄然人気挽回し、十八億円余を売上げ全道ばんえい競馬の最高レコードを記録した。

この記録はトータリの威力がなければ実現不可能だったにちがいない。

21 市営競馬から濠州競馬研修

毎年の恒例として行われてきた全公営（全国公営競馬主催者協議会）主住地全協後援の開催執務委員長クラスの外競馬研修は本年度は趣向を変えて濠州、ニュージーランドの競馬視察研修を計画した。本道からは北見の坂井課長、本会の鈴木事務局長が参加。詳細は坂井課長局

長の別項旅行誌にある。

22 地全協主催実務研究会

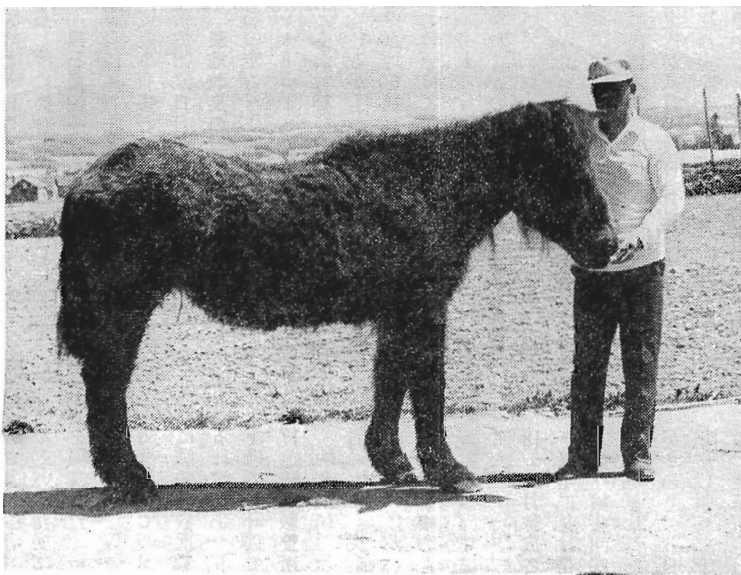
これも毎年の恒例となった地全協主催のばんえい競馬実務研究会は十月四、五両日旭川競馬場会議室で開催された。

ことは別掲の如く同協会にばんえい研究班ができ、騎手教養所ではん馬を買って実馬研究が行われるなどの熱意が反映して研究会は頗る熱心に終始した。

ことは最もむずかしいばんえいぎよ法の研究に多くの時間があてられた。出席者は地全協若月公正部長以下専門職教官等十二名、道からは岡本次長已亦主事の二名、市側は各市から十二名、市協十三名計三十九名。

23 上富良野の老馬

上富良野の老令馬相姫号については報知新聞でも取上げ報道されたが、地全協笠木専門役が岩見沢ばんえいの中休日を利用して、山本調騎会会長の案内で実馬を見てこられたのでそれを紹介しておく。特に笠木氏達は上富良野町役場に行つてその年令を確かめたという。現在はどうさんこ馬籍はないが昭和三十七年度の馬評価書(全)というのが保存されており、それには所属組合名、馬主、馬名、性、毛色、年令、評価額が記載されている。それによれば馬主は現在と同じ相良義雄氏(六十五才位)種類は土産馬の雑種で牝、鹿毛、昭和十六年生と明記してある。こととして明三十八才になる。評価額は四万八千円特徴は珠目正、波分と少なく右股に菊の烙印がある。このほかに



老馬と山本調騎会々長

地全協 笠木専門役提供

二、三の老令馬がいる話を聞くが三十八才はこれぞ正しく日本一の老令馬、いずれにしてもおそらくもう使役の用にはたなくなつた老馬の一生を愛情ひとすじで飼つておられる方々には馬党として深甚なる敬意を表したい、どうぞよろしくお願ひする。

24 市協主催実務研究会

恒例の本会主催実務研究会は五十三年二月六、七両日本会会議室で開催された。出席者は地全協浅川公正課長、渋谷、

野呂専門役、光石駐在員の四名、道からは亡亦主事、競馬振興公社の榎浦課長の二名、市からは八名、市協鈴木局長以下十四名計二十八名。

25 ばんえい珍百円

ばんえいの馬券は当りにくい連勝単勝で二百円以下の馬券私戻しは珍らしいといわれるが岩見沢第一回第一日第二レースで予想五社本命のテツイサミが一着となり卓勝売上げ二五三六票中二三三六票が的中、私戻しは首門也、ばんえいとしては特ダネものといふ。

26 騎手試験

地全協のばんえい騎手試験は九月十三日北見で学科を行ない、技術、健康、人物試験は十月十八日から同二十一日まで四日間帯広競馬場で行われた。受験者は調教專業五十一名、騎乗六十五名(うち新規三十名)計一六六名であった

27 ドサンコ共進会

北海道和種保存協会(会長曾田玄場長)主催の第一回全道和種馬共進

会は九月二十、二十一日の両日恵庭市畜産共進会場において開催され出陳馬は道南、道央、根室等七地区から四十五頭が集まり盛会だった。

28 釧路まき馬のせり市

日本馬事協会のまき馬実験牧場の産駒おす九頭めす四頭中十二頭は十一月十八日釧路農協連馬市協でせり売られた。

29 費用種牡馬管理者に奨励金

農用馬(はん馬を含む)は年々減少し昨年二月現在の調査では遂に一万三千頭台になったといふ。

減少の原因はもろろん機械化による馬稼働場所が減り採算が合わなくなったためだが、馬好き連中の老化、若者の馬ばなれによることも大きな原因といわれる。種牡馬管理者の場合も同じといわれ、本会では四十九年以来管理者賞を出している所以である。

種牡馬管理者に助成を……の願ひは十数年来本道馬産関係者の願望であったが、五十三年度から地全協の畜産振興費として認められることになったそうである。これは農協連が種牡馬管理費に対し助成を行った場合一頭あたり二十万円以下の補助金を交付しようというもので補助対象馬の認定は日本馬事協会が協力して行うことになっている。

30 ばんえいスポーツと併催

帯広競馬場の馬場内には広大なサッカー、競技場、ゴルフ練習場、テニスコートなどがあり、従来競馬開催のときは使用が禁止されていた。

ばんえい競馬については開催中でも競技場を開放することとなり五十二年からばんえいレースとスポーツをたのしむ老若男女の姿が重なりなんとほほは笑ましい眺めになった。

31 北見ばんえいに広報煙草

北見市では専売公社とタイアップしたチェリー二個入りの北見ばんえい広報煙草を作製したか人気好評直ちに売切れた由。

図柄は写真のように表にばんえい写真裏面に開催日程と重賞レース案内をのせている。

32 展示記念館に馬馬

札幌市野幌原始林のそばに建つ開拓記念館では一月五日から同二十二日まで「北国と馬」展を開催した。今年のエトにちな



んでの特別展で馬に関するすべてを公開、会場には約六十点の実物資料パネル六十点が展示された。ホールには新得畜産試験場から借り受けたというはく製のドサンコか飾られ背後の大壁面には蹄鉄

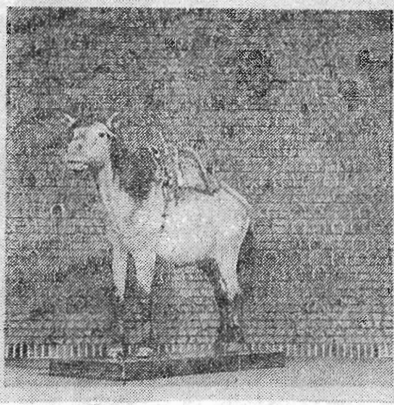
馬鉄立派に復元

歴史館
時計台

この歴史館は、昭和二十五年、ドサンコが、北見市に、建設された。この時計台は、昭和二十五年、ドサンコが、北見市に、建設された。

ドサンコの資料一堂に

拓 開 念 館 記念 展 北国と馬 展



千六百個かならび庄巻。

また札幌の象徴といわれる時計台は、昨年一杯かかって大々的に改築されたか、このほど歴史館として生れ変わり一月二十五日開館した一番のみものは一階に飾られた実物大の馬鉄こと、古き良き時代を走っていた馬車鉄道、馬はどさんこのはく製。

北海道の歴史記念館には必らず馬か飾られる。いかに馬か北海道の開拓に功績があつたかを偲ばせてくれる。

33 道営競馬に新企画

五十三年の道営競馬では次々に新企画が打出された。関東、関西、中国競馬場所属騎手の招待レース、交換レース、一日委員長、札幌ステーションデパート沿の地下街通路を転用しての馬と地方競馬展、同展会場における馬の蹄鉄四千個の寄贈と日割カード、騎手と服色一覧の配布などがある。

その理解か届いたのか旭川、帯広の不振を挽回し総体的には前年比十%増の成績をあげた。

34 チャグチャグ馬が無形文化財に

国の文化財保護審議会は岩手県盛岡市と滝沢村に伝わる農耕馬をいたわる行事「チャグ、チャグ馬ッコ」を無形民俗文化財に選り昨年十二月十日文化庁に答申した。

これは毎年六月十五日に行われ馬の保護神とされる蒼前神社に馬を美しく盛装して参詣し、馬名入りの絵馬を奉納したり、腰につけて帰ったりする行事である



35 村山豊氏の訃

北海道一の馬の博識村山豊氏は昨年春から不調で北大病院に入院加療しておられたが、これは息子さんのさし金で「俺は入院なんぞするような病人でないぞ」といつもなからの怪気炎で我々を安堵させていたものだった。ナルホド御令息は

北大医学部の先生だから親の異常に気づかれ、大事をとり入院をすすめたのかもしれない。
三月は退院されたとき、やはりそうだったのかよかったよかったと皆で喜んだものだ、それが六月頃斗南病院に再入院されたとき、もう七月には大往生を

とげられたときいて呆然なる気持だった。

誠に人生ははかなきものか「よき時代の馬役人の気概」を最後までもちつづけたひとり、北大学生時代農林省役人時代から現在に至るまで、氏の一生を通じて毒舌のきき役となり、親しかった日高軽種馬育成センターの間所長か友人代表として弔詞をのべられた、佐伯さん、村上さん「ふたりのバカヤロー親爺」がこの世から消えた、そッな順番だったのか(U)

36 朝日昇氏の逝去

かつての十勝農協連会長朝日昇氏が昨年十一月九日郷里浦幌で逝去された。

十勝は重ばん馬のふるさと、特に浦幌は有数の馬産地ばんえいにとっては縁浅からぬ方である。ここに生前の御貢献をしのび深く哀悼の意を表する。

37 上田吉隆師逝く

昭和二十四年公営ばんえい発生以来ばんえい競馬騎手として活躍してきた調教師上田吉隆氏(旭川市花吹町)は五十二年競馬には顔を見せず病氣加療中のところ四月二十二日自宅で逝去された。享年六十六才。

昭和四十六年資材の枯渇、変形など欠点の多い木盛から鉄ぞりに更改する前にいち早く古レールで調教用をりを製作し我々の研究に大きな貢献をしてくれた思い出がある。

38 カツタイホー号種雄馬に購買

日本馬事協会ではばんえいに出走経歴

のある優秀馬を種牡馬として購買する方針をたて昨年はタカナミ号を購入したか本年度は六、七才の優駿二十三頭を選定し、その中から野々宮厩舎のカツタイホー号を購入することに決定供用地は観望ときまった。

カツタイホーは昨年購買時七才五十九戦十勝取得賞金五、七一一〇〇円(重九三七K父ベル、オナシス母ベル系、宝明青毛準オーブクラスの駿馬であった。

39 ニジヨウホウ、ヨシイチ号騎手教養所

別記のように地全協ではばんえい研究班を編成してばんえい競走諸般の研究を進めると共に騎手教養所では良馬についてぎよ法の研究などを計画し、当代ばんえいの逸駿ニジヨウホウとヨシイチ二頭の購入がきまり、十一月最終帯広競馬終了後直ちに輸送し、同所厩舎に繋養された。

ニジヨウホウは、青毛のせん馬で父ペル鋭烈(エタロン系)、母は重平初梅、初代馬主は強豪ジヨウホウの馬主だった故小瀬太一さん、四十九年九月から現在の鳥湯氏に替る。

二二九戦二二二勝取得賞金三、六七〇万六千円

最後の出走は帯広最終回第五日目のばんえい重賞レース最高峰農林大臣賞で木村卓騎手が騎乗し、二着タツマキ、尾ヶ瀬騎手に十九・七秒差をつけて優勝、最後を飾った。

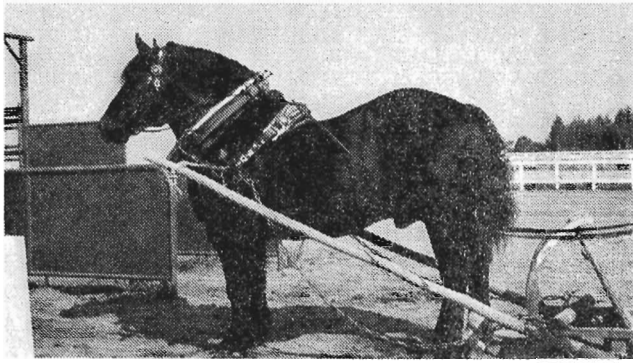
当日は小熊教養所長も来場し、親しく

観戦したが、最後の障害を一步、一步他馬に先んじて、進む毎に大観衆がヨイシヨ、ヨイシヨと声をかけ、それが一万人の大喚声となって場内外にこだましたときには、馬主としての感激とばんえい最高の醍醐味を味わったようだった。

木村厩舎所屬

ヨシイチはくり毛のせん馬で父ブルトン・ブリジダウ(仏国輸入馬)、母重半第二陸死で馬主は江丹別町の松井武雄氏引退まで八十八戦二十一勝、収得賞金額一、〇〇四万円

初出走は四十六年七月十八日第二回岩見沢で九頭立ていきなり一着をとって

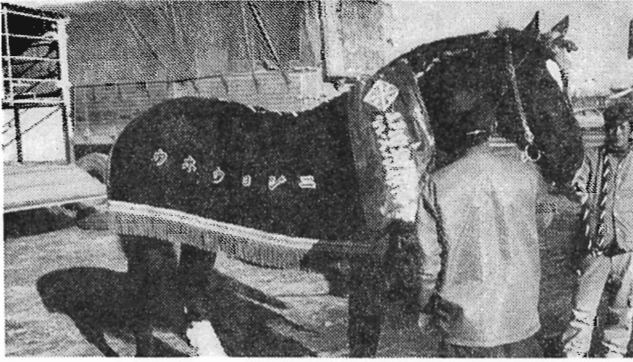


カツタイホー

る。最終出走は五十二年十一月六日第五回帯広で九頭立ての七着で終っている。松井厩舎、二頭とも四十二年生まれの十才。

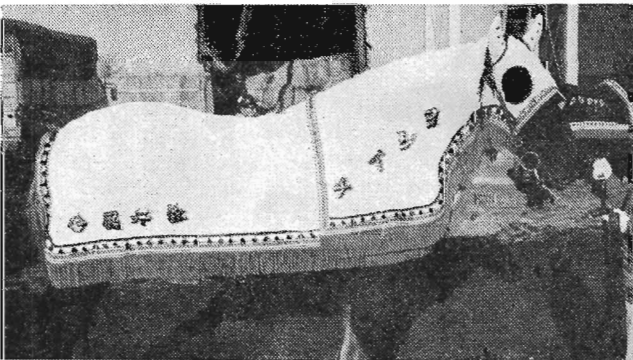
40 旭川売り上げ上昇全国一

旭川ばんえいは前年後年とも日曜土曜を含むという好日程に恵まれて売り上げも好調で前年一日平均二〇、二九五万円に対し本年度は二三三、八三四万円で一、七五%の増を示し、全国的に低調があるいは横ばい傾向といわれる中で全国一の上昇率を示す好成绩をあげた。
41 帯広農林大臣賞は新記録
帯広は本年ばんえいの先陣をつとめ、



ニジョウホウ

四月二十九日春雪の中で第一回を開幕したが、売り上げは第一回一〇億円台、第二回目は九億円とさがりまずまずの成績だったが第三回目は晩秋の十月十五日からフタを開けたが回を重ねる毎に売り上げは延びて最終回は道内の競馬がみな終ったこととあつて連日多数のファンがつめかけ第五日目の十一月十三日日曜日は農林大臣賞とばんえい菊花賞の重賞レースが重なり人気も絶頂点に達した。遂に農林大臣賞は大方の予想を超えて、九、八三六万円と昨年旭川八、三八〇万円を上回ること一、四五六万円、もちろんこのレースの最高レコード。



ヨシイチ

このレースは千キロの重量を背負って九頭の競馬が決戦をいどみ、第二障害までの平坦コースは各馬ストップ、ゴーを練りかえし、第二障害前で息を入れ、しばし休息、愈々障害ごえの先陣争いとなつた。

本命のニジョウホウは木村騎手の懸命の手綱さびぎに進んではとまり、進んではとまりいわゆる一寸引きで登坂したが、その力闘ぶりに観衆は一人一人のどよめきで声援を送り、勝つた。

この日の売り上げは五億四、三八九万円となり、これはばんえいの一、日最高を記録した。
前年一日平均一八、五七五万円に対し、一九、九八二万円となり、四〇七万円、一〇、七%増の成績を示した。

42 北見連年上昇となる
北見は連年売上げを飛躍してきた。それは正に驚異的な上昇ともみえた。本誌創刊号にのつた昭和四十五年以来の売り上げを見ると次のとおり。

| 年次 | 売上総額 | 一日平均 |
|-----|----------|-------------|
| 四十五 | 四二六九四万円 | 二二七一万円 |
| 四十六 | 六四三九六万円 | 三五七七万円 |
| 四十七 | 一一二八二六万円 | 四九〇五万円 |
| 四十八 | 二〇二〇五万円 | 八四二五万円 |
| 四十九 | 三三九八七万円 | 一一六六二万円(五回) |
| 五〇 | 三三三三九三万円 | 一三八四九万円 |
| 五十一 | 四〇七八一五万円 | 一六九九二万円 |
| 五十二 | 三九三八〇六万円 | 一六五九六万円 |

今年度は一日平均前年比僅かながら二九六万円、〇、〇一八%の減となり、まづは保合というところ。

いままであまり上昇しすぎたのではないかと話もあるがサテどうか。

43 岩見沢は十八億の記録をつくる
岩見沢は一昨年中央札幌競馬場が壮大な規模に改装されてから客足がへり、前年比二%減となったが、昨五十一年度は軌道にのって二十二、九%の増と上昇した。

ところが本年度は三回目まで低迷が続き冴えず。これはやはり中央札幌との併催らしいとか地元市民でばんえい開催を知らない人がいるとか、その原因はどこにあるのか充分検討してみる必要を痛感させられた。

ところが、最終第四回は日曜日が二日間においとお盆が加わり、中央札幌も終ったという好条件に恵まれて全ばんえい最高の売上げ一八億四、九五三万円を記録し概してファンは「ばんえい、離れはしていない。」といささかホッとした感じ、同市はファンアンケートもとり今後の経営上の参考資料とした。

44 ラッキー号の死亡

八月七日第三回岩見沢ばんえい第三日目第六レースに出場のラッキー号は一着で優勝後まもなく倒れ、そのまま死亡した。

ラッキーは鹿毛八才のせん馬で馬主は岩淵幸夫氏、渋谷厩舎所属

ばんえいにおける競走中における死傷は

極めて珍らしくラッキーの死は競走中と同じだとしても何年来のことである。

競走馬のレース中事故はさきに中央競馬の五十二年度の最優秀馬テンポイント骨折があり耳新しい思いだが、いつも感心させられたのは三本足で二、三百米も走っていることである。

馬の根性と激しい運動性、闘争心を思い知らされ、いじらしさに胸打たれる。ラッキーも最後まで敢闘した。

レース中はなんの異常も認められなかったという。哀悼にたえない。

45 市協創立十周年記念誌の出版

本会はばんえい競走主催四市によって昭和四十三年四月一日創立され本年十年を迎える記念事業として、本会内田参与が本誌に連載した「ばんえいとはどんな競走か」八年分と旭川道北振興がスポンサーとなって昭和四十八年から始めたHBCテレビのばんえいハイライト一口メモ五年分を集録して記念誌を作成出版することになった。

ちなみに同参与は昨年七月東洋信託銀行ロビーで馬の漫画と馬の画個展を開いたが同氏の話しでは一枚一枚よくみくられたお客さんは一日平均三十余名いたとのこと。

46 旭川に名物スナック「ばんえい」

神楽町の山田栄一さんはばんえいの馬主だが昨年末旭川市三条六丁目スナック「ばんえい」を開店した。

なんでもばんえいの大看板があつて入口はスターティングゲート、中に入ると

カッターの大きな木彫があり小上りは馬房を形どり飾りつけもばんえい具、給士さんは騎手服という擬りよう。好評で入りもいいとか。



全道のばんえい功労者を招き 設立十五周年記念式典挙行

北海道ばんえい馬主会、調騎会

ばんえい競馬馬主会及び同調騎会は昨年八月三十一日、旭川市まるせんデパート大ホールにおいて、設立十五周年記念式典を催した。同会は昭和三十七年ばんえい馬主騎手を一丸として、北海道ばんえい馬主騎手を設立、事務所を旭川市農政部内におき、初代会長には旭川市の谷脇光則氏が選任された。

昭和四十三年北海道市営競馬協議会が発足し事務局が札幌市に設置されたとき、事務所を同協議会内に移した。

同時に馬主会と騎手を分離することになり、初代馬主会長には帯広市の山数栄氏、同騎手会長には深川市の木村与惣治氏が選任された。

その後馬主会長は同年初旭川市宮越正雄氏に替り、昭和五十一年には現在の旭川市松浦慶三氏に交代した。当時会員数は二六九名、騎手会長は昭和四十五年美唄市の宇高輝次氏に替り、昭和四十八年名称を調騎会と改称、翌四十九年上富良野町山本幸一氏が会長に選任され現在に到っている。

事務局は昭和四十八年に旭川市中川ビ

ル六階に移転独立し、初代事務局長には元旭川市畜産課長の墓田大二氏が就任した。ちなみに同事務局は両会の事務を兼任している。

式後盛大な祝宴が催されたが各テーブルにはシャリイチ、トキミノル、初代パシユウハ、ハルトカチ、カチサカエ、トイホクイチ、シンツバメ、キヨユキ、ダイニミハルなど、いずれも農林大臣賞優勝の名馬の名が席名としてあり、さすがばんえいの祝宴と出席者を感嘆させた。

記

北海道ばんえい馬主会・ 調騎会設立十五周年記念式

- 一、日時 昭和五十二年八月三十一日
- 一、場所 旭川市四条七丁目 まるせんデパート八階ホール
- 一、式次第
 - ア、開式のことば
 - イ、物故者に対する黙禱
 - ウ、会長式辞
 - エ、会設立十五周年経過報告
 - オ、特別感謝状及び感謝状贈呈

カ、表彰状授与
キ、来賓祝辞

北海道市営競馬協議会会長
地方競馬全国協会会長
北海道競馬事務所長

ク、祝電披露
ケ、受賞者謝辞
コ、閉式のことば

祝 宴

感謝状贈呈者名簿

一、特別感謝状

谷 脇 光 則 (初代会長)

宮 越 正 雄 (前会長)

内 田 靖 夫 (市 協)

小 路 口 司 (")

田 中 一 郎 (全 協)

川 村 寛 (")

安 達 利 夫 (道)

高 瀬 精 一 (")

山 本 盛 雄 (")

小 林 辰 雄 (北 見)

桜 岡 勝 藏 (旭 川)

川 村 巖 (岩見沢)

山 数 栄 (帯 広)

故 佐 藤 孝 司 (旭 川)

故 坂 本 春 吉 (道)

故 大 久 保 吉 藏 (旭 川)

二、関係機関感謝状

道競馬事務所 和田 晴

市協 鈴木一彦、藤沢 博、大原 尚

串岡 博、中村克一、斉藤初男

穴吹 孝、岩崎善雄

旭川市 鈴木善次郎、浅川英夫、松森
宏次、勘川二郎、稲田孝治

岩見沢市 小倉輝行、中川達男

帯広市 川岸政夫、山本英宜

北見市 坂井清治、平元清勝

装蹄師 中野政夫、千葉 栄

表彰状授与者名簿

一、調教師及び騎手

旭川地区 木村与惣治、藤川晴雄、本
沢政一、小柳信一、(上フ)

山本幸一、晴披孝治、鶴沼

武、重田清、畠中芳勝、山

下正光、南坂俊雄、故上田

吉隆

岩見沢地区 宇高輝次、谷内二三松、
土本光威

帯広地区 中西閑松

北見地区 松原仁三郎、中村清信、平
田正一

二、馬 主

旭川地区 鶴治栄吉、長部毅一、生駒
尚徳、間島仁太郎、松井武

雄、南喜四郎、故鬼頭兼一

岩見沢地区 尾ヶ瀬庄五郎、坂口増太
郎

帯広地区 大友 栄、山田文作、佐々
木昌一、田原藤三

北見地区 猿倉久松、故沢田行治
故古川忠雄

三、既 務 員

旭川地区 佐々木一男、中口小吉

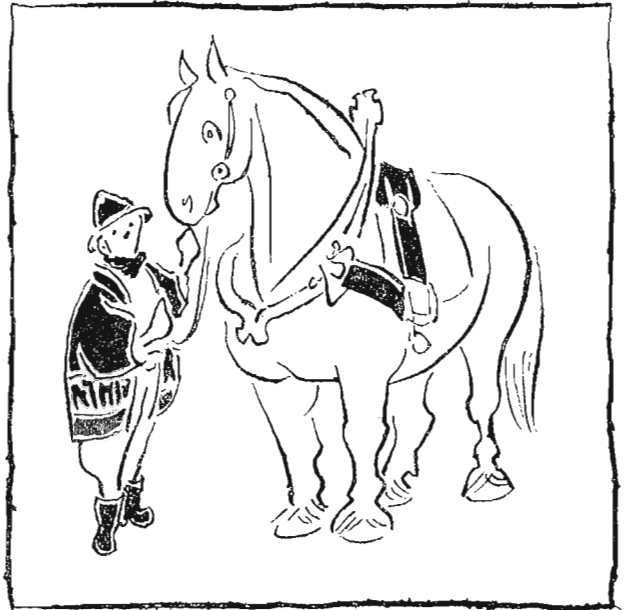
帯広地区 中田利夫

北見地区 川口正一

輓馬一代記 (一)

一 辺 境 の 聖 者 一

篠 沢 昭 二



プロローグ
湧岱(ゆうたい)營林署のM

氏からの連絡で、
渡道することとな

ったのは、一月下
旬のことであつ

た。A空港から湧
岱までは、鉄道、

バス、タクシー
と、ほぼ一日が

かりの行程で、營林
署に辿り着いたと

きは、日もとつぷ
りと暮れていた。

火の燃えさがる事
務所の中に這入っ

ても、身体の芯ま
で凍り付いた寒さ

は、いっこうに回復しなかつた。

霧(はぐり)けぶる 夕まぐれ

恋ほし 灯(は)のかけ かげらへど

今は えゆかず

セーニヨイラ セーニヨイラ

アイ 伊福部 昭

(ギリヤークの古き吟詠歌より)

「よくいらつしやいました。あなたの期待に沿えるかどうか分りませんが、急いで食事を済ませて、早速出掛けましょう。ここからジープで、まだ二時間ばかりかかりますが、八時過ぎまでには着くでしょう。」

「もう蔽(おほ)出しの仕事も、北海道でもめっきり減りました。このような割の悪い仕事は、早晚なくなってしまうでしょう。これから行く飯場にも、もはや輓馬は五頭しかいません。最盛時にはどの飯場にも、三十頭以上はいたものです。そして馭者も、今はすべて年よりばかりに成りました。あなたに紹介する島村伝吉

も六十才を越えています。けれども一生を輓馬とともに過ごした人ですから、きつと豊富な経験が聞かれることでしょう。」

やがて山間(やま)のごくわずかな平坦地に、二つの小屋があり、それぞれの小屋の壁突から、白い煙が立ち昇るのが見えた。漆黒の闇と、汚れない雪を背景にして、かすかなランプの灯りが窓に映え、軒先には剣のような木柱が、小屋一面に垂れ下っていた。小屋の扉を押して、われわれは中へ這入った。香(か)しい飼(か)葉(は)の匂いの薄踏(うす)がりに馬の姿が見え、その鼻息がたちまち白い煙となつて、闇の中に消え去つた。狭い通路をとおつて、一番奥のわずかに四枚の畳が敷かれた部屋に、島村伝吉氏は坐っていた。

六十才を越えているとは思えない、若々しく逞しい体格だった。背丈は百六十糎そこそこの短軀(たか)だったけれども、頑丈な肩、太い首そして血色の良い肌の色艶が印象的だった。短かく刈り込んだ髪、綺麗に剃り上げた濃い髭、そして左頬から顎にかけて、一筋の傷痕が走っていた。けれども太い眉毛の下の大きな眼は、異様なほど深く澄んでいて、恐ろしい容貌には見えず、なぜか心を和ませる優しさを感じさせるのだった。

何よりも驚かされることは、簡素(かんそ)をきわめる生活の中に、清冽(せいれつ)なただずまいのあることであつた。胴(た)が赤く焼けたストリーブの周りに、塵(ちり)ひとつなく、ランプの火屋(ひや)は光り輝き、部屋の隅にある蒲団

も、整然と覺まれていて、汗や垢の臭いひとつしないように見えた。

—

わしが生まれたのは、樺太であることは間違いないことですが、どこであったのかは分りません。わしの記憶にある最初は、小屋の中で二人の男女が、口汚く罵り合っていた光景です。きつとそれが両親であったに違いありません。しかし、それ以外何ひとつ想い出すことはできず、わしは結局兵隊へ行くまでは、高泊から二里離れた銅別という部落で過ごしました。

わしは孤児として、鈴木清兵衛という運搬業の親方に養われたのです。養われたというよりは、飼われたといったほうが当たっているでしょう。親方の仕事というのは、尾呂内川の上流から流されてくる木材の筏を解いて、馬車へ積み替え、高泊まで運ぶことでした。十人余りの馬車追いと、二十頭に近い鞍馬を所有して、その地方としては手広いほうでした。わしの最初の仕事は、馬を世話することでした。しかし幼いわしに、一体どれだけのことができたでしょう。

わしはいつもひもじさに苦しめられ、親方や気の荒い馬車追いたちに、扱き使われ些細なことで殴られるのが日課でした。わしのただひとつの慰めは、仕事へ行かない馬を連れて、凍原の中にわずかにある青草を喰わせて行くことだけで、それも六月から八月までのほんの短かい

期間でした。わしは幼な心に思い、ました。馬に生まれ変わりたい、どこにでも食物があり、好きなだけ食うことができのだから。わしは馬小屋の中の飼葉置場で、ぼろぼろの毛布にくるまって寝、寒さが厳しくなると、その毛布を持って飯炊き女の小屋へ行き、その隅で丸くなって眠るのでした。

わしの友だちは、馬だけでした。しかし親方は、馬に関する限りことのほかうるさく、馬車追いたちの馬の取り扱いについても、やかましく注文を付けるのでした。したがってどの馬もみな丸々と肥って逞しく、それがまた親方の自慢でもあったのです。

わしは朝早くから夜遅くまでの馬の世話を通じて、馬のことをひとつひとつ学んだのでした。身体の特徴、性質、そしてどんなに気性の荒い馬でさえ、少しには少しも恐れることがないことを知りました。気まぐれな親方や馬車追いたちに較べれば、はるかに気心が確かなのでありました。親方にこっぴどく殴られたあとでも、一番気に入りの馬の頸にかじり付いて、思い切り泣きじやくると、心はいつか晴れて行くのでした。

短かい夏が終わろうとするある晩のことでした。一日の仕事がすべて終わって、寝ようとしていたとき、馬小屋の扉がかすかに叩かれるのを聞きました。わしが門を引き抜くと同時に、一人の男が倒れ込みました。わしよりもぼろぼろの衣服を纏い、髪も髭もぼろぼろのその男

は、うめくように水を所望したのです。顔は死人のように蒼ざめ、針のように瘦せかけて、ここまで辿り着くことができず、たのが不思議なほど、弱り果ててしま

た。柄杓の水を浴びるように飲み干すと、まったく意識を失ってしまったのでした。

わしは瞬間に思ったのです。この男は



2人の男と巡査は引擦るように男を連れ去った

追われているに違いない。少なくともここから立ち去ることができるようになるまで、わしが守ってやらなければならぬのだと。わしはやっとの思いで、自分の寝床へ運ぶと、薬と毛布を掛けてやり、ランプの灯を近付けて、泥のように眠る男を眺めるのでした。緊張の夜は更けて行き、わしはその男の傍で、眠るともなく、醒っているのです。明け方近く、わしは意を決して男を揺り動かし、身体が回復してここから出て行くことができるようになるまでは、どんなことをしても守ることを、そしてわしがいけない間は、薬の中へ隠れているようにと告げました。男は眼に涙を一杯溜め、力なく頷くのでした。

一日は無事に過ぎました。しかしその男は高熱に蹠れ喘ぎ続け、わずかな食物さえ受け付けず、わしはほろきれを水に浸しては汗を拭い、額を冷してやる以外、なす術はなかったのです。男はときどき眼をかすかに開き、何かいいかげんに口を動かすのですが、言葉にはならないのでした。わしはこの男の生命の長くないことを知りました。そして元気がなくなって、ここから出て行くことができないのなら、その最期まで見守ってやろうと、あらためて決心するのです。

その翌日、わしは親方の使いで、高泊まで行かねばなりません。用達もそこそこへ帰り着くと、そこには最悪の事態が起こっているのを見ました。馬小屋の前には、親方、印絆纏を着た屈強な

男が二人、そして巡査とが、地面に跨っている男を取り囲んでいるのでした。印絆纏の男は、その薄い肩を掴み上げると、口汚く罵りながら、激しくその横面を張りました。男が枯木のように地面へ倒れると、別の一人はその男の腰を、力の限り蹴り付けるのでした。

二人の男と巡査とは、引擦るように男を連れ去って行きました。その男は弱々しいまなざしで、わしを凝視しました。

わしはそのとき始めて、骨肉の感情を知りました。遠去かるその男を見詰めながら、とめどもなく涙を流し続けるのでした。鉄道工事のたこ部屋からの逃亡者、その時代の樺太では決して珍しいことではないとしても、幼いわしの直接の経験としては余りにも大きく、わしの心の奥底にこの上もなく深い傷を、刻み付けたのです。

二

わしが始めて汽車に乗り、宗谷海峡を渡って、北海道の野砲××連隊へ入隊したのは、昭和××年のことであります。わしにとつて軍隊は、ひとつのことを除いて、天国ともいうべきところでした。

腹一杯食うことができる、新しい服を着ることができ、十分に眠ることができ、どれもこれも親方のあるところの生活に較べれば、別天地のようでありました。しかし、自分の姓名を辛く書くこと以外、まったく読み書きのできないわしは、たとえ鞍馬に関する取り扱いについ

て、同年兵の誰よりも早く軍隊のやり方に馴れることができたとしても、学課においてはどうすることもできない苦痛を味わねばなりません。

同じ班に佐藤浩之という、新津山出身の男がいました。その男は呉服商の独息子で、色白のほっそりとした身体付きは、砲兵隊へは何か場違いのように見えました。わしは、自分とはまったく異なる

った境遇に育ったその男に、何か惹かれるものを感じ、自由な時間のある限り、その男とつねに語り合うようになりました。肉親の情を知らないわしにとつて、年令が同じであっても、なぜか弟のように思え、内務教育の中で生じる洗濯、銃剣、軍靴の手入など、厳しい二年兵の眼を盗んで、何かと佐藤を援けてやるのでした。代りにわしは、佐藤から片仮名を



前後の見境もなく早坂の非をなじりました

一字一字、根気よく教わるのでした。運悪く佐藤が制裁の餌食となると、わしの心の中には、身替りになってやりたいという熱いものがありました。

わしはやがて、後馬取者としての地位を得ました。それは当然のことでありましょう。もつと性の悪い馬のもので、もはや五年の馬車追いの経験があるので、馬を取り扱うことに關する限り、わしにとつては何の苦勞もなかったのです。まして野砲隊に配属された馬は、北海道のより抜きのものでしたから。二年兵に早坂巖という男がいました。その男は、音寄の親子代々の馬車追いの出で、六尺に近い身の丈に、計り知れない力を漲らせており、どんな馬もその男に鞭を控えられると、身動きできなくなるのでした。その男はたちまちにして、わしの技量を見抜きました。しかし、軍隊において初年兵と二年兵の立場の差には、抜きがたいものがありました。その男は、二年兵の中でもっとも気が荒く、誰れからも鬼のように恐れられていましたが、わしはその男の馬の取り扱いを通じて、その男との強い近親感を抱くようになり、そして早坂も、わしに何かと眼を掛けてくれるのを、その粗暴な言動の中に感じるようになりました。

つて、わしと早坂は厩舎での馬の手入をすませて、兵舎へ戻りました。砲手の佐藤はすでに舎内におり、自分の軍装の手入をしておりました。早坂はどっかと椅子に坐るなり、佐藤へ自分の軍装を解くことを命じました。凍てつく寒さと、もつと癖の悪い後馬を扱ったいら立ちから、佐藤を見おろす眼付には、憎々しげなものがありました。佐藤は恐る恐る早坂の足元に蹲り、拍車を取り外そうとしたとき、その緩慢な動作が気に入らなかつたのか、語気も荒く佐藤の襟首を掴み上げて、固い拳でその頬を殴り付けたのです。佐藤はよろよろと床に倒れましたが、それでも弱々しげな肩を震わせながら、必死に立ち上ろうとしました。

わしの心の中には、早坂への熱い憎悪の血が湧き立ちました。わしは前後の見境いが付かなくなり、両者の間に割って立ち、早坂の眼を見据えながら、その非を詰りました。状況がどのようなものであれ、そのような行為が、軍隊の中では決して許されないとしても、わしの佐藤への気持は、どうしても疵わなければならぬ切羽つまつた何かがありました。早坂にとつて見れば、日頃可愛がっている馬から裏切られたような、手ひどい反抗と思えたのかも知れません。早坂の激昂はさらに募り、その両拳がぶるぶると震え、そして無意識のうちに長靴に差してあった驢馬鞭を引き抜くなり、怒声とともに襦袢姿のわしの身体を眼がけて、殴り抜きました。しかし、身の丈の違いとその憤怒で、いつもの正確な鞭捉ぎの手元を狂わせ、鋭い音とともにその鞭尖は、わしの顔にまともに捲き付きました。わしの眼の前に火花が散り、そしてすべてが真暗になりました。熱い血が、頬、鼻、口と流れ、それでもわしは負けるものかと、早坂を見据えるのでした。そのときの傷が、ごらんのとおりのものです。

班長の決断でこの事件は、表沙汰となることはなく、わしの怪我は不測の事故として、片付けられました。わしは、早坂に対する鬱積した憎悪と、佐藤に対するより深い親愛とを、激しく交交させながら、軍隊生活を過ごし続けるのでした。傲慢さを相変わらず失わない早坂の態度も、それが虚勢であることを知り、そしてわしに対しての気弱な感情を見ました。しかし、わしは頬に手を当てるたびに、春坂に対する憎しみが燃え盛るのでした。早坂は、ついにわしに謝ることなく除隊して行ったのです。

春の雲交りの日の演習のあと、佐藤は重い肺炎に罹って、病院に送られて行きました。わしは外出日待ちかねては、佐藤を見舞いました。短かい面会時間に、高熱でさらに痩せ細った佐藤を見ては、精一杯慰めの言葉を懸けるのですが、佐藤は一言も喋らず、潤んだ眼でわしの顔を、ただじっと眺めるのでした。最後の面会のときです。佐藤はわしにこういいました。お前に会えて良かった。お前のお蔭でおれは人の情を知り、どんな苦勞もお前がいる限り、おれは辛くはなかつた。もう一度元氣になって、お前といっしょうに過ごしたい。それがわしに対する佐藤の最後の言葉でした。佐藤のあつけない死を聞いて、わしはいかに佐藤が、わしの心の大きな支えであったかを知りました。

その後、わしは中支を転戦しました。ある作戦で二つの部隊が合流したことがあります。そのとき、わしは早坂に会いました。わしの心には、熱い復讐の衝動がありました。しかし、疲れ切った早坂には、もはやあの粗暴さは失われており、わしに弱々しくこういったのです。鳥村、悪かった。おれは同じ馬車追いとして、お前と仲良くやりたかつた。だが、お前と佐藤の親密さを見ると、お前がこの上もなく癪だつた。すまん、許してくれ。瞬間、馬の取り扱いを通じての早坂の気持が甦り、その憎しみが嘘のように消え去って行くのでした。戦後音寄へ行ったとき、早坂の戦死を知り、早坂の馬への動作のひとつひとつが、生々しくまた想い出されるのでした。

三

終戦となつて、昭和二十一年に復員することができました。身寄りもなく、故郷もないわしは、戦友を頼つて北海道の沙河へ、ともかく落ち着きました。しかしいつまでも世話になるわけにも行かず、仕事を探さねばなりません。馬のこと以外何ひとつできず、年令も三

十に近く、身元も不確かであれば、最低の条件の仕事にありつく外はありませんでした。わしの新しい親方は、五十年輩の森崎喜八という男で、七頭の鞍馬を所有していて、自分自身も馬を使って、沙河炭砒から石炭を、発電所まで運搬することを請負っていました。

一里強の道程、一往復は積み卸しを含めて約三時間かかり、二往復の請負はすべて親方の懐に這入り、それからわしたちは二往復して、やっとかつかつの賃金を得るのでした。朝六時から夜七時まで、働きづめに働いて得たわずかな銭も、うさばらしの酒に、またたく間に消えて行くのでした。その仕事はこの上もなく激しいもので、重たい積荷、悪い道路、そして近道をするための険しい坂、わしたちだけでなく、馬にとっても消耗以外のなにもでもないのです。

親方のやり方、それは馬を取り扱うものにとつて、最低の人間の屑のやることだったと思います。親方との生活は、人間にとつても、使役される馬にとつても、地獄そのものでありました。親方の所有する馬はすべて、農家、炭砒、造材山、ありとあらゆるところで酷使されぬいてほとんど厩馬に近い年老いた馬か、故障したか、あるいは悪癖でどうにもならない馬を、馬喰相手にぎりに負けさせたものでした。親方はその衷れな馬たちの、最後の一滴の血まで搾りとろうという苛責ないやり方を、馬車追いたちにも強制するのです。

同僚の馬車追いも、生活の苦しさのためか、親方のやり方に馴れてしまったのか、誰もが気が荒く残酷で、馬を劣ることもなく、手入れもぞんざいでした。親方は馬糧についても、最小の費用しか投入しようとしませんでした。泥濘の春先き、炎天の夏、凍て付いた冬と季節は回り、馬の難儀は増えこそすれ、減ることはないのです。馬車追いたちは、馭者(手綱の略称)の端に鎖を付け、精一杯馬が曳いているときでさえ、情容赦なく打擲し続け、坂道で止まろうものなら、スコップの柄で、力の限り殴り付けるのでした。馬が倒れもはや使えぬものにならなくなると、屠殺場へ運ばれて行き、消え去った馬とさして変わらぬやぐざな馬がまた補充され、地獄の責苦が待ち受けているのでした。

しかしわしは幸運でした。そのような環境にいて、わしに当てがわれたのは、もつとも若く強い馬でしたから。けれどその馬は、多くの人手の間に、咬癖、蹴癖、後退癖と、悪癖のほとんどを身に付けて、ここへ流れてきたのでした。わしは人知れず、その癖を何とかしなければなりません。人眼を隠れて、半殺しになるまで折檻したこともありま。しかしわしにはひとつの信念がありました。馬を殴るのは心を通せるためであり、腹いせのためでは決してなく、馬が可愛いからだと思じていたからです。やがてわしたちは、たがいに信頼し合うようになり、人一倍働くことができるよ

うになったのです。親方はそれが妬ましく、自分の馬と交替させましたが、親方の使い方ではうまくいくはずはなく、馬車を鉄塔へ撃突させ手痛い出費をしいられてからは、わしの任せ切りにさせました。わしは乏しい賃金の中から、燕麦を喰わせてその馬が丸々と肥るのを、その生活のただひとつの生甲斐としていました。

わしが行く飲屋に、十八位の瘦せた幸枝という女がいました。農家の口減らしのために、その店に雇われたという噂でした。馴れない手付で酌をするその女は、口数も少なく控えめで、ただ不釣合なほど大きな瞳が、いつも衷れ気であるのを見るにつけ、わしはしだいに惹かれてくるのに気が付きました。ある晩わしはこっそりと、つぎの休みに会って欲しいことを告げました。女は恥かしげに、かすかに頭を縦に振りました。

わしは一張羅の冬の軍服を着て、人影のない発電所の裏門の前に行きました。女はもうきていました。われわれはほとんど無言で、歩き続けました。北海道の短かい秋、空は青く澄み、静かなときが流れました。もはや青草の姿は消えようとする草原に、われわれは並んで坐りま。突然、女はわしの胸の中に頭を付けて泣き伏しました。そして涙ながらに、わたしは二度目の母親との折合が悪く、頼りの父親はまだ復員してこず、家を出なければならなかったのだと語りました。わしは女の髪を撫でながら、黙っ

て聞いていました。わしは生まれて始めての女に対する熱いものを感じました。そして何としてでも、この女を守らうと決心しました。それはわしの身体全体をゆする切実な衝動でありました。

わしは女の前借を払ってしまおうと、手元の蓄えは何ひとつ残りませんでした。しかしわしは満足でした。近づく冬の北風が吹き抜ける荒屋の、わずかに敷かれた粗末な蓆の上には、綿もはみ出た蒲団にくるまって、たがいの身体を暖め合うとき、わしたちの生活の惨さは、少しも気にならなかつたのです。幸枝との生活の始まりを思うとき、今もわしは心のと きめきを感じます。けれどもわしの生活は、相変わらず無慈悲な親方の手に握られていて、一人人口が増えただけ苦しいものとなって行き、馬への食いものも粗末になるのを、防ぎ止めることはできませんでした。

やがて決定的なことが起こりました。その馬の働きを見て、買いたいという馬喰が現われたのです。親方はわしの心を斟酌することなく、駆引きの限りを尽して、売り渡してしまつたのです。わしは心の底から湧き上る怒りを押えることができず、親方の非を烈しく詰りました。親方と雇人、わしにどんな方法があつたでしょう。荒々しく辞めることを告げるなり、親方のもとを去りました。妻の顔が浮かび、これからの生活を思うとき、今さらながらその短気が悔まれるのです。わしは力なく妻に告げました。幸枝

はいました。

「あなたのしたことは違っています。わたしには、馬とともに親方のもとを男らしく去ったことのほうが、ずっと嬉しいのです。わたしには、失うものは何もないではありませんか。今からあらためてすべてを始めれば良いのです。わたしには、あなたさえいれば、何も欲しいものはないのです。」

そう、また出直せば良いのだ。わたしではない。妻もいる。わしの心の中には、新しい氣力の湧くを感じ、幸杖の手を強く握り締めました。

夜も更けました。こんな話を長々と聞かれて退屈ではありませんか。そうですか。それでは明日は休みですから、この続きは明日いたしましょう。夜具はそれを使って下さい。わしは馴れていますから、あなたの横に毛布にくるまって寝ます。風邪を引かないように気を付けて、ゆっくりとお休み下さい。わしは馬の様子を見てきます。……

(続く)



幸杖「あなたのしたことは違っています」

筆者 紹介

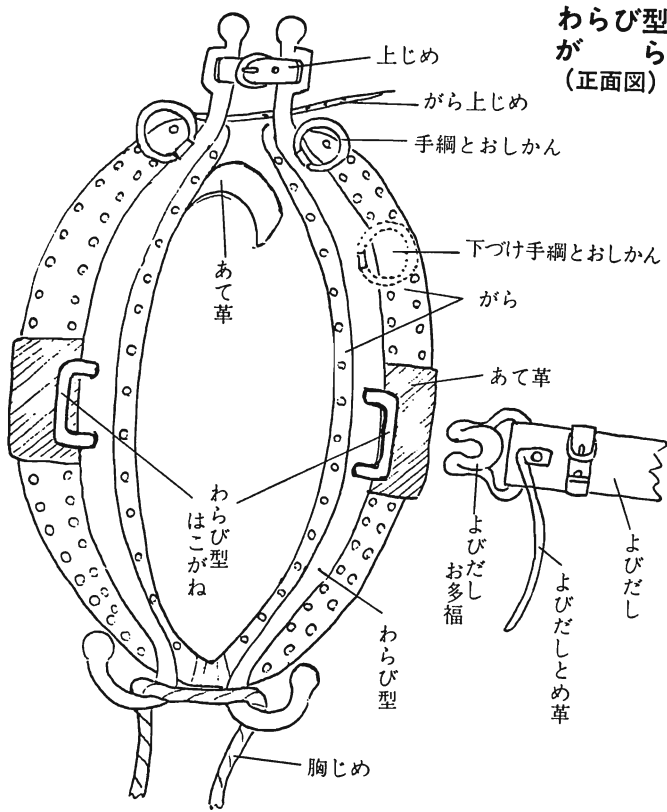
筆者を知ったのは、約六年前の事だが、一昨年十月同君が、故大久保吉藏氏弔問の爲、旭川へ立ち寄った際、始めて長時間話し合う機会を得た。同君はあるコンピューター・メーカーの技術者で、昭和二年の生まれだと言ふ。SLファンと同じ様に、鞍馬ファンに過ぎないと言ふが、私には趣味の域を甚だしく、逸脱して居る様に思へる。

同君の鞍馬への傾倒振りには、尋常ではない。私事に亘って恐縮だが、三十数年前『馬部隊』と言ふ本を出した事がある。それを読んで以来、私の名前を記憶して居たと言ふ。北海道の辺地を訪ね、鞍馬と共に過ごした人々の体験談を聞く事に、餘暇の最大の楽しみがあると云ふ。使役としての鞍馬は、殆んど消滅しようとして居るのに、それ等の記録が散逸して行く事が、同君の関心を強く駆り立てるらしい。何よりも同君の書くものが、率直に鞍馬への感慨を語って居ると思ふ。

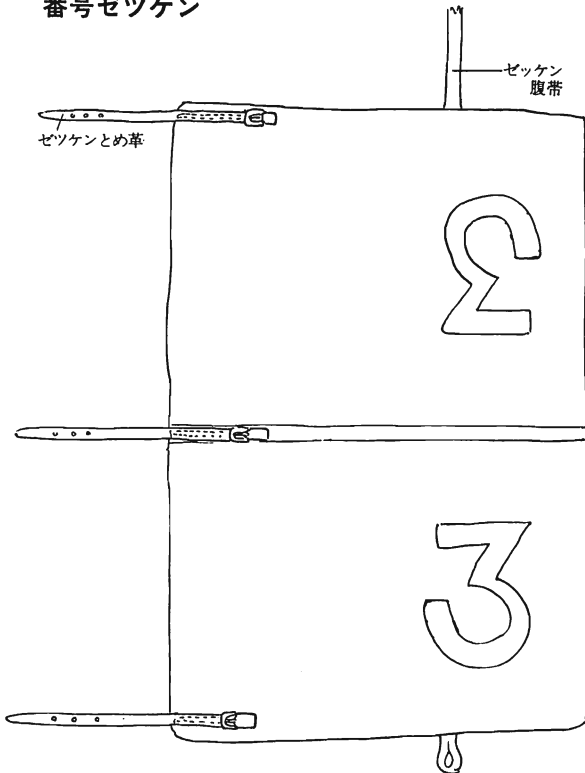
(内田)

競走用具の研究

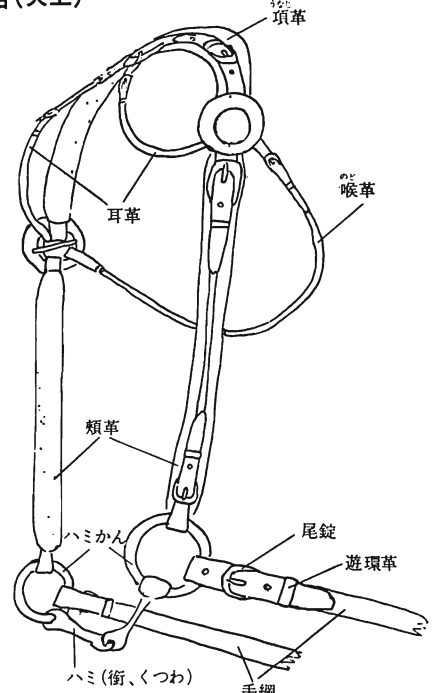
各部の名称



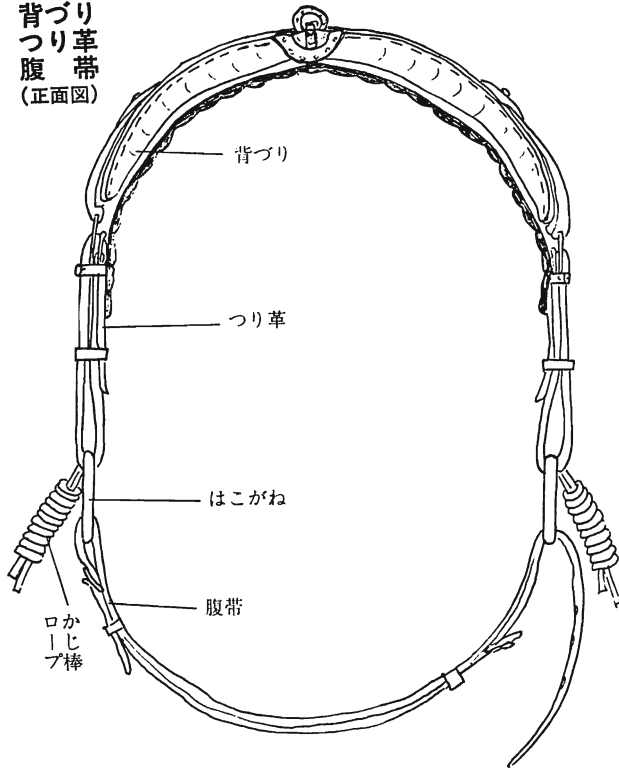
番号ゼツケン



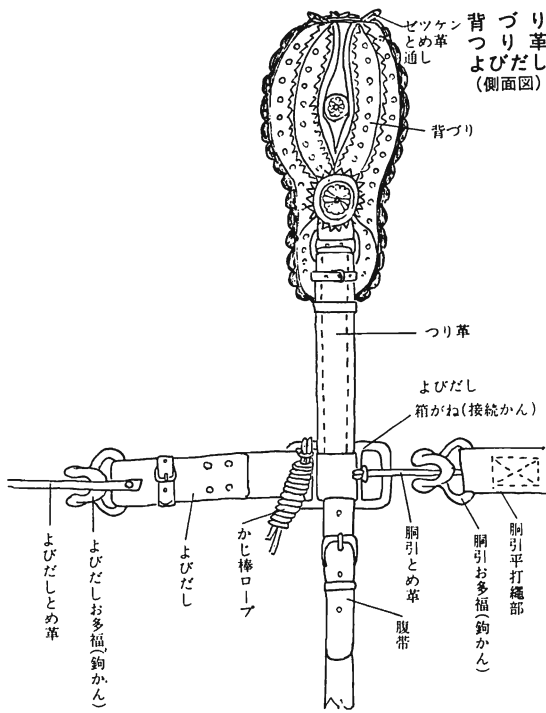
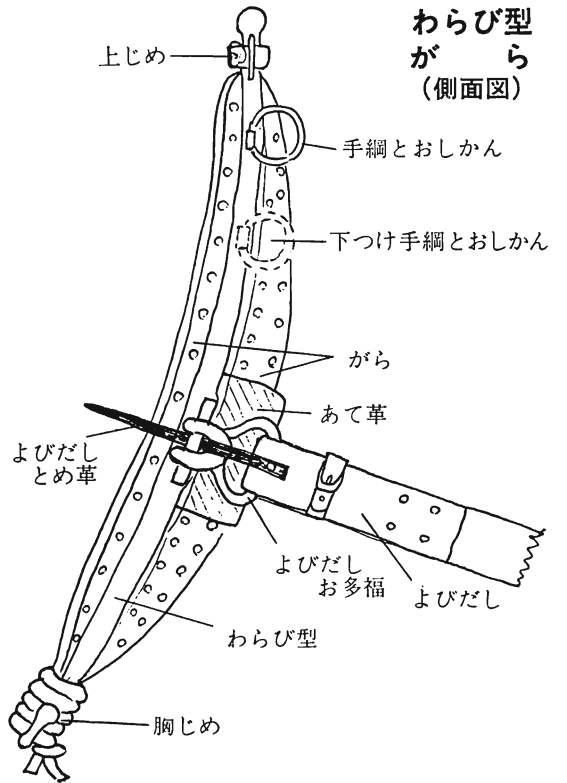
頭絡(天上)



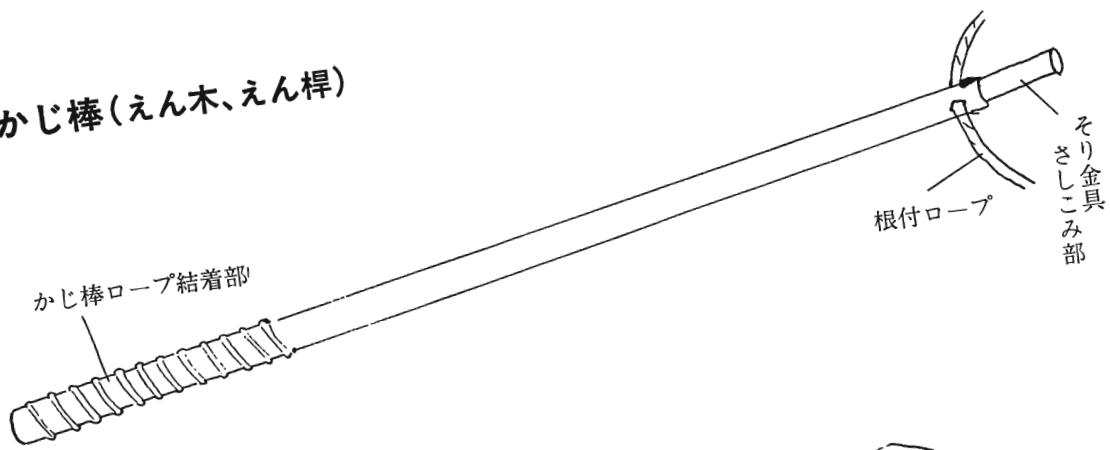
背づり
つり革帯
(正面図)



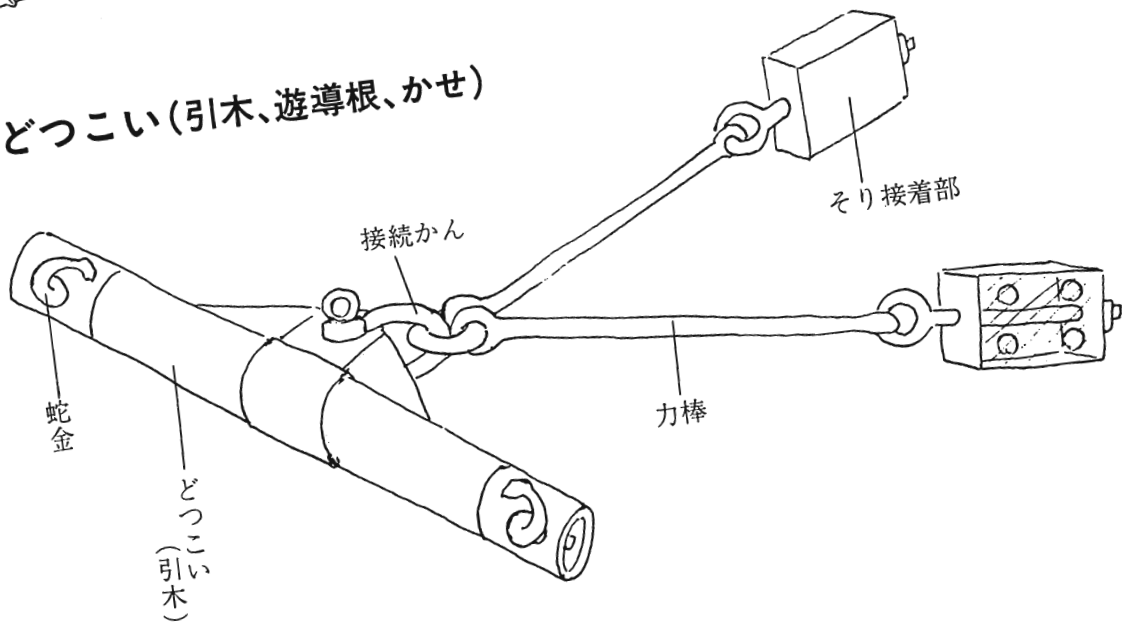
わらび型
がら
(側面図)



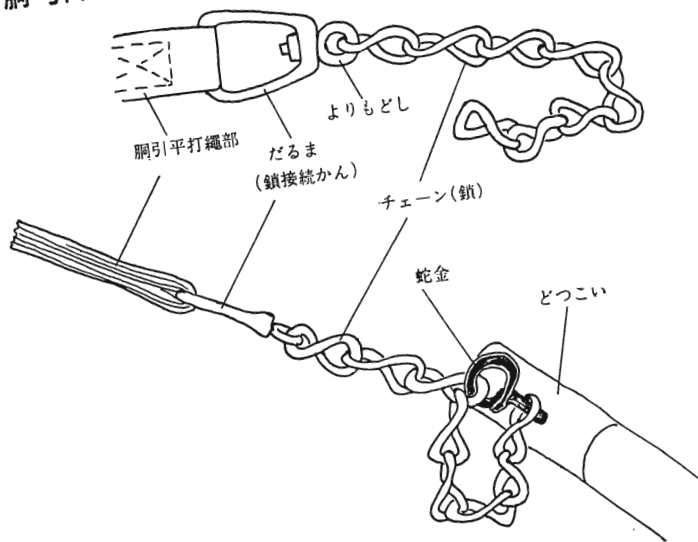
かじ棒(えん木、えん桿)



どっこい(引木、遊導根、かせ)

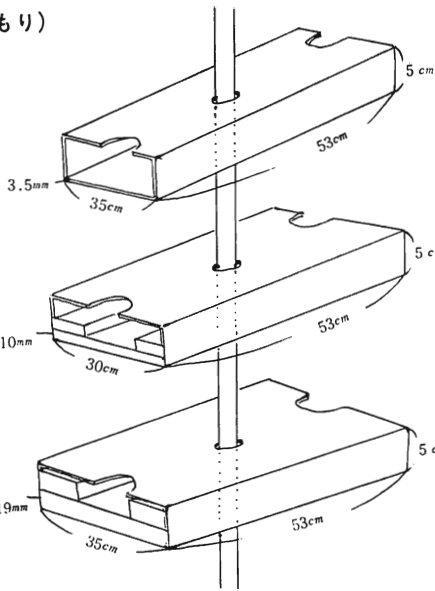


胴引(ばんさく)

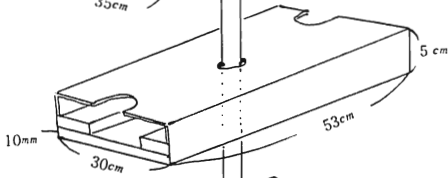


重量物(おもり)

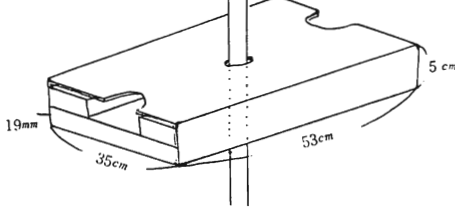
(10kg)



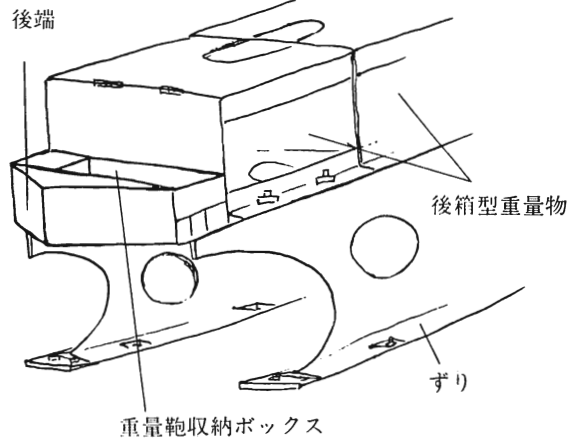
(30kg)



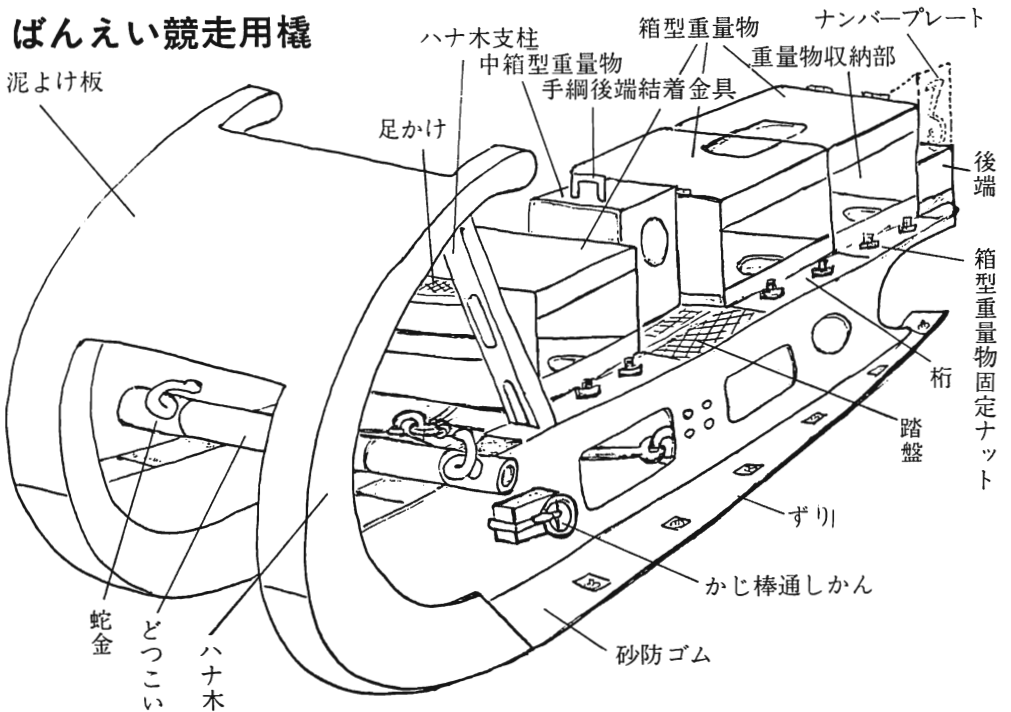
(50kg)



そり後部



ばんえい競走用橇



図面は地方競馬全国協会渋谷専門役に、
名称については同協会野呂専門役のご協
力をいただいたものである。

各地の祭典ばんば

本会は馬産奨励事業の一環として、昭和四十八年度より発足、第一回の副賞については、旭川市に在住されている陶工家阪東陶光氏に製作を依頼し、各主催者よりご協力を賜りました。

申請の提出が十五件もありましたが、製作の完成に時間がかかり、祭典ばんば第一回副賞重観レリーフ完成期には、終了報告のみを送分として十件のみに終わり、各主催者開催時期が遅れたため残念ながら五件については発送ができなくなりました。

昭和四十九年度よりは、前年のようなことが、絶対にならないよう、ご迷惑をかけたためにも万全な対策で、主催者各位に遺漏のないよう努力したつもりです。

さて発足以来六年目を迎え、市営ばんば競馬発展のためにも、奮って祭典(記念)ばん馬競走を開催し将来の馬産育成にご協力下さい。

昨年度までの祭典(記念)ばん馬大会の申請のありました、団体、主催者を紹介してみよう。

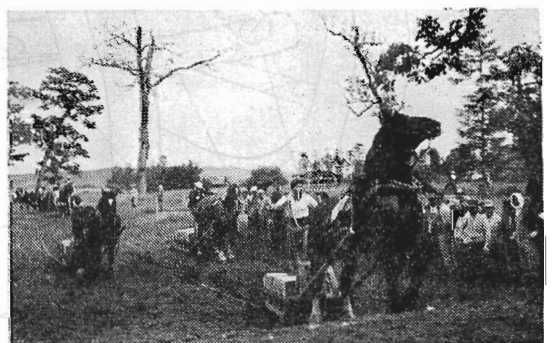
- 昭和四十八年度 申請団体(主催者)
- 白糠町愛馬同志会、池田町輓馬愛好会、和寒町輓曳会、美深町馬事振興会、士別町畜産振興協議会、東士幌馬会、鹿追町軽ばん馬競技会、足寄町輓馬協会、丸瀬布町ばんば競技会、芦別市輓馬会、渡島家畜商協同組合、美瑛町農業協同組合、愛別神社祭典ばん馬協議会、佐呂間神社祭典委員会
- 以上十五団体
申請団体(主催者)
昭和四十九年度

- 足寄町輓曳協会、和寒町輓曳会、鹿追町軽ばん馬競技会、虻田町馬産改良同志会、白糠町愛馬同志会、上落滑町馬産振興会、板柳町愛馬会、新十津川町輓曳競技会、置戸町輓馬競技会、伊達市愛馬倶楽部、佐呂間町畜産振興会、池田町輓馬愛好会、美深町馬事振興会
- 以上十三団体
昭和五十年年度 申請団体(主催者)
- 和寒町輓曳会、足寄町輓馬協会、新十津川町輓馬競技会、美深町馬事振興会、上落滑町馬産振興会、池田町輓馬愛好会、鹿追町軽ばん馬協議会、阿寒町馬事振興会、置戸町山林労働組合、弟子屈町馬産振興会、東士幌町秋季祭典輓曳競馬会、
- 以上十一団体
昭和五十一年年度 申請団体(主催者)
- 池田町輓曳会、阿寒町馬事振興会、遠軽町輓馬競技会、鹿追町軽輓馬競技会、相馬妙見神社愛馬講、東士幌地区連合会、足寄町祭典統統競技会、上落滑町馬産振興会、上士幌町祭典統統馬競技会、弟子屈町馬産振興同志会、佐呂間町輓馬会、
- 以上十一団体
昭和五十二年年度

- 申請団体(主催者) 会長名
- ◎ 池田町輓馬愛好会 会長田中 弘
- 第二十七回池田町輓馬競技大会
- 1 開催日 六月十五日
 - 2 場所 同町清見ヶ丘特設馬場
 - 3 出走頭数 町内、町外馬計 五三頭
 - 4 競走数 二十レース
 - 5 入場者数 一、二〇〇名
 - 6 本会副賞授賞者 野村弘信



発走 町内レース(池田)

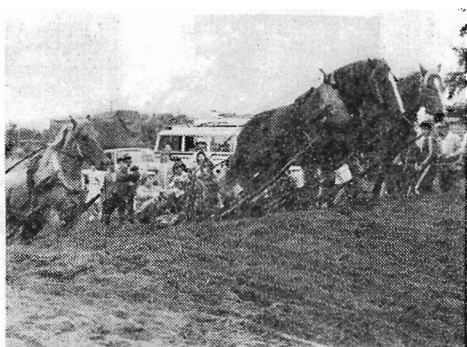


町外レース(池田)

第17回
鹿追町競馬競技大会
プログラム

と き 昭和三十七
ところ 鹿追競馬場
開 場 午後七時三十分
開 演 午後七時

開 演 式
1. 開会式
2. 旗手退場
3. 旗手入場
4. 旗手退場
5. 旗手入場



鹿 追

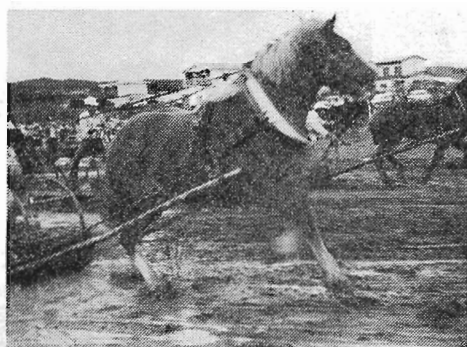
プログラム

| | | |
|----|------|-----|
| 1 | 旗手退場 | 25分 |
| 2 | 旗手入場 | 25分 |
| 3 | 旗手退場 | 25分 |
| 4 | 旗手入場 | 25分 |
| 5 | 旗手退場 | 25分 |
| 6 | 旗手入場 | 25分 |
| 7 | 旗手退場 | 25分 |
| 8 | 旗手入場 | 25分 |
| 9 | 旗手退場 | 25分 |
| 10 | 旗手入場 | 25分 |
| 11 | 旗手退場 | 25分 |
| 12 | 旗手入場 | 25分 |
| 13 | 旗手退場 | 25分 |
| 14 | 旗手入場 | 25分 |
| 15 | 旗手退場 | 25分 |
| 16 | 旗手入場 | 25分 |
| 17 | 旗手退場 | 25分 |
| 18 | 旗手入場 | 25分 |
| 19 | 旗手退場 | 25分 |
| 20 | 旗手入場 | 25分 |
| 21 | 旗手退場 | 25分 |
| 22 | 旗手入場 | 25分 |
| 23 | 旗手退場 | 25分 |
| 24 | 旗手入場 | 25分 |
| 25 | 旗手退場 | 25分 |
| 26 | 旗手入場 | 25分 |
| 27 | 旗手退場 | 25分 |
| 28 | 旗手入場 | 25分 |
| 29 | 旗手退場 | 25分 |
| 30 | 旗手入場 | 25分 |
| 31 | 旗手退場 | 25分 |
| 32 | 旗手入場 | 25分 |
| 33 | 旗手退場 | 25分 |
| 34 | 旗手入場 | 25分 |
| 35 | 旗手退場 | 25分 |
| 36 | 旗手入場 | 25分 |
| 37 | 旗手退場 | 25分 |
| 38 | 旗手入場 | 25分 |
| 39 | 旗手退場 | 25分 |
| 40 | 旗手入場 | 25分 |
| 41 | 旗手退場 | 25分 |
| 42 | 旗手入場 | 25分 |
| 43 | 旗手退場 | 25分 |
| 44 | 旗手入場 | 25分 |
| 45 | 旗手退場 | 25分 |
| 46 | 旗手入場 | 25分 |
| 47 | 旗手退場 | 25分 |
| 48 | 旗手入場 | 25分 |
| 49 | 旗手退場 | 25分 |
| 50 | 旗手入場 | 25分 |

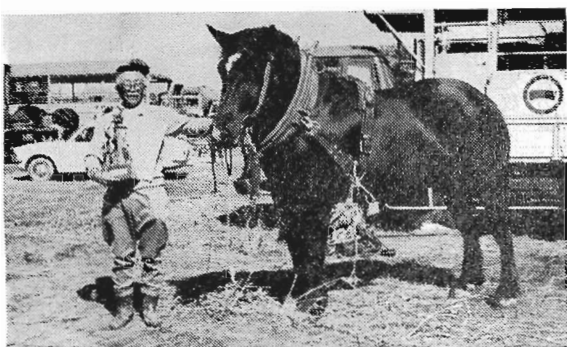


9月8日 7:30PM NHKで放映された婦人レース(鹿追)

| | | |
|----|------|-----|
| 1 | 旗手退場 | 25分 |
| 2 | 旗手入場 | 25分 |
| 3 | 旗手退場 | 25分 |
| 4 | 旗手入場 | 25分 |
| 5 | 旗手退場 | 25分 |
| 6 | 旗手入場 | 25分 |
| 7 | 旗手退場 | 25分 |
| 8 | 旗手入場 | 25分 |
| 9 | 旗手退場 | 25分 |
| 10 | 旗手入場 | 25分 |
| 11 | 旗手退場 | 25分 |
| 12 | 旗手入場 | 25分 |
| 13 | 旗手退場 | 25分 |
| 14 | 旗手入場 | 25分 |
| 15 | 旗手退場 | 25分 |
| 16 | 旗手入場 | 25分 |
| 17 | 旗手退場 | 25分 |
| 18 | 旗手入場 | 25分 |
| 19 | 旗手退場 | 25分 |
| 20 | 旗手入場 | 25分 |
| 21 | 旗手退場 | 25分 |
| 22 | 旗手入場 | 25分 |
| 23 | 旗手退場 | 25分 |
| 24 | 旗手入場 | 25分 |
| 25 | 旗手退場 | 25分 |
| 26 | 旗手入場 | 25分 |
| 27 | 旗手退場 | 25分 |
| 28 | 旗手入場 | 25分 |
| 29 | 旗手退場 | 25分 |
| 30 | 旗手入場 | 25分 |
| 31 | 旗手退場 | 25分 |
| 32 | 旗手入場 | 25分 |
| 33 | 旗手退場 | 25分 |
| 34 | 旗手入場 | 25分 |
| 35 | 旗手退場 | 25分 |
| 36 | 旗手入場 | 25分 |
| 37 | 旗手退場 | 25分 |
| 38 | 旗手入場 | 25分 |
| 39 | 旗手退場 | 25分 |
| 40 | 旗手入場 | 25分 |
| 41 | 旗手退場 | 25分 |
| 42 | 旗手入場 | 25分 |
| 43 | 旗手退場 | 25分 |
| 44 | 旗手入場 | 25分 |
| 45 | 旗手退場 | 25分 |
| 46 | 旗手入場 | 25分 |
| 47 | 旗手退場 | 25分 |
| 48 | 旗手入場 | 25分 |
| 49 | 旗手退場 | 25分 |
| 50 | 旗手入場 | 25分 |



足 寄



市営競馬協議会賞受賞馬(足寄)

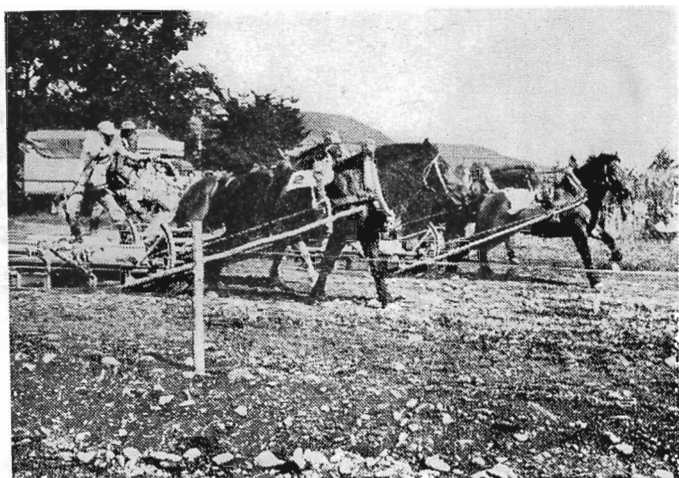


障 害(足寄)

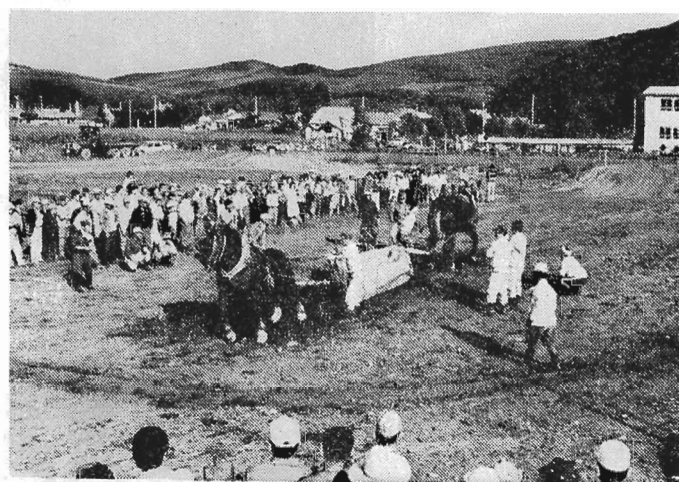
- 7 授賞馬 カンコウ桜号 重半雌3才
- ◎ 渡島家畜商業協同組合
七飯支部長 田口正一
- 七飯町競馬競技大会
- 1 開催日 七月三十一日
 - 2 場所 同町上藤城 特設馬場
 - 3 出走頭数 七十二頭
 - 4 競走数 二十一レース
 - 5 入場者数 一、七〇〇名
 - 6 本会副賞授賞者 安藤岩一

- 7 授賞馬 五月号 重系 雄7才
- ◎ 鹿追町農業協同組合会長佐渡一男
- 第十七回鹿追町軽ばん馬競技大会
- 1 開催日 八月十七日
 - 2 場所 同町瓜幕競馬場
 - 3 出走馬数 五十四頭
 - 4 競走数 三十二レース
 - 5 入場者数 七〇〇名
 - 6 本会副賞授賞者 飯田 實
 - 7 授賞馬 十勝花号 雌8才

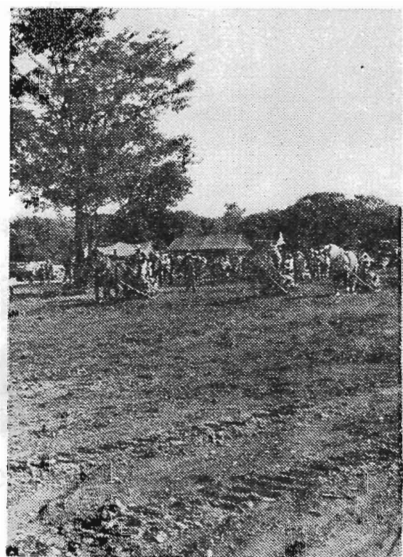
- ◎ 足寄町ばん馬協会 会長 斎藤 裕一
- 第十回足寄町家畜祭競曳大会
- 1 開催日 九月十五日
 - 2 場所 同町栄町グラウンド
 - 3 出走頭数 七十頭
 - 4 競走数 二十六レース
 - 5 入場者数 一、〇〇〇名
 - 6 本会副賞授賞者 山内 誠
 - 7 授賞馬 カチユキ号 重半



原木積載レース（ケツ引き）（上渚滑町）



ゴールめざして力走（上渚滑町）



スタート直後「ガンバレ、ガンバレ」

◎ 相馬妙見神社愛馬講

会長 齋藤 忠治

滝上町祭典ばん馬競走大会

1 開催日 九月一日

2 場所 同町幸町ばん馬競技場

3 出走頭数 六十八頭

4 競走数 二十七レース

5 入場者数 一、五〇〇名

6 本会副賞授賞者 千頭 裕

7 授賞馬 滝上トップ号 雌14才

◎ 佐呂間町畜産振興会 会長 栄元治

佐呂間町畜産振興馬大会

1 開催日 九月二十六日

2 場所 同町農業者畜センター

3 出走頭数 六十五頭

4 競走数 二十八レース

5 入場者数 一、八〇〇名

6 本会副賞授賞者 谷口 良雄

7 授賞馬 アズマヒカリ号 雌2才

◎ 上渚滑町馬産振興会

会長 柏尾 直一

上渚滑町ばん馬競技大会

1 開催日 九月十六日

2 場所 上渚滑競馬場

3 出走頭数 四十八頭

4 競走数 十八レース

◎ 標茶町馬事振興会

会長 西内信 雌14才

第二回標茶町幌馬競技大会

1 開催日 九月二十三日

2 場所 同町集散地家畜市場

3 出走頭数 一〇〇頭

4 競走数 二十レース

5 入場者数 二、〇〇〇名

6 本会副賞授賞者 井出 清澄

7 授賞馬 イデフジ号 10才

◎ 東土幌祭典幌曳競馬会

会長 奥田 暗夫

音更町東土幌幌曳競馬大会

1 開催日 九月二日

◎ 第三十三回阿寒町幌馬競技大会

会長 齋藤 六市

1 開催日 八月十五日

2 場所 同町幌馬特設会場

3 出走頭数 七十一頭

4 競走数 十七レース

5 入場者数 二、一五〇名

6 本会副賞授賞者 山崎 彦政

7 授賞馬 マツミドリ号 重半雌5才

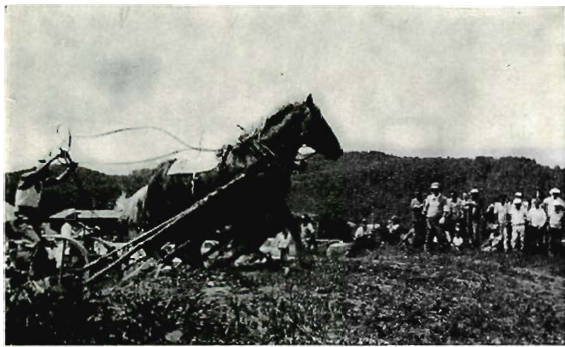
◎ 弟子屈町馬産振興同志会

会長 坂口 府一

第四回弟子屈町幌馬競技大会

1 開催日 九月十一日

2 場所 同町鑑別桜ヶ丘特設馬場



第33回阿寒町鞍馬競技大会 障害での追打



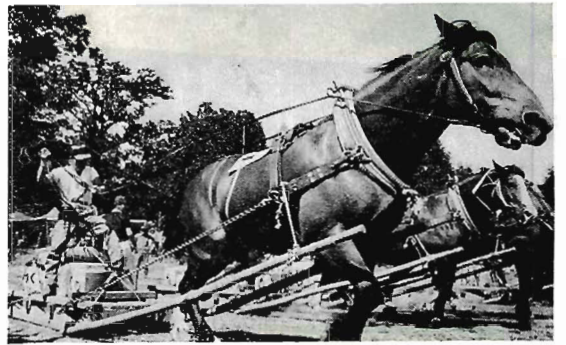
親子三代馬



東士幌



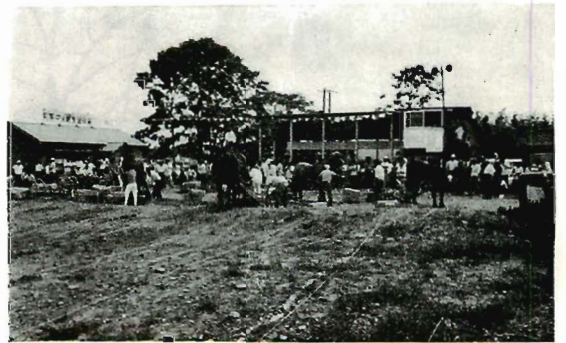
観戦している町民（弟子屈）



秋季祭典典曳競馬大会（音更町東士幌）



道産子による平地競走（弟子屈）



発走前の準備（阿寒）

- 3 出走頭数 九十六頭
 - 4 競走数 二十一レース
 - 5 入場者数 一、五〇〇名
 - 6 本会副賞授賞者 有具 幸作
 - 7 授賞馬 センユイ号 中半 雌9才
上士幌町ばんば大会
 - 1 開催日 九月二十日
 - 2 場所 同町宮グラウンド
 - 3 出走頭数 五十頭
 - 4 競走数 十レース（終了報告は未着）
佐呂間町若佐地区馬産振興クラブ
 - 1 開催日 十月十一日
 - 2 場所 同町若佐ばんえい場
 - 3 出走頭数 八十頭
 - 4 競走数 二十五レース
- （終了報告は未着）

競走日の一日



馬衛所



朝もやの中で調教



装鞍所



ソリ、重量物を格納庫から出す



駐車場も満ばい



ソリの検量



横一線、きれいなスタート



誘導馬を先頭に下見所から馬場へ



第二障害へ向かって脚比べ



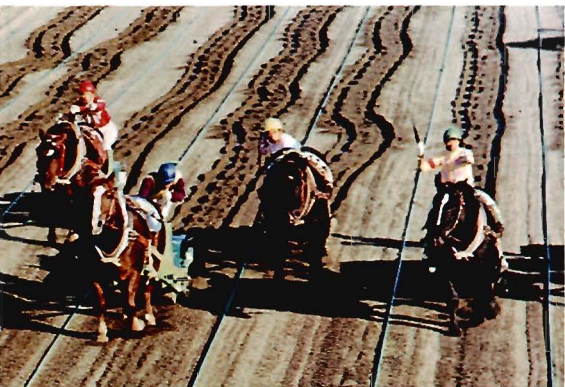
スタンド前を通りスタート地点へ



第二障害、ここが正念場、見る方も最も力が入る



発走前



ゴールへ向かって最後の追い比べ



スタートを見守る大観衆

ファンアンケート集計

| 設 問 | 回 答 | 旭川 (人) | % | 岩見沢 (人) | % | 北見 (人) | % | 計 (人) | % |
|------------|---------|-----------|------|------------|------|-----------|------|----------|------|
| 1. 性 別 | 1 男 | 481 | 82.6 | 713 | 87.7 | 243 | 32.2 | 1,437 | 84.2 |
| | 2 女 | 101 | 17.4 | 100 | 12.3 | 68 | 9.0 | 269 | 15.8 |
| | 3 不明 | | | | | 445 | 58.8 | 445 | |
| 2. 年 令 | 1 20代 | 78 | 13.4 | 139 | 17.1 | 138 | 18.2 | 355 | 16.8 |
| | 2 30代 | 136 | 23.4 | 215 | 26.5 | 250 | 33.1 | 601 | 28.4 |
| | 3 40代 | 182 | 31.3 | 203 | 25.0 | 152 | 20.1 | 537 | 25.4 |
| | 4 50代 | 100 | 17.2 | 152 | 18.7 | 125 | 16.6 | 377 | 17.8 |
| | 5 60代 | 86 | 14.7 | 103 | 12.7 | 56 | 7.4 | 245 | 11.6 |
| | 6 不明 | | | | | 36 | 4.6 | 35 | |
| 3. 職 業 | 1 給与所得者 | | | 255 | 30.9 | 284 | 37.6 | 539 | 24.9 |
| | 2 会社員 | 137 | 23.5 | | | | | 137 | 6.3 |
| | 3 公務員 | 97 | 16.7 | | | | | 97 | 4.5 |
| | 4 農林業 | 76 | 13.1 | 96 | 11.6 | 53 | 7.0 | 225 | 10.4 |
| | 5 土建業 | 47 | 8.1 | 77 | 9.3 | 48 | 6.4 | 172 | 8.0 |
| | 6 運輸業 | 13 | 2.2 | 39 | 4.7 | 36 | 4.7 | 88 | 4.1 |
| | 7 サービス業 | 54 | 9.3 | 94 | 11.4 | 60 | 8.0 | 208 | 9.6 |
| | 8 不動産業 | 7 | 1.2 | 17 | 2.1 | 9 | 1.2 | 33 | 1.5 |
| | 9 商工業 | | | 57 | 6.9 | 85 | 11.2 | 142 | 6.6 |
| | 10 畜産業 | | | 48 | 5.8 | 22 | 2.9 | 70 | 3.2 |
| | 11 その他 | 151 | 25.9 | 143 | 17.3 | 159 | 21.0 | 453 | 21.0 |
| 4. お と こ ろ | 1 札幌 | 18 | 3.1 | 186 | 22.5 | | | 204 | 9.4 |
| | 2 旭川 | 233 | 40.1 | | | | | 233 | 11.0 |
| | 3 岩見沢 | 13 | 2.2 | 244 | 29.6 | | | 257 | 11.9 |
| | 4 北見 | 110 | 18.9 | | | 307 | 40.6 | 417 | 19.3 |
| | 5 帯広 | 29 | 5.0 | | | | | 29 | 1.3 |
| | 6 網走 | | | 21 | 2.5 | 230 | 30.4 | 251 | 11.6 |
| | 7 釧路 | | | | | 60 | 7.9 | 60 | 2.8 |
| | 8 石狩 | 1 | 0.2 | 26 | 3.2 | | | 27 | 1.2 |
| | 8 空知 | 47 | 8.1 | 217 | 26.3 | 9 | 1.2 | 273 | 12.6 |
| | 10 十勝 | 9 | 1.5 | 14 | 1.7 | 65 | 8.6 | 88 | 4.1 |
| | 11 上川 | 49 | 8.3 | 38 | 4.6 | 52 | 6.9 | 139 | 6.4 |
| | 12 留萌 | 7 | 1.2 | | | | | 7 | 0.3 |
| | 13 宗谷 | 10 | 1.7 | | | | | 10 | 0.5 |
| | 14 日高 | | | 16 | 1.9 | 6 | 0.8 | 22 | 1.0 |
| | 15 胆振 | | | 18 | 2.2 | | | 18 | 0.8 |
| | 16 その他 | 56 | 9.7 | 45 | 5.5 | 27 | 3.6 | 128 | 5.9 |
| 5. 交 通 機 関 | 1 自家用車 | 431 | 74.1 | 498 | 59.5 | 586 | 77.5 | 1,515 | 69.6 |
| | 2 汽車 | 38 | 6.5 | 152 | 18.2 | | | 190 | 8.7 |
| | 3 バス | 76 | 13.1 | 105 | 12.5 | 113 | 15.0 | 294 | 13.5 |
| | 4 営業車 | 25 | 4.3 | 36 | 4.3 | 23 | 3.0 | 84 | 3.9 |
| | 5 オートバイ | 6 | 1.0 | 17 | 2.0 | 11 | 1.5 | 34 | 1.6 |
| | 6 自転車 | 6 | 1.0 | 13 | 1.6 | 11 | 1.5 | 30 | 1.4 |
| | 7 徒歩 | | | 16 | 1.9 | | | 16 | 0.7 |
| | 8 その他 | | | | | 12 | 1.6 | 12 | 0.6 |

| 設 問 | 回 答 | 旭川 (人) | % | 岩見沢 (人) | % | 北見 (人) | % | 計 (人) | % |
|------------------------------------|---------------------------------|-----------|------|------------|------|-----------|------|----------|------|
| 6. 同 行 者 | 1 家族 | 133 | 22.3 | 219 | 27.1 | 242 | 32.0 | 591 | 27.5 |
| | 2 友人知人 | 225 | 38.7 | 347 | 42.9 | 251 | 33.2 | 823 | 38.4 |
| | 3 1人 | 125 | 21.5 | 242 | 30.0 | 154 | 20.4 | 521 | 24.2 |
| | 4 その他 | 102 | 17.5 | | | 109 | 14.4 | 211 | 9.8 |
| 7. 開催日はなんで知 りましたか | 1 一般新聞 | 169 | 29.0 | 259 | 30.3 | 341 | 45.1 | 982 | 48.8 |
| | 2 スポーツ新聞 | 101 | 17.4 | 290 | 33.9 | | | | |
| | 3 バスステッカー | 9 | 1.5 | 25 | 2.9 | | | 34 | 1.7 |
| | 4 テレビ | 61 | 10.5 | 38 | 4.4 | 60 | 8.0 | 159 | 7.9 |
| | 5 ラジオ | 13 | 2.2 | 35 | 4.1 | 29 | 3.9 | 77 | 3.8 |
| | 6 友人, 知人 | 80 | 13.7 | 79 | 9.2 | 140 | 18.5 | 299 | 14.8 |
| | 7 地下鉄車内広告 | | | 9 | 1.1 | | | 9 | 0.4 |
| | 8 国鉄車内広告 | | | 17 | 2.0 | | | 17 | 0.8 |
| | 9 ポスター | 38 | 6.5 | 28 | 3.3 | | | 66 | 3.3 |
| | 10 看板 | 8 | 1.4 | | | | | 8 | 0.4 |
| | 11 有線放送 | 3 | 0.5 | | | | | 3 | 0.1 |
| | 12 その他 | 100 | 17.3 | 75 | 8.8 | 185 | 24.5 | 360 | 17.9 |
| 8. HBCテレビのば んえいハイライトを 見ていますか | 1 毎週見ている | 249 | 42.8 | 398 | 48.9 | 135 | 17.9 | 782 | 36.4 |
| | 2 ときどき見ている | 241 | 41.4 | 316 | 38.9 | 437 | 57.8 | 994 | 46.2 |
| | 3 見たことがない | 51 | 8.7 | 99 | 12.2 | 146 | 19.3 | 296 | 13.8 |
| | 4 知らなかった | 41 | 7.1 | | | | | 41 | 2.0 |
| | 5 その他 | | | | | 38 | 5.0 | 38 | 1.8 |
| 9. ばんえい競馬のど こに魅力を感じます か | 1 ばんばの堂々たる体軀と重量感 | 155 | 26.6 | 242 | 27.6 | 132 | 17.5 | 529 | 23.9 |
| | 2 大障害通過の迫力感 | 154 | 26.5 | 204 | 23.3 | 198 | 26.2 | 556 | 25.0 |
| | 3 ゴールの接戦 | 89 | 15.3 | 197 | 22.5 | 209 | 27.6 | 495 | 22.4 |
| | 4 ローカル競馬の親近感 | 25 | 4.3 | 74 | 8.4 | 139 | 18.4 | 238 | 10.7 |
| | 5 配当金の楽しみ | 149 | 25.6 | 159 | 18.2 | 65 | 8.6 | 373 | 16.8 |
| | 6 その他 | 10 | 1.7 | | | 13 | 1.7 | 23 | 1.0 |
| 10. ばんえい競馬の力 とスピードについて | 1 馬場, ばんえい重量を重くして 力量感を増すべき | | | 322 | 39.9 | 265 | 35.1 | 587 | 37.5 |
| | 2 馬場, ばんえい重量を軽くしてス ピード感を増すべき | | | 178 | 22.0 | 138 | 18.2 | 316 | 20.2 |
| | 3 今のままでよい | | | 308 | 38.1 | 331 | 43.8 | 639 | 40.9 |
| | 4 その他 | | | | | 22 | 2.9 | 22 | 1.4 |
| 11. 一番よく行く競馬 はどこですか | 1 中央競馬 | 36 | 6.2 | 280 | 24.8 | | | 316 | 20.3 |
| | 2 中央競馬の場外発売 | 15 | 2.6 | 84 | 9.0 | | | 99 | 6.4 |
| | 3 道営平地競馬 | 48 | 8.2 | 161 | 17.4 | | | 209 | 13.4 |
| | 4 市営ばんえい競馬 | 426 | 73.2 | 339 | 36.6 | | | 765 | 49.0 |
| | 5 近くで開催されている競馬 | 57 | 9.8 | 113 | 12.2 | | | 170 | 10.9 |
| 12. 何を参考にして馬 券を買いますか | 1 過去の成績 | 139 | 23.9 | 192 | 20.5 | | | 331 | 21.8 |
| | 2 調教の状況 | 33 | 5.7 | 51 | 5.4 | | | 84 | 5.5 |
| | 3 下見所の状態 | 37 | 6.4 | 76 | 8.1 | | | 113 | 7.4 |
| | 4 予想紙 | 235 | 40.4 | 328 | 35.0 | | | 563 | 37.0 |
| | 5 馬体重 | 40 | 6.9 | 23 | 2.4 | | | 63 | 4.1 |
| | 6 騎乗競手 | 36 | 6.2 | 85 | 9.1 | | | 121 | 8.0 |
| | 7 一般の評判 | 26 | 4.5 | 39 | 4.1 | | | 65 | 4.3 |
| | 8 友人・知人の情報 | 25 | 4.3 | 25 | 2.7 | | | 50 | 3.3 |
| | 9 オッズ | | | 77 | 8.2 | | | 77 | 5.1 |
| | 10 その他 | 11 | 1.7 | 42 | 4.5 | | | 53 | 3.5 |

| 設 問 | 回 答 | 旭川 (人) | % | 岩見沢 (人) | % | 北見 (人) | % | 計 (人) | % |
|---|-----------------------------|-----------|------|------------|------|-----------|------|----------|------|
| 13. ばんえい競馬の場 外発売をした方がよ いと思いますか | 1 した方がよい | 362 | 62.2 | 480 | 59.5 | 477 | 63.1 | 1,319 | 61.5 |
| | 2 しない方がよい | 89 | 15.3 | 170 | 21.1 | 128 | 16.9 | 387 | 18.0 |
| | 3 どちらでもよい | 131 | 22.5 | 156 | 19.4 | 129 | 17.0 | 416 | 19.4 |
| | 4 その他 | | | | | 23 | 3.0 | 23 | 1.0 |
| 14. 馬券の前売制度が あった方がよいと思 いますか | 1 毎日全レースあった方がよい | 246 | 42.3 | 365 | 45.2 | | | 611 | 44.0 |
| | 2 毎日後半レースあった方がよい | 60 | 10.3 | 110 | 13.6 | | | 170 | 12.2 |
| | 3 重賞レースだけあった方がよい | 94 | 16.2 | 171 | 21.2 | | | 265 | 19.1 |
| | 4 必要ない | 63 | 10.8 | 74 | 9.1 | | | 137 | 9.9 |
| | 5 どちらでもよい | 119 | 20.4 | 88 | 10.9 | | | 207 | 14.9 |
| 15. 従事員の接客態度 はどうですか | 1 良い | 175 | 30.1 | | | | | 175 | 30.1 |
| | 2 普通 | 374 | 64.2 | | | | | 374 | 64.2 |
| | 3 悪い | 33 | 5.7 | | | | | 33 | 5.7 |
| 16. 機械化発売をした 方がよいと思いま すか | 1 した方がよい | 337 | 57.9 | | | | | 337 | 57.9 |
| | 2 しない方がよい | 79 | 13.6 | | | | | 79 | 13.6 |
| | 3 どちらでもよい | 166 | 28.5 | | | | | 166 | 28.5 |
| 17. 発売の機械化によ り一番良くなったと 感じられた点はどれ ですか | 1 希望する馬券が一つの窓口で買 えること | | | 513 | 59.1 | | | 513 | 59.1 |
| | 2 オッズ表示により発売状況がわ かる | | | 167 | 19.2 | | | 167 | 19.2 |
| | 3 発売締切から発走までの時間が 短縮されたこと | | | 93 | 10.7 | | | 93 | 10.7 |
| | 4 機械処理により信頼感が増した | | | 60 | 6.9 | | | 60 | 6.9 |
| | 5 以前と特に変わったとは思わな い | | | 35 | 4.1 | | | 35 | 4.1 |
| 18. 売店の価格サービ スはどうか | 1 良い | 139 | 23.9 | 229 | 28.7 | | | 368 | 26.6 |
| | 2 普通 | 383 | 65.8 | 430 | 53.8 | | | 813 | 58.9 |
| | 3 悪い | 60 | 10.3 | 140 | 17.5 | | | 200 | 14.5 |
| 19. 食堂の味、価格サ ービスはどうですか | 1 良い | 84 | 14.4 | 167 | 20.7 | | | 251 | 18.1 |
| | 2 普通 | 391 | 67.2 | 391 | 48.4 | | | 782 | 56.3 |
| | 3 悪い | 107 | 18.4 | 250 | 30.9 | | | 357 | 25.7 |
| 20. 駐車料金はどのよ うに感じていますか | 1 高い | 491 | 84.4 | | | | | 491 | 84.4 |
| | 2 今のままでよい | 91 | 15.6 | | | | | 91 | 15.6 |
| | 適 1 300 | 31 | 5.3 | | | | | 31 | 5.3 |
| | 正 2 400 | 1 | 0.2 | | | | | 1 | 0.2 |
| | 3 500 | 185 | 31.8 | | | | | 185 | 31.8 |
| | 料 4 600 | 2 | 0.3 | | | | | 2 | 0.3 |
| | 金 5 700 | 7 | 1.2 | | | | | 7 | 1.2 |
| 6 無回答 | 356 | 61.2 | | | | | 356 | 61.2 | |
| 21. 余暇をどのように 過ごされていますか | 1 競馬 | 263 | 45.2 | 568 | 58.7 | | | 831 | 53.6 |
| | 2 ゴルフ | 8 | 1.4 | 34 | 3.5 | | | 42 | 2.7 |
| | 3 釣 | 34 | 5.8 | 48 | 4.9 | | | 82 | 5.3 |
| | 4 ドライブ | 10 | 1.7 | 30 | 3.1 | | | 40 | 2.6 |
| | 5 旅行 | 29 | 5.0 | 102 | 10.5 | | | 131 | 8.5 |
| | 6 マージャン | 32 | 5.5 | 57 | 5.9 | | | 89 | 5.7 |
| | 7 パチンコ | 33 | 5.7 | 26 | 2.7 | | | 59 | 3.8 |
| | 8 スポーツ | 22 | 3.8 | | | | | 22 | 1.4 |
| | 9 テレビ | 38 | 6.5 | | | | | 38 | 2.5 |
| | 10 園芸・日曜大工 | 9 | 1.5 | 28 | 2.9 | | | 37 | 2.4 |
| | 11 休養 | 32 | 5.5 | 52 | 5.4 | | | 84 | 5.4 |
| | 12 その他 | 72 | 12.4 | 23 | 2.4 | | | 95 | 6.1 |

| 設 問 | 回 答 | 旭川 (人) | % | 岩見沢 (人) | % | 北見 (人) | % | 計 (人) | % |
|--|---------------------------------|-----------|------|------------|---|-----------|------|----------|------|
| 22. あなたの休みはいつですか | 1 日曜 | 357 | 61.3 | | | | | 357 | 61.3 |
| | 2 月曜 | 12 | 2.1 | | | | | 12 | 2.1 |
| | 3 火曜 | 3 | 0.5 | | | | | 3 | 0.5 |
| | 4 水曜 | 1 | 0.2 | | | | | 1 | 0.2 |
| | 5 木曜 | 1 | 0.2 | | | | | 1 | 0.2 |
| | 6 金曜 | 11 | 1.9 | | | | | 11 | 1.9 |
| | 7 土曜 | 36 | 6.2 | | | | | 36 | 6.2 |
| | 8 その他 | 161 | 27.7 | | | | | 161 | 27.7 |
| 23. あなたの休みは週何回ですか | 1 週1回 | 275 | 47.2 | | | | | 275 | 47.2 |
| | 2 週2回 | 119 | 20.4 | | | | | 119 | 20.4 |
| | 3 週3回 | 188 | 32.4 | | | | | 188 | 32.4 |
| 24. 月曜開催についてどのように考えていますか | 1 月曜開催すべきである | 147 | 25.3 | | | | | 147 | 25.3 |
| | 2 月曜開催すべきでない | 98 | 16.8 | | | | | 98 | 16.8 |
| | 3 どちらでもよい | 337 | 57.9 | | | | | 337 | 57.9 |
| 25. 発売、払戻の位置はどのように思っていますか | 1 いままでどうりでよい | 246 | 42.3 | | | | | 246 | 42.3 |
| | 2 もっと工夫すべきだ | 222 | 38.1 | | | | | 222 | 38.1 |
| | 3 どちらでもよい | 114 | 19.6 | | | | | 114 | 19.6 |
| 26. 今年は北見競馬に何日おいでになりましたか | 1 1～3日 | | | | | 164 | 21.7 | 164 | 21.7 |
| | 2 4～6日 | | | | | 143 | 18.9 | 143 | 18.9 |
| | 3 7～10日 | | | | | 100 | 13.2 | 100 | 13.2 |
| | 4 11～12日 | | | | | 61 | 8.1 | 61 | 8.1 |
| | 5 13～18日 | | | | | 72 | 9.5 | 72 | 9.5 |
| | 6 19～20日 | | | | | 81 | 10.7 | 81 | 10.7 |
| | 7 21日以上 | | | | | 123 | 16.3 | 123 | 16.3 |
| | 8 その他 | | | | | 12 | 1.6 | 12 | 1.6 |
| 27. 旭川競馬場において、特にお気づきになることはどれですか | 1 場内の実況用テレビはもっとあった方がよい | 229 | 39.3 | | | | | 229 | 39.3 |
| | 2 場内の案内標示は十分でない | 80 | 13.7 | | | | | 80 | 13.7 |
| | 3 場内にスポーツ公園的なものを設け休催日には一般開放すべきだ | 194 | 33.3 | | | | | 194 | 33.3 |
| | 4 無回答 | 79 | 13.7 | | | | | 79 | 13.7 |
| 28. ファンサービスの面で改善すべきだと思っている点はどれですか | 遊具施設 | 1 もっと必要だ | 261 | 44.8 | | | | 261 | 44.8 |
| | | 2 必要でない | 77 | 13.2 | | | | 77 | 13.2 |
| | | 3 無回答 | 244 | 42.0 | | | | 244 | 42.0 |
| | 湯茶施設 | 1 良い | 227 | 39.0 | | | | 227 | 39.0 |
| | | 2 悪い | 69 | 11.9 | | | | 69 | 11.9 |
| | | 3 無回答 | 285 | 49.1 | | | | 285 | 49.1 |
| | ベンチ | 1 もっと必要だ | 230 | 39.5 | | | | 230 | 39.5 |
| | | 2 必要でない | 36 | 6.2 | | | | 36 | 6.2 |
| | | 3 無回答 | 276 | 54.3 | | | | 276 | 54.3 |
| | 休憩所 | 1 もっと必要だ | 229 | 39.3 | | | | 229 | 39.3 |
| | | 2 必要でない | 34 | 5.8 | | | | 34 | 5.8 |
| | | 3 無回答 | 319 | 54.9 | | | | 319 | 54.9 |
| パラソル | 1 もっと必要だ | 160 | 27.5 | | | | 160 | 27.5 | |
| | 2 必要でない | 55 | 9.5 | | | | 55 | 9.5 | |
| | 3 無回答 | 367 | 63.0 | | | | 367 | 63.0 | |
| 29. 場内施設の改善について一番早くした方がよいと思うところを一つ選んで下さい | 1 馬券発売の機械化 | | | | | 359 | 47.5 | 359 | 47.5 |
| | 2 食堂売店の拡張 | | | | | 105 | 13.9 | 105 | 13.9 |
| | 3 便所の増設 | | | | | 100 | 13.2 | 100 | 13.2 |
| | 4 遊園地の拡張 | | | | | 93 | 12.3 | 93 | 12.3 |
| | 5 休憩所手荷物預所の設置 | | | | | 75 | 9.9 | 75 | 9.9 |
| | その他 | | | | | 24 | 3.2 | 24 | 3.2 |

昭和52年度

馬産奨励に関する生産者賞種雄馬管理者賞受賞者名簿

| 受賞者名 | 住所 | 種雄馬管理者賞 | | | 生産者賞 | | | 賞金額 万円 | 賞金 交付方法 | |
|--------------|----|----------|---------------------------|--|----------|----------|----------|-----------|----------------------|------|
| | | 種雄馬名 | 生産した出走馬名 | | | 生産した出走馬名 | | | | |
| | | | 出走馬名 | 血統馬名 | 生年月日 | 出走馬名 | 血統馬名 | | | 生年月日 |
| 今野 忠志 | | | | | キョクイチ | 弾 雄 | 49. 5.24 | 5 | 本別農協 たくぎん本別 支店 | |
| 古田 武男 | | | | | クナシリ | 名 井 | 49. 4. 3 | 5 | | |
| 南部 文夫 | | ダンディ | アズマニシキ キタノリュウ キョクイチ | 国勝 49. 4.25 青琉 49. 5.19 弾 雄 49. 5.24 | | | | 9 | | |
| 森 春蔵 | | 農 皆 | クナシリ | 名 井 | 49. 4. 3 | | | 3 | 22 | |
| 二瓶 長松 | | | | | キタノテンリュウ | トカチトップ | 49. 4. 8 | 5 | 幕別農協 たくぎん幕別 支店 | |
| 長谷川 勉 | | | | | スイショウ | ガリーナ | 49. 4. 5 | 5 | | |
| 浅井 嘉市 | | | | | カイザンオ | 豊 鯉 | 49. 4.30 | 5 | | |
| 山口 正三 | | | | | ユウリキ | 清 鯉 | 49. 4.30 | 5 | | |
| 福島 喜夫 | | | | | ドウトウ | 久 修 | 49. 5.10 | 5 | | |
| 棚橋 吉一 | | | | | ソラチカシワ | 清 栄 | 49. 3.15 | 5 | | |
| 幕別町農協 | | バンコ | コクリユウセント | 第二バンコ 49. 5.11 | | | | 3 | | |
| 村田 義雄 | | 久 都 | スイショウ ドウトウ リクオウ | ガリーナ49. 4. 5 久 修 49. 5.10 第二ボンシ 49. 4. 8 | | | | 9 | 42 | |
| 本田 義雄 | | | | | ヤマトボタン | 旭 繁 | 49. 1.10 | 5 | 利別農協 (北信連) | |
| 坂本 勝 | | | | | ブルガ | 桜 姫 | 49. 4.25 | 7 | | |
| 太田 和春 | | | | | マサヒカリ | 勇 | 49. 3.28 | 5 | | |
| 大村 雄三 | | 第三キャンペロ | ヒカルアオ | バンヨー49. 5.18 | | | | 3 | 20 | |
| 万 章 (理事長) | | | | | キタノカイザー | 春 駒 | 49. 5. 3 | 5 | 高島農協 北信連 | |
| 高島農協 | | 第三オデオン | カツタマ キタノカイザー | 玉 雄 49. 6.10 春 駒 49. 5. 3 | | | | 6 | | 11 |
| 六車 次作 | | | | | ショウワキング | 初 駒 | 49. 5. 3 | 5 | 士幌農協 北信連 | |
| 和田 孝吉 | | | | | タカツバサ | キングパトシャ | 49. 4. 5 | 5 | | |
| 土屋 修三 | | 山 嵐 | ワカカミヤ | 寿 49. 4. 9 | | | | 3 | | |
| 鈴木 栄 | | パトリシャ | タカツバサ | キングパトリシャ 49. 4. 5 | | | | 3 | 16 | |
| 神谷 勲 | | | | | ワカカミヤ | 寿 | 49. 4. 9 | 5 | 浦幌農協 たくぎん池田 支店 | |
| 坂口 岩夫 | | | | | トカチツバメ | 叡 姫 | 49. 5. 3 | 7 | | |
| 神谷 信雄 | | | | | ユウコーマル | 秀 鯉 | 49. 5.10 | 5 | | |
| 小枝 重市 | | 叡 嘉 | ホクシンイチ トカチツバメ | 北進の一49. 4. 7 叡 姫 49. 5. 3 | | | | 6 | | |
| 中川 利夫 | | 第28コリガン | キング ヒバリカゲ | 豊 年 49. 4. 5 第一王月49. 4.17 | | | | 6 | | |
| 養野 恒雄 | | ドウユウドウユウ | ショウワテンリュウ | 初 夢 49. 5. 8 | | | | 3 | 32 | |

| 受賞者名 | 住所 | 種雄馬管理者賞 | | | | 生産者賞 | | | 賞金額 万円 | 賞金 交付方法 | |
|-------|----|---------|---|------|--|----------|-----------|-----------|--------------|--------------|----|
| | | 種雄馬名 | 生産した出走馬名 | | | 生産した出走馬名 | | | | | |
| | | | 出走馬名 | 出統馬名 | 生年月日 | 出走馬名 | 出統馬名 | 生年月日 | | | |
| 谷口鶴之助 | | | | | ライデン | 蘭 栄 | 49. 4. 14 | 5 | 音更農協 たくぎん | | |
| 高井 秀幸 | | | | | カチサカエ | 第二政泉 | 49. 4. 30 | 5 | | | |
| 田村 勝 | | 晏 栄 | アズマホーエー | 宝 栄 | 49. 6. 3 | | | | | | |
| | | | カチサカエ | 第二政泉 | 49. 4. 30 | | | | | | |
| | | | ショウワキング | 初駒 | 49. 5. 3 | | | | | | |
| | | | ソラチガンワ | 清島 | 49. 3. 15 | | | | | | |
| | | | トクリキ | 勝力 | 49. 4. 1 | | | | | | |
| | | | ハッキンオー | 勝利 | 49. 4. 15 | | | | | | |
| | | | ヒカルトコウ | 新栄 | 49. 4. 23 | | | | | | |
| | | | ライデン | 蘭 | 49. 4. 14 | | | | | | |
| | | ロッシーニ | タイセツザン | さくら | 49. 4. 20 | | | 27 | | | |
| 音更農協 | | エドガー | エドカニセイ | 勝 賀 | 49. 4. 5 | | | 3 | 40 | | |
| 高島 義諦 | | | | | | アズマホーエー | 宝 栄 | 49. 6. 3 | 5 | 更別農協 | |
| 松浦 馨 | | | | | | ホワイトキング | 昭 | 49. 5. 7 | 5 | 新得農協 北信連 | |
| 石塚 定蔵 | | ポンポン | ホワイトキング | 昭 | 49. 5. 7 | | | 3 | | | |
| 北村鉄太郎 | | 詠 旭 | ブルガ ヤマトボタン | 桜 旭 | 49. 4. 25 49. 4. 10 | | | | | 池田農協 北信連 | |
| | | キプロク | アサヒクニ キプトモ マサヒカリ | 春 駒 | 49. 4. 29 49. 4. 20 49. 4. 28 | | | | 15 | | |
| 中川 吉松 | | | | | | ダイケツ | 大 決 | 49. 5. 5 | 5 | 豊頃農協 | |
| 相沢 誠治 | | | | | | キンバイ | 相 鯉 | 49. 4. 5 | 5 | たくぎん池田 支店 | |
| 井下 福市 | | | | | | ワカテツ | 鉄 優 | 49. 3. 20 | 5 | | |
| 原田 純吉 | | 鉄 鯉 | カイザンオ キタノテンリュウ キタミサカエ キンバイ ゴールデジャガー ダイケツ モイワリュウ ヤマトカップ ユウコーマル ユウリキ ワカテツ | 豊 鯉 | 49. 4. 30 49. 4. 8 49. 3. 29 49. 4. 5 49. 5. 20 49. 5. 5 49. 4. 15 49. 4. 10 49. 5. 10 49. 4. 30 49. 3. 20 | | | | | 33 | 48 |
| 山田八三郎 | | | | | | ソラチ キンザン | 双 岳 | 49. 3. 30 | 5 | 釧路農協 | |
| 大久保芳信 | | 豊 田 | インノハヤテ ソラチ キンザン ダイニヒメタカラ テツノオーカン ミスホクト | 豊 信 | 49. 4. 11 | | | | | | |
| | | | | 双 北 | 49. 3. 30 | | | | | | 15 |
| | | | | 豊 春 | 49. 4. 1 | | | | | | |
| | | | | 豊 隆 | 49. 5. 20 | | | | | | |
| | | | | 豊 織 | 49. 4. 15 | | | | | | |
| 梶原 隆二 | | | | | | タカラオートリ | 第一オートリ | 49. 4. 17 | 5 | | |
| 佐々木憲昭 | | | | | | アイスリヤル | 興 玉 | 49. 5. 5 | 5 | | |
| 斎藤 六市 | | | | | | ムツイチ | 盛 姫 | 49. 4. 20 | 7 | | |
| 佐藤キチノ | | | | | | フジ | 松 龍 | 49. 5. 2 | 5 | | |
| 堂閑 久夫 | | | | | | モリチカラ | 堂 閑 | 49. 4. 15 | 5 | | |
| 小師 三男 | | | | | | テツノオーカン | 豊 隆 | 49. 5. 20 | 5 | | |

| 受賞者名 | 住所 | 種雄馬管理者賞 | | | 生産者賞 | | | 賞金額 万円 | 賞金 交付方法 | |
|-------------|----|-------------|---|---|------|----------|---------|----------------------|------------|-------|
| | | 種雄馬名 | 生産した出走馬名 | | | 生産した出走馬名 | | | | |
| | | | 出走馬名 | 出続馬名 | 生年月日 | 出走馬名 | 出続馬名 | | | 生年月日 |
| 井手 武 | | | | | | | フジノサカエ | 昇 宝 49. 4.25 | 5 | |
| 斎藤 喜悦 | | | | | | | メジロシンボリ | 龍 勝 49. 4.25 | 5 | |
| 松野 宏 | | ヴォールル | イデフジ バルカ フジノサカエ ホウギョク モリチカラ | 昇 錦 天 雄 49. 4.23 49. 5. 5 昇 宝 49. 4.25 豊 堂 49. 6. 4 閑 閑 49. 4.15 | | | | | 15 | |
| 道下 知敏 | | ベルサイユ | キタノトドロキ タカイサミ | 轟 隆 49. 4.17 勇 勇 49. 4.23 | | | | | 6 | |
| 釧路農協連 | | 銅 柑 | グランドエース | 仁 高 49. 4.21 | | | | | | |
| | | ロカルノ | ヤマトユウショウ | 宝 伸 49. 6. 5 | | | | | 6 | |
| 沼崎 長市 | | エクラン | コマダッシュ | 第三初桜49. 5.18 | | | | | 3 | |
| 赤羽根 丑右工門 | | 第17オートリ | タカラオートリ | 第一オートリ49. 4.17 | | | | | 3 | |
| 萱沼 稔 | | 昇 龍 | ノボリカゲ | 昇 山 49. 4.26 | | | | | 3 | |
| 長村 豊司 | | 2世 ロッシーニ | フ ジ ムツイチ | 松 龍 盛 姫 49. 5. 2 49. 4.20 | | | | | 6 | |
| 西村 辰雄 | | 栄 勇 | ヤマトコマ | 盛 山 49. 5. 9 | | | | | 3 | |
| 堀 正雄 | | 富 士 | アイスリヤル | 興 玉 49. 5. 5 | | | | | 3 | 117 |
| 馬場末太郎 | | | | | | | タカラスピード | 宝 奨 49. 5.10 | 5 | 根室生産連 |
| 向館末太郎 | | | | | | | タツミドリ | 錦 龍 49. 4.25 | 5 | |
| 村島 孝志 | | | | | | | タカユキ | 根室一 49. 5. 1 | 5 | |
| 渡辺 利夫 | | | | | | | ネムロホマレ | 根室誉 49. 5.10 | 5 | |
| 阿部 正義 | | 第一 ニジェリア | タカユキ | 根室一 49. 5. 1 | | | | | 3 | |
| 野村 忠雄 | | 菅 中 | タカラスピード | 宝 奨 49. 5.10 | | | | | 3 | |
| 工藤 馨 | | 龍 松 | タツミドリ メジロシンボリ | 錦 龍 龍 松 49. 4.25 49. 4.25 | | | | | 6 | |
| 加藤 鶴雄 | | 玉 根 | ネムロホマレ ハクズイユウ | 根室誉 49. 5.10 白石51号49. 5. 5 | | | | | 6 | |
| 小柳 一郎 | | 鋭 信 | レッドジャガー ヒカルボーイ | 英 信 豊 成 49. 4.17 49. 4. 5 | | | | | 6 | 44 |
| 鈴木 儀雄 | | | | | | | カゲリュウ | ショウナイトップ 49. 4.20 | 5 | 足寄町農協 |
| 滝田 辰雄 | | エレガン | タカラカチドキ | 旭 山 49. 4.11 | | | | | 3 | |
| 只野 幸一 | | ソイック | マイハト | ミスター足寄49. 4. 6 | | | | | 3 | |
| 高橋 敏 | | カポリー | カゲリュウ | ショウナイトップ 49. 4.20 | | | | | 3 | |
| 野口 正雄 | | ナオス雄 | カホー ケンザン | 大 龍 シンツバメ 49. 5.10 49. 4.12 | | | | | 6 | 20 |
| 山田 明夫 | | | | | | | チカラ | 博 雄 49. 5. 1 | 5 | 陸別町農協 |
| 長谷川明夫 | | | | | | | マツフジ | 輪 島 49. 4. 1 | 5 | |

| 受賞者名 | 住所 | 種 雄 馬 管 理 者 賞 | | | 生 産 者 賞 | | | 賞金額 万円 | 賞 金 交付方法 | |
|--------|----|-----------------------|---|--|---|----------|---------------------|-----------|--------------------------|------|
| | | 種雄馬名 | 生産した出走馬名 | | | 生産した出走馬名 | | | | |
| | | | 出走馬名 | 出続馬名 | 生年月日 | 出走馬名 | 出続馬名 | | | 生年月日 |
| 半谷 良松 | | 第二オデオン | ショウワフジ チカラ マツフジ | オイデ 博雄 輪島 | 49. 4. 20 49. 5. 1 49. 4. 1 | | | 9 | 19 | |
| 上士幌町農協 | | ボスール | シホロキンセイ リュウシヨウ | 輝 優 龍 昭 | | | | 6 | 上士幌町農協 | |
| 矢戸 輝次 | | | | | | シホロキンセイ | 輝 優 | 5 | | |
| 岩瀬 準一 | | | | | | リュウシヨウ | 龍 昭 | 5 | 16 | |
| 多村 一見 | | | | | | リュウテイオー | 春 盛 49. 2. 10 | 5 | 穂別農協 | |
| 七尾 輝雄 | | | | | | タマユウホ | 旭 昇 49. 5. 5 | 5 | | |
| 工藤 幸吉 | | | | | | ホベツヒメ | トレッセの八 49. 4. 20 | 7 | | |
| 野場 正一 | | | | | | サツキホマレ | サツキホマレ 49. 5. 20 | 7 | | |
| 多村 主計 | | 盛 幸 | サツキホマレ ホベツヒメ リュウテイオー | サツキホマレ トレッセの八 春 盛 | 49. 5. 20 49. 4. 20 49. 2. 10 | | | 9 | | |
| 三上 秀雄 | | 輝 彦 | タマユウホ ヒデホープ フジノチカラ | 旭 昇 ヒデホープ 春 栄 | 49. 5. 5 49. 4. 15 49. 4. 25 | | | 9 | 42 | |
| 森 秀夫 | | | | | | マルモリュウ | 連 山 49. 3. 28 | 5 | 壮警農協 | |
| | | コレッシー エンター プライズ | カチススム ダイニヒリュウ トキヒメ パンヒメ ヒボタンリュウ | 勝 進 栄 勝 藤 姫 蘭 姫 久 栄 | 49. 4. 14 49. 5. 18 49. 4. 2 49. 4. 1 49. 4. 5 | | | 15 | | |
| | | キャプテン | マルモリュウ | 連 山 | 49. 3. 28 | | | 3 | | |
| 岩倉 正幸 | | | | | | トキヒメ | 藤 姫 49. 4. 2 | 7 | 30 | |
| 高橋 盛栄 | | | | | | タツロ | 初 駒 49. 3. 26 | 5 | 豊浦農協 | |
| 樫野 昌明 | | | | | | ナカフテンリュウ | 王の龍 49. 4. 30 | 5 | 平取農協 | |
| 松永 常雄 | | 海 芳 | アサヒキリン | 連 勝 | 49. 3. 27 | | | 3 | | |
| 樫野 元一 | | 産 日 | カフテンリュウ ナカフテンリュウ | 青 宝 王の龍 | 49. 4. 26 49. 4. 30 | | | 6 | 日高農協 | |
| 成田 功 | | 朝 日 | カムイブル | 神威鶴 | 49. 4. 30 | | | 3 | 伊達農協 | |
| 虻田農協 | | 第二 ロツシーニ | タイムローレル タツロ ハクテンリュウ ワイルドスター ワケン | ワールド 初 駒 第3ロツシーニ ミスタールクス 貴 栄 | 49. 5. 20 49. 3. 26 49. 4. 8 49. 4. 5 49. 4. 26 | | | 15 | 虻田農協 | |
| 天塩酪農協 | | 二世 ユールガット | カゲアラシ | 春 駒 | 49. 4. 16 | | | 3 | 天塩酪農協 (北信連) | |
| 内藤 善弘 | | 栄 華 | サハラナミ | 第二アヤマ | 49. 4. 8 | | | | 蘭越農協 (12月2日 TEL確認) | |
| | | 第10ノマード | ミスカサイ | 第一北の湖 | 49. 4. 5 | | | 6 | | |
| 後藤 常一 | | | | | | タカラリュウ | 宝 藤 49. 3. 22 | 5 | 個人交付 | |
| 阿部 良三 | | | | | | キョウエイ | 共 栄 49. 5. 3 | 5 | 〃 | |

| 受賞者名 | 住所 | 種 雄 馬 管 理 者 賞 | | | 生 産 者 賞 | | | 賞金額 万円 | 賞 金 交付方法 | |
|-------|----|---------------|----------|------|----------------|---------------|----------------------|-----------|-------------|------|
| | | 種雄馬名 | 生産した出走馬名 | | | 生産した出走馬名 | | | | |
| | | | 出走馬名 | 出統馬名 | 生年月日 | 出走馬名 | 出統馬名 | | | 生年月日 |
| 片川 勝博 | | | | | キタノアラン | 紅つばめ | 49. 4.22 | 7 | 個人交付 | |
| 上田 仁三 | | | | | トキノ リュウセイ | 栄 山 | 49. 5.17 | 5 | 〃 | |
| 霜鳥 寅藏 | | | | | オリヒメ | 第3織姫 | 49. 5.29 | 7 | 〃 | |
| 寺岡 恒夫 | | | | | ニッショウ | 春 風 | 49. 4.10 | 5 | 〃 | |
| 近藤 政勝 | | | | | ヒロホマレ | 奥 勝 | 49. 5.12 | 5 | 〃 | |
| 松島 太市 | | | | | キヨヒメ | 豊 来 | 49. 4.10 | 7 | 〃 | |
| 丸山 元治 | | | | | ミス アカイサワ | 藤 姫 | 49. 4.10 | 7 | 〃 | |
| 高石 正叻 | | | | | ドウホク チドリ | 第2宝姫 | 49. 4.13 | 7 | 〃 | |
| 遠藤 竹市 | | | | | キタノ ダイリュウ | 大 隆 | 49. 4.18 | 5 | 〃 | |
| 衣笠 義雄 | | | | | バンミハル | 第3三春 | 49. 4.10 | 7 | 〃 | |
| 佐藤 敏夫 | | | | | オオマサ ダイニタカラ | 新 風 宝 玉 | 49. 4. 2 49. 4.10 | 14 | 〃 | |
| 八坂 栞 | | | | | オンマイチ | 北の海 | 49. 4.22 | 5 | 〃 | |
| 八天 孝一 | | | | | コマ テンリュウ | 王 将 | 49. 4. 2 | 5 | 〃 | |
| 笠井 照雄 | | | | | ロングパーワ | ハヤブサ | 49. 4.20 | 5 | 〃 | |
| 徳田 栄治 | | | | | ジャンボ サロマ | 栄 染 | 49. 4.10 | 5 | 〃 | |
| 木内 正武 | | | | | コオエイ | コオエイ | 49. 5. 2 | 7 | 〃 | |
| 熊谷 倉吉 | | | | | スピード ビジョン | 豊 駿 | 49. 4.15 | 5 | 〃 | |
| 山崎 正 | | | | | ハクテン リュウ | 第3ロッシーニ | 49. 4. 8 | 5 | 〃 | |
| 西内 譲 | | | | | リュウエルザ | 鈴 姫 | 49. 4.23 | 7 | 〃 | |
| 真鍋金太郎 | | | | | タイキョク | 泰 極 | 49. 4.23 | 5 | 〃 | |
| 山田源次郎 | | | | | タマフジ | 清 栄 | 49. 5. 2 | 5 | 〃 | |
| 野村 忠雄 | | | | | ダイニ ジンボヒメ | ダイニジャンボヒ メ | 49. 4.20 | 7 | 〃 | |
| 遠藤金三郎 | | | | | カチキ | 三 郎 | 49. 3.15 | 5 | 〃 | |
| 木村 博道 | | | | | シーザー | 進 通 | 49. 4.25 | 5 | 〃 | |
| 本田 剛太 | | | | | ユウホウ | 勇 湖 | 49. 5.10 | 5 | 〃 | |
| 徳永 諠守 | | | | | クリムソン キング | 北 勇 | 49. 3.30 | 5 | 〃 | |
| 野田 寿元 | | | | | ジュリエット | 小 桜 | 49. 5.11 | 2 | 〃 | |
| 小山 幹雄 | | | | | ハクシミズ | 北 勇 | 49. 3.20 | 2 | 〃 | |

| 受賞者名 | 住所 | 種 雄 馬 管 理 者 賞 | | | 生 産 者 賞 | | | 賞金額 万円 | 賞 金 交付方法 | |
|-------|----|---------------|---|--|---------|----------|------|-----------|-------------|------|
| | | 種雄馬名 | 生産した出走馬名 | | | 生産した出走馬名 | | | | |
| | | | 出走馬名 | 出続馬名 | 生年月日 | 出走馬名 | 出続馬名 | | | 生年月日 |
| 池 和夫 | | 得 良 | アイシンシロー ギャラー シーザー テンリュウ ヒロホマレ | 雲 流 49. 4. 3 滝 龍 49. 4. 15 進 通 49. 4. 25 役 勇 49. 5. 20 奥 勝 49. 4. 5 | | | | 15 | 個人交付 | |
| 衣笠 義雄 | | アプレス | アバシリオー ニッショウホープ バンカツ オオマサ バンミハル タマフジ ドウホクチドリ | 烈 駒 49. 4. 1 第2 浜風49. 5. 2 小 桜 49. 5. 20 新 風 49. 4. 2 第3 三春49. 4. 10 清 栄 49. 5. 2 第2 宝姫49. 4. 13 | | | | 27 | " | |
| | | カプリシュー | シャリホマレ ハクンミズ | 北 力 49. 5. 13 北 勇 49. 3. 20 | | | | | | |
| 松田 隆三 | | 楓 朝 | ハマカゼ ワカヒリュウ キヨヒメ オリヒメ コオエイ カリカチオー ダイニフジガラ キタノツバメ トキノチカラ トキノリュウセイ キタミハヤテ ニッショウ キョウエイ | 早 楓 49. 4. 15 宝 正 49. 3. 15 豊 来 49. 4. 10 第3 統姫49. 5. 29 コオエイ 49. 5. 2 新 生 49. 4. 25 光 栄 49. 4. 6 朝 光 49. 4. 13 藤 風 49. 4. 25 山 栄 49. 5. 17 北の湖 49. 4. 15 春 風 49. 4. 10 共 栄 49. 5. 3 | | | | 39 | " | |
| 岡村 稔 | | キナール | カゲイチ ジュリエット ダイニジャンボヒメ ルベシンボル | 松 宝 49. 4. 2 小 桜 49. 5. 11 ダイニジャンボヒメ 49. 4. 20 紅 竜 49. 5. 11 | | | | 12 | " | |
| 久保 豊 | | 清 連 | カチキ | 三 郎 49. 3. 15 | | | | 3 | " | |
| 片山 光夫 | | 第1 詠進 | ミハルヒメ | 日出姫 39. 3. 5 | | | | 3 | " | |
| 畠沢 義雄 | | 知 染 | カチロー ジャンボサロマ ハクレンショウ ロングパーワ | 初 駒 49. 4. 24 栄 染 49. 4. 10 勇 藤 49. 5. 10 ハヤブサ 49. 4. 20 | | | | 12 | " | |
| 四栗 栄 | | 二世 ロッシーニ | キタノアラン キタノダイリュウ スピードビジョン タカラリュウ タダミツ ダイニタカラ ユウホウ リュウエルザ | 紅つばめ 49. 4. 22 隆 49. 4. 18 大 駿 49. 4. 15 豊 藤 49. 3. 22 宝 進 49. 4. 11 北 玉 49. 4. 10 宝 勇 49. 5. 10 鈴 姫 49. 4. 23 | | | | 24 | " | |
| 三浦 勇 | | 豊 杯 | クリオージャ クリムソウキング コマテンリュウ ワカサトップ | 勝 杯 49. 4. 16 北 勇 49. 3. 30 王 将 49. 4. 2 宝 柳 49. 4. 17 | | | | 12 | " | |
| 北口 与喜 | | 第二 洪嶺 | イワマル | ハクホウ 49. 4. 24 | | | | 3 | " | |
| 藤本 芳郎 | | ベルボン シェー | ジャンボオー ジャンボホース タイキョク | 勝 山 49. 5. 10 久 隆 49. 5. 10 泰 極 49. 4. 23 | | | | 9 | " | |
| 中川 正三 | | 宝 嘉 | ソラチタカラ | トクイチ 49. 4. 2 | | | | 3 | " | |
| 沢口 敏夫 | | 英 雄 | オンマイチ | 北の海 49. 4. 22 | | | | 3 | " | |

「ばんえい育ての父」

内田靖夫氏の略歴



入學、昭和二年卒業後北大農学部家畜診療所に助手として奉職、昭和五年旭川野砲第七連隊に入隊し一年後に満期除隊となり、翌昭和七年渡島畜産組合に勤務、当時八雲競馬場で道南畜産組合主催の競馬が開催されていきましたので、審判、番組、総務にと執務委員として八面六臂の活躍をされたのが内田氏の競馬の馴初めでした。

終戦後の競馬混乱期から、競馬一筋に三十二年間北海道の競馬を育てられた内田参与が、本年三月三十一日付をもって勇退され、絵筆三昧悠々自適の生活を過ごされることになりましたので、「ばんえい育ての父」内田さんの足跡を簡略にご紹介いたします。

終戦前の略歴

明治四十三年二月十二日北海道山越郡八雲町で呱呱の声をあげ、敬虔なクリスチャンのご両親の下で少年期を過ごされ、大正十四年立空知農学校畜産科に

昭和十二年道畜産課に奉職、牛のトリコモナス検査技師として十勝に出張中、召集令状を受けて旭川第七師団に陸軍獣医少尉として入隊、直ちに南支那の前戦病馬廠に配属になり各地を転戦中、昭和十三年武運拙く傷病兵として内地に後還されました。

岡本一平画伯の門下生であった内田さんは、療養生活中にこの戦場生活の記録を描くべく、漫画の挿画で「馬部隊」と言う三五〇頁の単行本を執筆、昭和十七年に出版され、また講談社発行の「キン

グ」や「少年クラブ」の連載漫画家として東京で活躍されていきました。昭和十五年帝國馬匹組合、昭和十七年日本馬事会に勤務、昭和二十年終戦を迎えて八月に帰道されました。

終戦後の略歴

昭和二十年十月北海道馬匹組合連合会に奉職、昭和二十二年春馬連主催の競馬が岩見沢で開催されるに当たり、八雲競馬開催の経験を生かし、開催事前準備万端に亘り大変ご苦労され無事開催に漕ぎつけられました。

昭和二十三年七月馬連解散、同年九月新競馬法に基づき道営競馬発足に伴い、競馬課競技係長として道営競馬創立当時の基礎作りが大変ご努力なされ、昭和三十六年畜産課長補佐の発令を受け、以来五年間に亘り全国でも数少ない競馬を良く知っている各委員長として道営競馬の発展にご尽力され、道営競馬史上多難な時代に立派な功績を残されました。

昭和四十二年道を退職、道営競馬協力会事務局長に就任、翌四十三年本会が設立されるに当たり初代事務局長として迎えられる、以来七年間に亘りばんえい競走の近代化に情熱を燃やし、「ばんえいの内田」としてその名声は全国に轟き、昭和五十年本会を退職後も参与としてご指導をいただきましたが、本年三月末日をもって、ばんえい競走を今日まで育て上げた偉大な足跡を残し惜しまれながら勇退されることになりました。

祈 ご多幸とご健勝を

| 受賞者名 | 住所 | 種雄馬管理者賞 | | | 生産者賞 | | | 賞金額 万円 | 賞金 交付方法 | |
|-------|----|---------|------------------------------|-----------------------|----------------------------------|----------|------|-----------|------------|------|
| | | 種雄馬名 | 生産した出走馬名 | | | 生産した出走馬名 | | | | |
| | | | 出走馬名 | 出統馬名 | 生年月日 | 出走馬名 | 出統馬名 | | | 生年月日 |
| 桑名 英省 | | 千 竜 | クレナイ | 第2紅 | 49. 4.19 | | | 3 | 個人交付 | |
| 森 四郎道 | | 連 航 | ハコダテヤマ | 連 宝 | 49. 4.20 | | | 3 | 〃 | |
| 白瀬 包 | | 大 宝 | ハコダテイチ ハミスアカイサワ ヤマトタイガ | 隆 鵬 藤 姫 ノブナイツップ | 49. 4.10 49. 4.10 49. 4.10 | | | 9 | 〃 | |
| 岩本 政治 | | 栄 春 | ケイシユウタロー | 春 風 | 49. 4.30 | | | 3 | 〃 | |

昭和53年度番組編成要領

1. 出走馬の種類

軽種および軽半血種以外の種類

2. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること。

- (1) 地方競馬全国協会の登録を受けた馬
- (2) 新馬 3歳
古馬 10歳以下（再登録馬は、6歳以下の馬）
- (3) 馬体重 3歳 700kg } 以上の馬
4歳以上 750kg }
- (4) 馬体検査 能力調教検査に合格した馬

3. 出走の制限および拒否

- (1) 外国産馬は出走できない。
- (2) こ疾の程度が重く、または外観上みにくい馬。
- (3) 出走取消をした馬および競走除外馬（除く同枠除外）は、その間の残余期間。
- (4) 尋常てい鉄を使用しない馬。
- (5) 調教が十分でない、へき馬および失明馬（片眼馬を含む）。

4. 出走頭数の制限および競走の取り止め

- (1) 1競走における出走頭数は10頭以下とする。
- (2) 普通競走において前項に定める頭数を超えて出走投票があった場合は、抽選により出走馬を決定する。
- (3) 前項により出走できなかった馬は、競馬番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り出走投票した馬に優先出走を認める。
- (4) 出走投票の結果、1競走の頭数が5頭以下の場合は、その競走を取り止め、新たに競走を設けることができる。ただし、偶発的事故または疾病などにより出走を取り消し、または競走除外を命じた場合を除く。

5. 競走の区別

取得賞金額（1着～5着まで以下同じ）により編成し年令別に次のとおりとする。

3才 3才馬のみの編成とする

4・5才 4・5才馬の混合編成とし、通算取得賞金 400万円以上の馬は、6才以上の競走に編入する。

6才以上 6才以上の混合編成とする。

6. 負担重量

(1) 騎手重量 騎手重量は75kgとする。

(2) ばんえい重量

(ア) 3才馬

ばんえい重量は 500kgとし、本年取得賞金50万円につき10kgの加増を行なう。

(イ) 4・5才馬

3才時よりの通算取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。

| 取得賞金 | 400万円未満 | 320万円未満 | 240万円未満 | 160万円未満 | 80万円未満 |
|--------|---------|---------|---------|---------|--------|
| ばんえい重量 | 640kg | 620kg | 600kg | 580kg | 560kg |

ウ) 6才以上

昭和50年以降の取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。ただし、4・5才馬で編入する馬は、同額賞金クラスに編入し、競走において10kgを減量する。

| 取得賞金 | 1,100万円 以上 | 1,100万円 未満 | 850万円 未満 | 700万円 未満 | 550万円 未満 | 400万円 未満 | 300万円 未満 | 200万円 未満 |
|--------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| ばんえい重量 | 700kg | 700kg | 680kg | 660kg | 640kg | 620kg | 610kg | 600kg |

エ) オープン馬

- ・昭和50年以降の取得賞金1,100万円以上の馬をオープンとする。
- ・1,100万円以上の取得賞金に対し500万円につき10kgの基礎加増を行なう。
- ・本年取得賞金に対し、250万円を超える額ごとに10kgを加増する。

(3) 牝馬は競走において10kg減量する。

(4) 普通および別定競走において、委員長が指定する騎手は、通算勝利回数により10kg減量する。

7. 希望編入

取得賞金によらず希望で編入できるのは、オープン馬のみとし、番組編成会議で決定する。

ただし、希望編入できるのは、7月までとする。

8. 普通競走において全馬のばんえい重量が高重量となるときは、全馬の重量を一率に減ずることができ。

9. 取得賞金は特に記載のない限り前回までの合計とする。

10. 騎乗の制限

(1) 1日の騎乗回数は6回、連続騎乗は3回を限度とする。

ただし委員長が特に認めた場合は、この限りでない。

(2) 騎乗変更した騎手の翌日の騎乗はこれを認めない。

ただし委員長が特に認めた場合は、この限りでない。

11. 騎手の減量について

委員長が指定する騎手は次のとおりとする。

(1) 数え年30才以下の騎手で、20勝以下のもの。

(2) 騎手経歴のある騎手については、その通算勝利回数による。

(3) 減量騎手は、出走表に☆印で表示する。

12. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

| 馬体検査・能力検査予定日 | |
|--------------|--------------|
| 馬体検査 | 四月十四・十五日 |
| | 四月二十五日 |
| | 五月八日 |
| | 五月三十日 |
| | 六月六日 |
| | 六月二十日 |
| 能力検査 | 四月十九・二十・二十一日 |
| | 五月九日 |
| | 五月十六日 |
| | 五月三十一日 |
| | 六月七日 |
| | 六月二十一日 |
| | (帯広) |
| | (旭川) |
| | (旭川) |
| | (北見) |
| | (北見) |
| | (北見) |
| | (帯広) |
| | (旭川) |
| | (旭川) |
| | (北見) |
| | (北見) |

昭和53年度報償金

1. 馬主に関するもの

(1) 賞 金

競馬番組で示した金額

(2) 出走手当

次に該当する馬の馬主に対し、支給する。

(ア) 競走に1回以上出走したとき。

(イ) 特別報償金の受給資格のあるとき。

| | |
|---------|---------|
| 出 走 手 当 | 38,000円 |
|---------|---------|

(3) 着外手当

競走に出走し、6着以下の馬の馬主に対し、次の区分により支給する。ただし、失格および競走中止の場合は支給しない。

| | | |
|------|--------------|----------|
| 重賞競走 | 1着賞金 300万円以上 | 100,000円 |
| | ” 300万円未満 | 40,000円 |
| 特別競走 | | 25,000円 |

(4) 特別報償金

次に該当する馬の馬主に対し支給する。

(ア) 出走投票の結果、1競走の出走投票が5頭以下のため競走が取り止めになったとき。または制限頭数を越えたため抽選により出走できなくなったときとし、当該開催競馬において同一馬につき1回とする。

(ただし、当該開催の競走に出走した馬を除く)

(イ) 競走除外などで同枠のため除外(友引)になったとき。

(ウ) 天災その他やむを得ない理由により、開催当日に、競馬または競走を取り止めたとき。

| | |
|--------|--|
| (ア)のとき | その競走の5着賞金、ただし25,000円を限度とする。(調教師賞、騎手賞、きゅう務員賞においてもこれに準ずる。) |
| (イ)のとき | その競走の着賞金。(調教師賞、騎手賞、きゅう務員賞においてもこれに準ずる。) |
| (ウ)のとき | その競走の賞金と着外賞金の合計額を出走予定頭数で按分した範囲の額。(調教師賞、騎手賞、きゅう務員賞においてもこれに準ずる。) |

(5) 輸送手当

競馬場ごとに1回以上出走した馬(特別報償金受給資格を有した馬を含む)の馬主に対し当該競馬場ごとに支給する。

| | |
|---------|---------|
| 輸 送 手 当 | 10,000円 |
|---------|---------|

2. 調教騎手に関するもの

(1) 調教師賞

競走に出走し、決勝線を経過した馬の調教騎手に対し支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

| | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 区 分 | 1 着 | 2 着 | 3 着 | 4着以下 |
| 調 教 騎 手 | 23,000円 | 19,000円 | 14,000円 | 10,000円 |

3. 騎乗騎手に関するもの

(1) 騎手賞

競走に出走し、決勝線を通過した馬の騎手に対し支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

| | | | | |
|-------|---------|---------|--------|--------|
| 区 分 | 1 着 | 2 着 | 3 着 | 4着以下 |
| 騎 手 賞 | 15,000円 | 11,000円 | 9,000円 | 7,000円 |

4. きゅう務員に関するもの

(1) きゅう務員賞

出馬確定した馬のきゅう務員に対し支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

| | | | | |
|--------|---------|---------|--------|--------|
| 区 分 | 1 着 | 2 着 | 3 着 | 4着以下 |
| きゅう務員賞 | 12,000円 | 10,000円 | 8,000円 | 6,000円 |

(受給対象者は、本会きゅう務員認定を受けた者であって、地方競馬共済会に加入している者の内から専業きゅう務員として認めた者)

昭和52年度種雄馬ランキング

6 才 以 上

| 順位 | 種 類 | 馬 名 | 登 | 勝 | 取得賞金 | おもな出走馬 |
|----|-----|-----------------|---|----|-------------------------|------------------|
| 1 | ペ ル | タ ン ブ ー | 4 | 8 | 19,784,000 ^円 | ハクリュウ, コマバ |
| 2 | ペ ル | ア プ レ ス | 6 | 25 | 18,482,000 | シンザンオー, ブラックパンサー |
| 3 | ペ ル | 鋭 烈 | 1 | 5 | 17,300,000 | ニジョウホウ |
| 4 | ペ ル | 丹 西 | 3 | 11 | 16,825,000 | タツマキ, レイショウ |
| 5 | ペ ル | ウ ル パ ン | 8 | 22 | 16,785,000 | ミスオサシマ, イシカリハヤテ |
| 6 | ペ ル | 映 昭 | 5 | 7 | 16,547,000 | ハヤブサ, ソウシン |
| 7 | ブ ル | 鉄 鯉 | 5 | 18 | 15,236,000 | テツワカ, ジャスマン |
| 8 | ペ ル | ペ ル ヴ ォ ン シ ョ ー | 8 | 16 | 12,772,000 | アグネス, カネマル |
| 9 | 重 半 | 丹 風 | 4 | 11 | 12,015,000 | ハヤツネ, フウザン |
| 10 | ペ ル | オ ナ シ ス | 8 | 7 | 10,975,000 | カツタロー, ダイニメイホウザン |

4 ・ 5 才

| 順位 | 種 類 | 馬 名 | 登 | 勝 | 取得賞金 | おもな出走馬 |
|----|-------|---------------|----|----|-------------------------|----------------|
| 1 | ブ ル | 鉄 鯉 | 17 | 40 | 28,549,000 ^円 | ダイケツ, キタノテンリュウ |
| 2 | ペ ル | 楓 朝 | 15 | 37 | 25,754,000 | キヨヒメ, アサミドリ |
| 3 | ペ ル | 2 世 ロ ッ シ ー ニ | 10 | 19 | 16,562,000 | サロマシザン, タカラリュウ |
| 4 | ペ ル | 久 都 | 4 | 11 | 8,622,000 | スイショウ, リウリキ |
| 5 | ペ ル | 詠 旭 | 7 | 9 | 7,769,000 | フクイチ, コダマスピード |
| 6 | ペ ル | ア プ レ ス | 6 | 6 | 7,744,000 | ブラックパワー, オオマサ |
| 7 | ペ ル 系 | 朗 夕 | 3 | 5 | 7,235,000 | タイショオ, ヤマイサミ |
| 8 | ブ ル | キ プ ロ ク | 5 | 11 | 7,139,000 | ニットチドリ, ハシリコマ |
| 9 | ペ ル | 第 二 オ デ オ ン | 4 | 6 | 6,433,000 | ソラチホウシュウ, タマヒメ |
| 10 | ペ ル | 二 世 ロ ッ シ ー ニ | 5 | 10 | 5,350,000 | ムツ, フジ |

3 才

| 順位 | 種 類 | 馬 名 | 登 | 勝 | 取得賞金 | おもな出走馬 |
|----|-----|---------------|----|----|-------------------------|-----------------|
| 1 | ブ ル | 鉄 鯉 | 28 | 63 | 41,928,000 ^円 | ヒメテツリ, ロイヤルセーコ |
| 2 | ペ ル | 二 世 ロ ッ シ ー ニ | 4 | 15 | 13,636,000 | ハヤホマレ, ムツコマ |
| 3 | ペ ル | 楓 朝 | 14 | 16 | 10,850,000 | ハクバツオーザ, カツホマレ |
| 4 | ペ ル | 2 世 ロ ッ シ ー ニ | 8 | 19 | 10,420,000 | タカラハヤブサ, アグネスラム |
| 5 | 重 半 | 晏 栄 | 8 | 9 | 8,980,000 | ドラゴンダッシュ, キタコマ |
| 6 | ブ ル | 銅 庭 | 3 | 8 | 6,610,000 | マサユキ, トカチヒメ |
| 7 | 中 半 | 豊 盃 | 5 | 7 | 6,270,000 | ムツノベア, ヒカルエイト |
| 8 | 中 半 | ナ オ ス 雄 | 5 | 10 | 5,710,000 | サワノチカラ, ヤクモタイシ |
| 9 | ペ ル | 第 二 ロ ッ シ ー ニ | 4 | 6 | 4,970,000 | ハヤカブト, パンコウハク |
| 10 | ペ ル | 第 二 オ デ オ ン | 2 | 5 | 4,363,000 | カイリキ, アッパールサ |

昭和52年度賞金受賞ランク

6 才 以上

| 順位 | 馬名 | 血統 | 出走回数 | 着回数 | | | 受賞額 |
|----|--------|----------------------|------|-----|---|---|------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | |
| 1 | ニジョウホウ | ベル重半 鋭初 タ九 | 15 | 5 | 3 | 4 | 17,300,000 |
| 2 | ハクリユウ | ベル系 ベブ 丹第 11 万 | 16 | 4 | 2 | 1 | 9,655,000 |
| 3 | タツマキ | ベル系 ベベ 丹第 11 万 | 21 | 3 | 5 | 7 | 9,295,000 |
| 4 | ハヤツネ | 重半 中半 丹第 一 初 | 21 | 7 | 1 | 3 | 9,020,000 |
| 5 | テツヲカ | ブル重半 鉄若 映ウ | 22 | 6 | 1 | 3 | 8,878,000 |
| 6 | ハヤブサ | ベル中半 ベ中 映ウ | 19 | 3 | 3 | 1 | 7,493,000 |
| 7 | コマバ | ベル ベル 愛 ンブ | 15 | 2 | 4 | 3 | 7,150,000 |
| 8 | レイショウ | ベル中半 丹初 | 16 | 5 | 1 | 0 | 5,970,000 |
| 9 | シンザンオー | ベル重系 ベ重 ア第 3 玉 | 17 | 5 | 3 | 2 | 5,905,000 |
| 10 | ダイニチグサ | 重半 重系 東卯 | 17 | 5 | 3 | 3 | 5,440,000 |

4 ・ 5 才

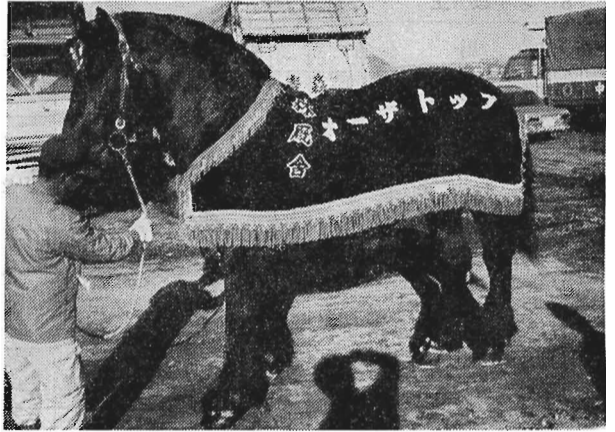
| 順位 | 馬名 | 血統 | 出走回数 | 着回数 | | | 受賞額 |
|----|----------|------------------------------|------|-----|---|---|-----------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | |
| 1 | タイショオ | ベ系中半 朗第 三 夕姫 | 16 | 5 | 3 | 1 | 6,276,000 |
| 2 | キヨヒメ | ベル重系 楓豊 朝栄 | 23 | 3 | 5 | 0 | 5,233,000 |
| 3 | スイショウ | ベル系 ベベ 久姫 | 18 | 5 | 2 | 5 | 5,072,000 |
| 4 | タイヘイボウ | ベル重半 ベ重 得太 平 | 18 | 1 | 5 | 3 | 4,632,000 |
| 5 | ソラチホウシュウ | ベル重半 ベ重 第 2 オデオン | 18 | 3 | 4 | 2 | 4,590,000 |
| 6 | ダイケツ | ブル重半 ブル重半 鉄第十世小 | 18 | 2 | 1 | 2 | 4,370,000 |
| 7 | キタノテンリュウ | ブル重半 ブル重半 鉄恵 | 10 | 4 | 1 | 1 | 4,332,000 |
| 8 | サロマシンザン | ベル重半 2世 ナ ロッシ ニ | 19 | 1 | 4 | 3 | 3,917,000 |
| 9 | タカラリュウ | ベル中半 2世 ハ ロッシ ニス | 13 | 3 | 0 | 1 | 3,500,000 |
| 10 | アサミドリ | ベル重半 楓宝 朝姫 | 17 | 3 | 3 | 2 | 3,325,000 |

3 才

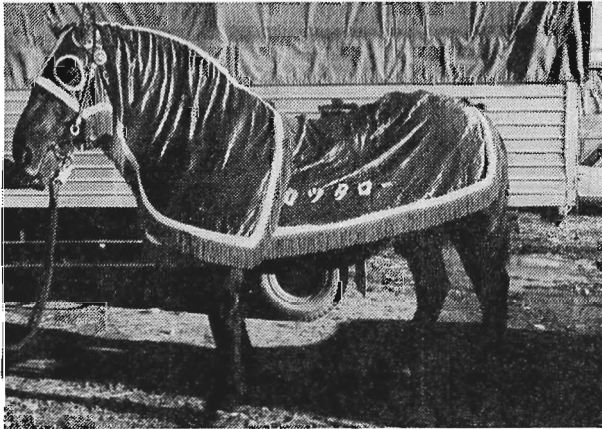
| 順位 | 馬名 | 血統 | 出走回数 | 着回数 | | | 受賞額 |
|----|----------|-----------------------------|------|-----|---|---|-----------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | |
| 1 | ハヤホマレ | ベル中半 2世 初 ロッシ ニ | 15 | 7 | 4 | 3 | 7,850,000 |
| 2 | マサユキ | ブル系 ベ第 二 初 庭姫 | 15 | 5 | 3 | 0 | 5,630,000 |
| 3 | ヒメテツリ | ブル重半 ブル重半 鉄五 鯉月 | 11 | 7 | 1 | 0 | 4,650,000 |
| 4 | ロイヤルセーコ | ブル重半 ブル重半 鉄春 鯉風 | 12 | 4 | 1 | 2 | 4,366,000 |
| 5 | カイリキ | ベル重半 重半 第 2 オデオン | 16 | 4 | 4 | 3 | 3,760,000 |
| 6 | ドラゴンダッシュ | 重半 中半 晏玉 栄錦 | 18 | 2 | 3 | 4 | 3,726,000 |
| 7 | ムツノペア | 中半 中半 豊第 2 初 忝姫 | 18 | 1 | 4 | 2 | 3,450,000 |
| 8 | テツイサミ | ブル ベル 鉄ウルガットの 鯉九 | 15 | 4 | 2 | 1 | 3,345,000 |
| 9 | タカラハヤブサ | ベル中半 2世 連 ロッシ ニ | 15 | 3 | 3 | 2 | 3,315,000 |
| 10 | クインエリザベス | ブル重半 ブル重半 鉄優 鯉花 | 15 | 2 | 2 | 2 | 3,125,000 |

52年度 引 退 馬 (表彰馬)

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | 359,000 |
| 45 | 161,500 |
| 46 | 223,500 |
| 47 | 489,000 |
| 48 | 595,000 |
| 49 | 1,060,000 |
| 50 | 1,175,000 |
| 51 | 725,000 |
| 52 | 422,000 |
| 計 | 5,210,000 |



オーザトップ号



カツタロー号

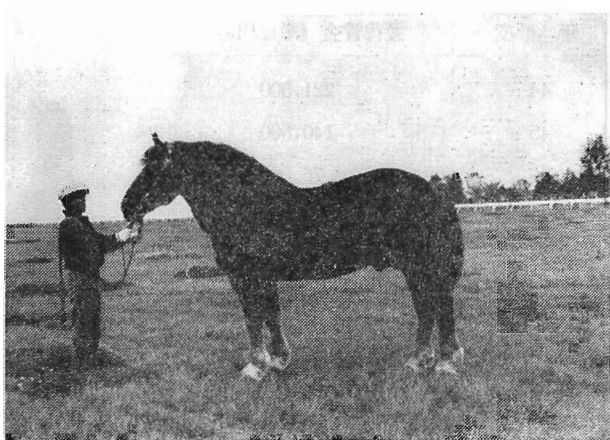
| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | 694,000 |
| 47 | 2,734,000 |
| 48 | 5,991,000 |
| 49 | 6,020,000 |
| 50 | 7,014,000 |
| 51 | 3,397,000 |
| 52 | 3,670,000 |
| 計 | 29,520,000 |

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | 262,000 |
| 45 | 148,000 |
| 46 | 514,000 |
| 47 | 869,000 |
| 48 | 2,422,000 |
| 49 | 2,570,000 |
| 50 | 3,257,000 |
| 51 | 3,924,000 |
| 52 | 3,235,000 |
| 計 | 17,201,000 |

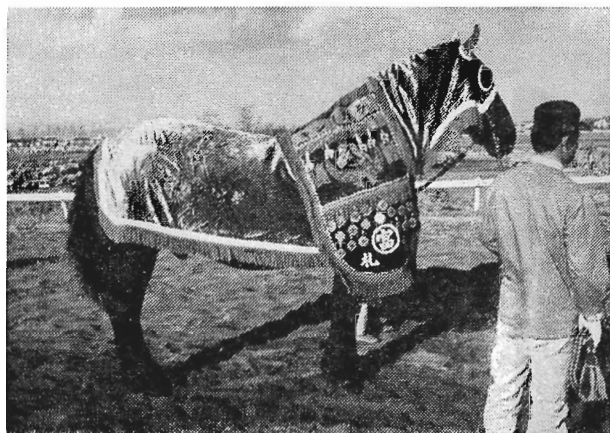


カネイサミ号

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | 659,000 |
| 45 | 343,000 |
| 46 | 456,000 |
| 47 | 941,000 |
| 48 | 1,121,000 |
| 49 | 1,246,000 |
| 50 | 1,701,000 |
| 51 | 1,685,000 |
| 52 | 922,000 |
| 計 | 9,074,000 |



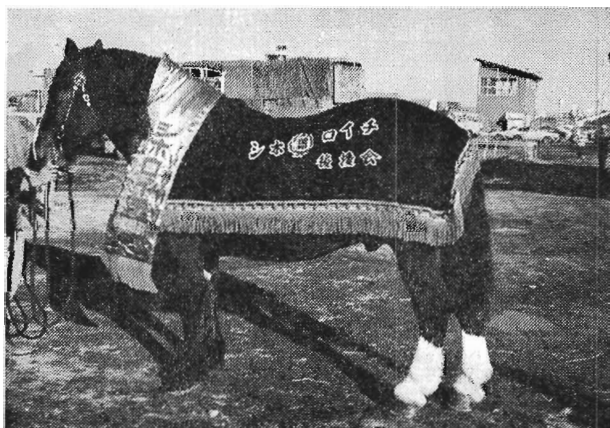
カミチカオ号



キンタカラ号

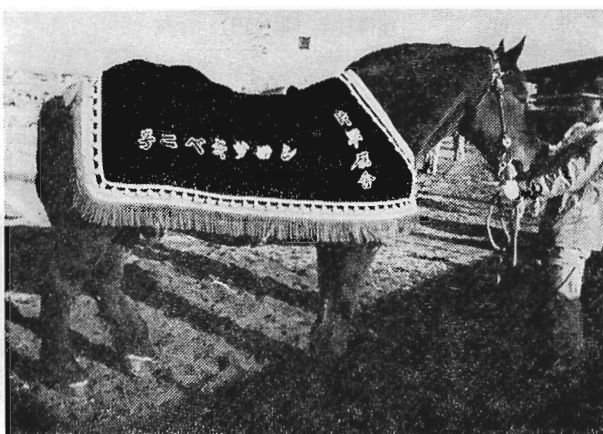
| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | — |
| 47 | 1,008,000 |
| 48 | 1,381,000 |
| 49 | 4,976,000 |
| 50 | 3,149,000 |
| 51 | 1,955,000 |
| 52 | 3,384,000 |
| 計 | 15,853,000 |

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | 685,000 |
| 45 | — |
| 46 | 241,000 |
| 47 | 311,500 |
| 48 | 644,000 |
| 49 | 1,108,000 |
| 50 | 1,640,000 |
| 51 | 1,533,000 |
| 52 | 1,074,000 |
| 計 | 7,236,500 |

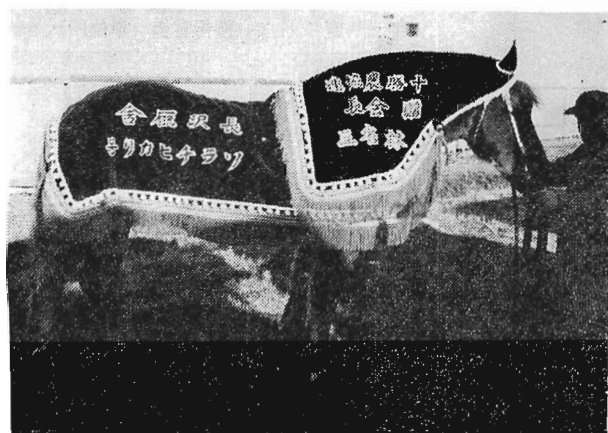


シホロイチ号

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | 221,500 |
| 45 | 140,500 |
| 46 | 76,000 |
| 47 | 234,000 |
| 48 | 680,000 |
| 49 | 1,636,000 |
| 50 | 1,695,000 |
| 51 | 634,000 |
| 52 | 478,000 |
| 計 | 5,795,000 |



シロサキベニ号



ソラチヒカリ号

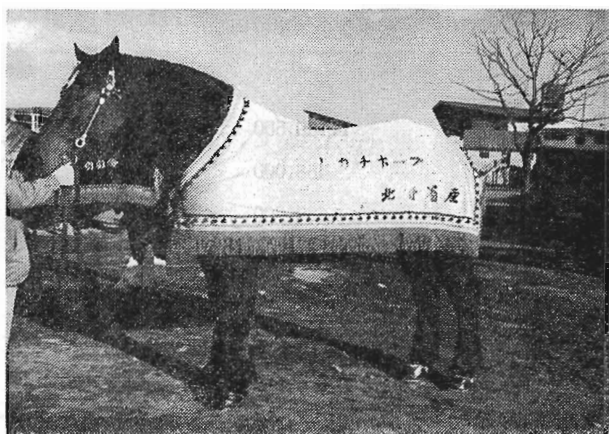
| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | 301,000 |
| 45 | 261,500 |
| 46 | 537,500 |
| 47 | 1,153,000 |
| 48 | 562,000 |
| 49 | 560,000 |
| 50 | 770,000 |
| 51 | 1,141,000 |
| 52 | 669,000 |
| 計 | 5,955,000 |

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | — |
| 47 | 129,000 |
| 48 | 403,000 |
| 49 | 414,000 |
| 50 | 670,000 |
| 51 | 880,000 |
| 52 | 415,000 |
| 計 | 2,911,000 |

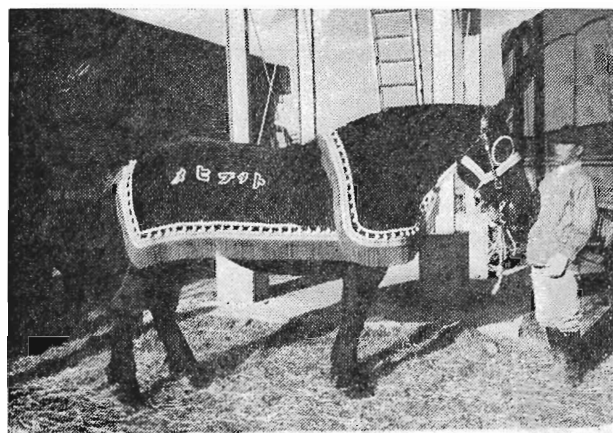


トウマイチ号

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | |
| 45 | — |
| 46 | 220,000 |
| 47 | — |
| 48 | — |
| 49 | 482,000 |
| 50 | 1,025,000 |
| 51 | 1,917,000 |
| 52 | 1,436,000 |
| 計 | 5,080,000 |



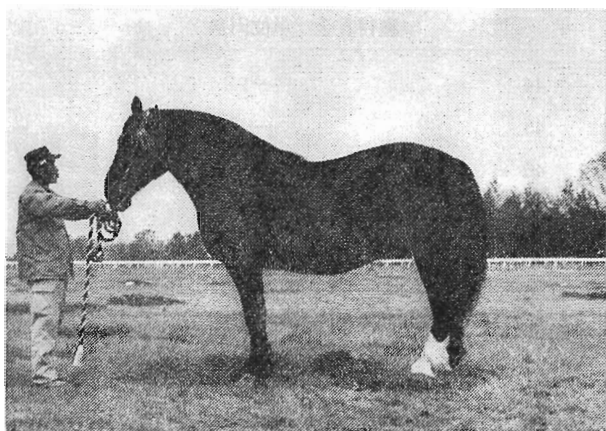
トカチホープ号



トップヒメ号

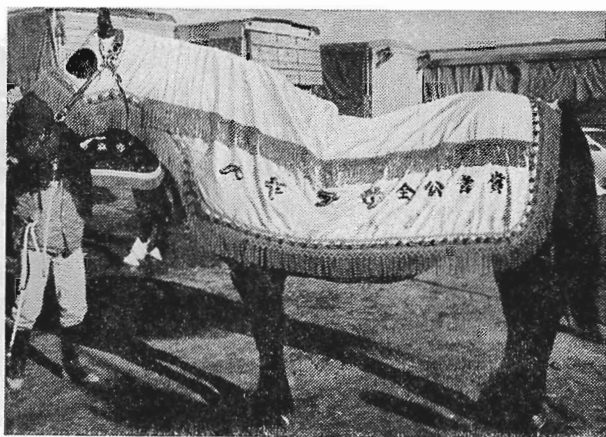
| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | 210,500 |
| 47 | 233,000 |
| 48 | 331,000 |
| 49 | 897,000 |
| 50 | 1,165,000 |
| 51 | 3,687,000 |
| 52 | 425,000 |
| 計 | 6,948,500 |

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | |
| 45 | — |
| 46 | — |
| 47 | 849,000 |
| 48 | 1,558,000 |
| 49 | 5,521,000 |
| 50 | 6,989,000 |
| 51 | 6,896,000 |
| 52 | 17,300,000 |
| 計 | 39,113,000 |

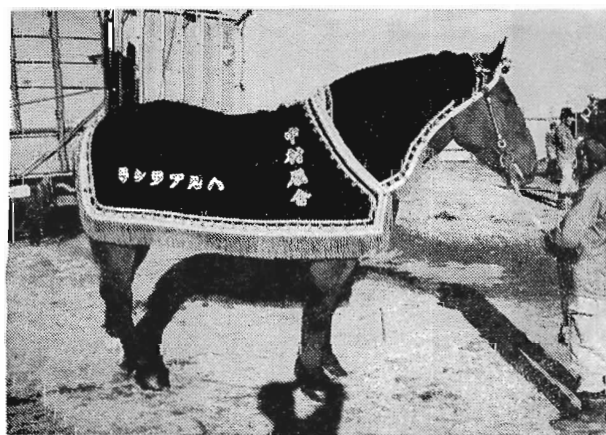


ニジョウホウ号

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | |
| 45 | 1,189,500 |
| 46 | 468,000 |
| 47 | 689,000 |
| 48 | 1,841,000 |
| 49 | 3,248,000 |
| 50 | 3,296,000 |
| 51 | 5,040,000 |
| 52 | 7,493,000 |
| 計 | 23,264,500 |



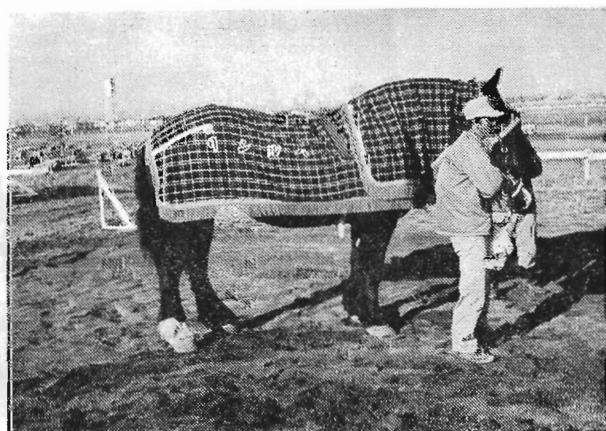
ハ ヤ ブ サ 号



ハ ル ア ラ シ 号

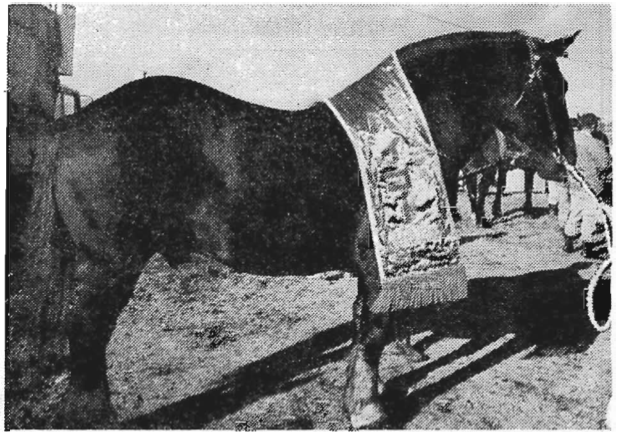
| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | 70,000 |
| 47 | 399,000 |
| 48 | 811,000 |
| 49 | 1,141,000 |
| 50 | 1,030,000 |
| 51 | 1,108,000 |
| 52 | 1,957,000 |
| 計 | 6,516,000 |

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | 46,000 |
| 47 | 302,000 |
| 48 | 599,000 |
| 49 | 1,581,000 |
| 50 | 1,395,000 |
| 51 | 1,320,000 |
| 52 | 1,681,000 |
| 計 | 6,924,000 |

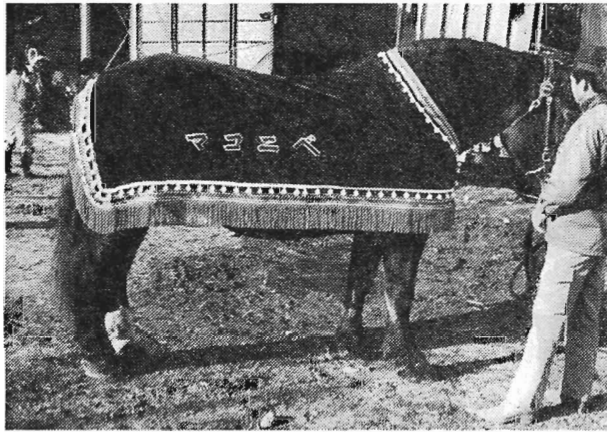


ハ ル シ リ 号

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | 108,000 |
| 46 | 260,000 |
| 47 | 351,500 |
| 48 | 976,000 |
| 49 | 1,625,000 |
| 50 | 1,668,000 |
| 51 | 269,000 |
| 52 | 929,000 |
| 計 | 6,186,500 |



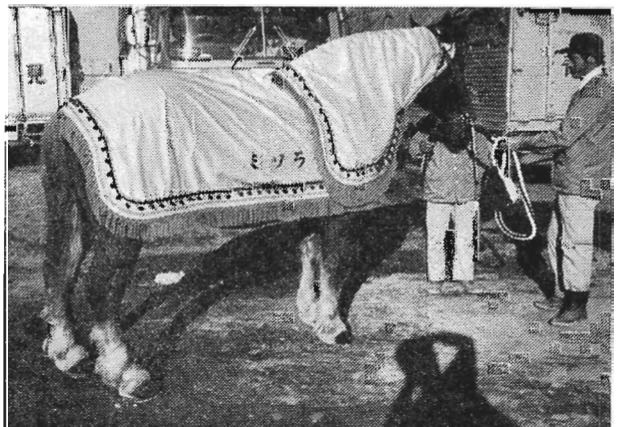
バ イ コ ー 号



ベ ニ コ マ 号

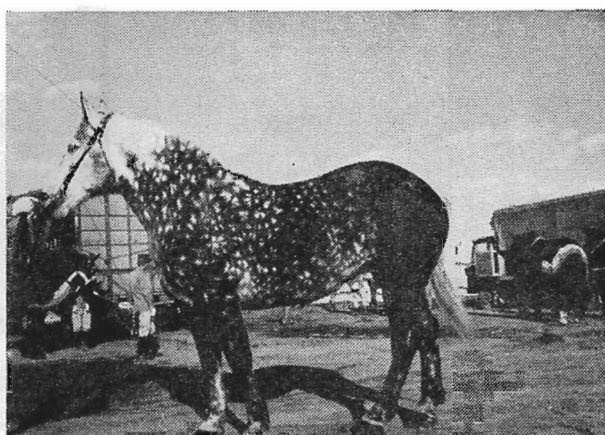
| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | 166,500 |
| 46 | — |
| 47 | 424,000 |
| 48 | 373,000 |
| 49 | 853,000 |
| 50 | 1,000,000 |
| 51 | 1,795,000 |
| 52 | 562,000 |
| 計 | 5,173,500 |

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | 84,000 |
| 47 | 268,000 |
| 48 | 356,000 |
| 49 | 527,000 |
| 50 | 1,156,500 |
| 51 | 538,000 |
| 52 | 714,000 |
| 計 | 3,643,500 |

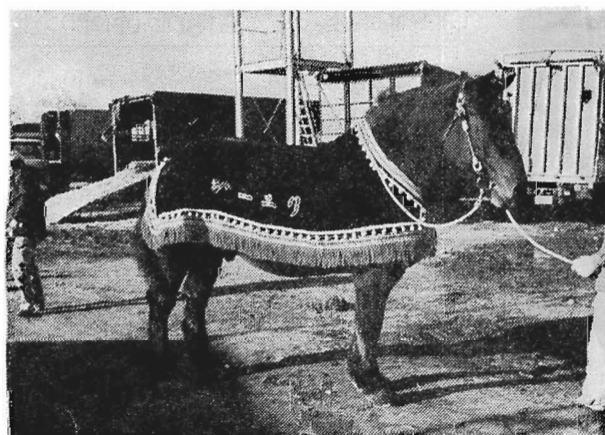


ミ ソ ラ 号

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | — |
| 47 | 299,000 |
| 48 | 761,000 |
| 49 | 1,311,000 |
| 50 | 1,200,000 |
| 51 | 1,081,000 |
| 52 | 258,000 |
| 計 | 4,910,000 |



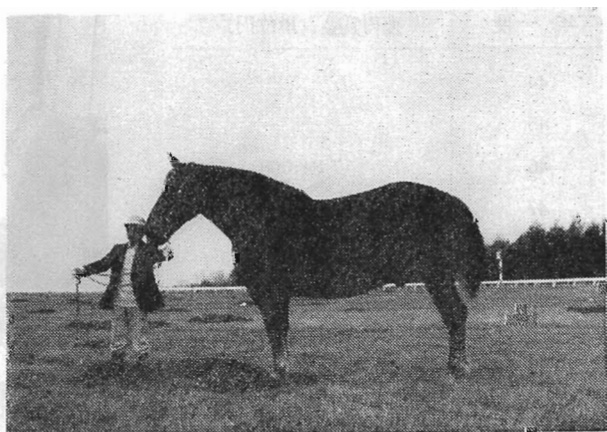
ヤ ス ヒ メ 号



ヨ シ イ チ 号

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | — |
| 45 | — |
| 46 | 93,000 |
| 47 | 178,000 |
| 48 | 585,000 |
| 49 | 1,526,000 |
| 50 | 2,894,000 |
| 51 | 2,685,000 |
| 52 | 3,295,000 |
| 計 | 11,256,000 |

| 年 度 | 獲得賞金 (単位円) |
|-----|------------|
| 44 | 238,000 |
| 45 | 98,000 |
| 46 | 162,000 |
| 47 | 256,000 |
| 48 | 270,000 |
| 49 | 437,000 |
| 50 | 959,000 |
| 51 | 810,000 |
| 52 | 905,000 |
| 計 | 4,135,000 |



リ ュ ー ジ 号

昭和52年度市営競馬成績

| 主催者 | 期別 | 売得金額 | 1日平均 | 賞金額 | 入場人員 | 1日平均 |
|------|----|----------------|-------------|-------------|---------|-------|
| 帯広市 | 1 | 1,059,809,900 | 176,634,983 | 38,741,000 | 34,197 | 5,699 |
| | 2 | 918,817,300 | 153,136,212 | 39,368,000 | 25,070 | 4,178 |
| | 3 | 1,166,755,000 | 194,459,167 | 49,685,000 | 27,780 | 4,630 |
| | 4 | 1,088,260,500 | 181,376,750 | 48,355,000 | 23,594 | 3,932 |
| | 5 | 1,761,256,500 | 293,542,750 | 64,315,000 | 34,224 | 5,704 |
| | 計 | 5,994,899,200 | 199,829,973 | 240,464,000 | 144,865 | 4,829 |
| 旭川市 | 1 | 1,280,083,900 | 213,347,317 | 45,125,000 | 32,215 | 5,369 |
| | 2 | 1,439,343,800 | 239,890,633 | 45,923,000 | 32,843 | 5,473 |
| | 3 | 1,416,435,100 | 236,072,517 | 54,359,000 | 32,914 | 5,485 |
| | 4 | 1,584,469,300 | 264,078,217 | 65,835,000 | 35,740 | 5,956 |
| | 計 | 5,720,332,100 | 238,347,171 | 211,242,000 | 133,712 | 5,571 |
| 北見市 | 1 | 740,154,300 | 123,359,050 | 35,378,000 | 18,114 | 3,019 |
| | 2 | 1,022,462,300 | 170,410,383 | 37,886,000 | 25,135 | 4,189 |
| | 3 | 996,377,600 | 166,062,933 | 40,945,000 | 23,957 | 3,992 |
| | 4 | 1,224,071,000 | 204,011,833 | 48,545,000 | 27,557 | 4,592 |
| | 計 | 3,983,065,200 | 165,961,050 | 162,754,000 | 94,763 | 3,948 |
| 岩見沢市 | 1 | 687,203,400 | 114,533,900 | 43,035,000 | 19,023 | 3,170 |
| | 2 | 901,203,200 | 150,200,533 | 47,272,000 | 23,217 | 3,869 |
| | 3 | 903,853,400 | 150,642,233 | 47,994,000 | 20,894 | 3,482 |
| | 4 | 1,849,531,400 | 308,255,233 | 54,967,000 | 47,336 | 7,889 |
| | 計 | 4,341,791,400 | 180,907,975 | 193,268,000 | 110,470 | 4,603 |
| 合計 | | 20,040,087,900 | 196,471,450 | 807,728,000 | 483,810 | 4,743 |

昭和52年度道営競馬成績

| 競馬場 | 期別 | 売得金額 | 1日平均 | 賞金額 | 入場人員 | 1日平均 |
|-----|----|----------------|-------------|---------------|---------|--------|
| 岩見沢 | 1 | 1,763,761,200 | 293,960,200 | 67,374,000 | 56,572 | 9,428 |
| | 2 | 1,508,239,600 | 251,373,266 | 66,937,000 | 39,130 | 6,521 |
| | 3 | 1,193,247,000 | 198,874,500 | 71,934,000 | 27,671 | 4,611 |
| | 4 | 1,717,190,800 | 286,198,467 | 87,134,000 | 35,552 | 5,925 |
| | 5 | 1,678,119,600 | 335,623,920 | 64,448,000 | 34,434 | 6,886 |
| | 計 | 7,860,558,200 | 271,053,731 | 357,827,000 | 193,359 | 6,668 |
| 旭川 | 1 | 608,945,600 | 101,490,933 | 64,942,000 | 17,448 | 2,908 |
| | 2 | 805,517,400 | 134,252,900 | 71,470,000 | 22,075 | 3,679 |
| | 3 | 819,805,600 | 136,634,266 | 72,865,000 | 18,802 | 3,133 |
| | 4 | 927,335,000 | 154,555,833 | 80,503,000 | 22,268 | 3,711 |
| | 計 | 3,161,603,600 | 131,733,483 | 289,780,000 | 80,593 | 3,358 |
| 帯広 | 1 | 754,366,200 | 125,727,700 | 75,354,000 | 21,282 | 3,547 |
| | 2 | 819,081,400 | 136,513,566 | 75,335,000 | 22,141 | 3,690 |
| | 3 | 922,956,400 | 153,826,066 | 81,947,000 | 22,105 | 3,684 |
| | 4 | 1,440,716,000 | 240,119,333 | 83,885,000 | 36,086 | 6,014 |
| | 計 | 3,937,120,000 | 164,046,600 | 316,521,000 | 101,614 | 4,233 |
| 札幌 | 1 | 2,942,174,400 | 490,362,400 | 78,071,000 | 79,073 | 13,178 |
| | 2 | 3,485,136,600 | 580,856,100 | 92,549,000 | 88,134 | 14,689 |
| | 3 | 3,334,373,400 | 555,728,900 | 96,938,000 | 76,419 | 12,736 |
| | 4 | 4,100,253,000 | 683,375,500 | 114,779,000 | 96,116 | 16,019 |
| | 計 | 13,861,937,400 | 577,580,725 | 382,337,000 | 339,742 | 14,155 |
| 合計 | | 28,821,219,200 | 285,358,606 | 1,346,465,000 | 715,308 | 7,082 |

(注 岩見沢第5回は開催日数5日間)

昭和52年度リーディングトレーナー (11.7メ)



島 中

| 順位 | 調教師名 | 勝率(1着回数/出走延回数) |
|----|------|----------------|
| 1 | 島中芳勝 | 0.196 |
| 2 | 山本俊一 | 0.179 |
| 3 | 重田清 | 0.161 |
| 4 | 松井浩 | 0.161 |
| 5 | 石川重吉 | 0.161 |



山 本

昭和52年度リーディングジョッキー (11.7メ)



金 山

| 順位 | 騎手名 | 得点 | 1着 | 2着 | 3着 |
|----|------|-----|----|----|----|
| 1 | 金山明彦 | 532 | 97 | 82 | 77 |
| 2 | 木村卓司 | 441 | 78 | 69 | 69 |
| 3 | 水上勲 | 438 | 79 | 70 | 61 |
| 4 | 工藤正男 | 419 | 77 | 65 | 58 |
| 5 | 山田勇作 | 329 | 56 | 57 | 47 |

※得点は1着, 2着, 3着をそれぞれ3点, 2点, 1点として計算する。



木 村

昭和53年度市営競馬日程表(案)

■北見 ■旭川 ▨帯広 □岩見沢

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 4月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |
| 5月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| 6月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |
| 7月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| 8月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| 9月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |
| 10月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| 11月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |

和53年 4 月

幌市北区北10条西 4 丁目畜産会館 2 階 (TEL) 代表742-5345